

2025年度 JICA中国・四国
教師海外研修 —ラオス—

授業実践報告書



はじめに

全世界196カ国のうち開発途上国と呼ばれる国は未だ140カ国以上もあり、それらの課題を解決する必要があります。また、日本を含めた世界と開発途上国の関係性が高まり、我々の身近な存在になってきています。それらの国の現状や課題、あるいは歴史的背景や先進国との関係などを知らずして、世界の今は語れません。多様な民族、言語、文化、暮らし、考え方、宗教などがあることに興味を持つ好奇心と、その多様性や違いを尊重する謙虚な姿勢と寛容な精神がないと、グローバル人材は育成できません。一方、開発途上国に、日本との共通点を意外に多く発見し、共感することで、開発途上国をより身近に感じることもあります。開発途上国の現状を知ることで、日本や郷土のことを、新たな視点で振り返るきっかけになることもあります。

独立行政法人国際協力機構（JICA：ジャイカ）は、開発途上国における事業で培った経験と人材を活用し、日本国内の国際理解教育、ESD（持続可能な開発のための教育）の発展に寄与するための活動として「開発教育支援事業」に長年にわたり積極的に取り組んできました。開発途上国の抱える問題に関心を持ち、全国の小・中・高等学校・特別支援学校において国際理解教育に取り組んでおられる、または今後それらに取り組むことを考えておられる教員の方を対象に実施してきた「教師海外研修」もその事業のひとつです。参加される教員の方々には、開発途上国の社会の実情や文化・習慣などを肌で感じ、JICAが実施する国際協力の現場視察を通じて、開発途上国のみならず世界共通の問題や日本と世界の国々の関わりを理解していただき、その学びや知見を日本で待つ子どもたちに還元していただくことを目的として実施しています。

今年度は中国4県・四国3県から計10名の先生方がラオス人民民主共和国を訪問され、この海外研修での気づき、そして渡航前後に実施した国内研修での学びをそれぞれの授業に活用されました。先生方が現地感じたこと、その成果として行った授業実践の内容をまとめたものが本報告書です。本冊子が参加された先生方のみならず、「持続可能な社会の作り手」である児童生徒と日々向き合っておられる教職員の皆さまにとっても参考となりましたら幸いです。

独立行政法人 国際協力機構

中国センター 所長 村岡 啓道
四国センター 所長 田村えり子

目 次

研修国概要	3
教師海外研修概要	4
海外研修（ラオス）日程	6
海外研修レポート	7
コラム「私の1枚」	18

授業実践報告

小学校

- 「地球を守ろう！大作戦」～私たちの生活と「水」～
第4学年 鳥取県米子市立住吉小学校 24
総合的な学習の時間 青山 航大
- 「知る」のその先へ～ラオスとヒロシマ、「過去」と「現在」そして「自分」をつなごう～
第5学年 広島県広島市立観音小学校 35
総合的な学習の時間・道徳・国語 川崎 悠
- 世界とつながる日本～国際協力について考えよう～
第5学年 香川県高松市立円座小学校 51
総合的な学習の時間 四宮 健
- 伝えよう自分の生き方～自分の幸せについて考えよう～
第6学年 香川県三木町立田中小学校 64
総合的な学習の時間 金井 彩夏

中学校

- 日本の学校ってどんな感じ？（NEW CROWN 1 Lesson6 Goal Activityより）
第1学年 岡山県里庄町立里庄中学校 72
英語 佐藤 郁弥
- 国際協力って何だろう？
第1.2学年 岡山県和気町立和気中学校 78
道徳 原田 真木子
- 「ラオスから考える国際協力ー公正な世界の見方と日本のODAー」
第3学年 徳島県神山町立神山中学校 86
社会科・道徳科 塚本 拓也
- 平和な社会の実現のために必要なこと～戦後80年を機に改めて考える～
全校生徒 山口県山口市立二島中学校 92
社会科 西村 友貴

高等学校

- ラオスと比較して学ぶ、郷土の地学
第3学年 山口県立防府西高等学校 104
理科 神田橋 知成
- 多文化共生社会に生きる私たちの生き方
全校生徒（2・3学年のみ） 愛媛県立北宇和高等学校三間分校 115
HR活動・総合的な探究の時間・国語 飛鷹 奏多

コラム「先生たちに伝えたい！」	129
-----------------	-----

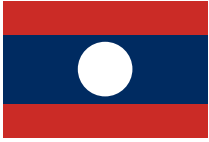
※各章の「参考文献・引用資料」にある動画および資料のURLは本冊子作成時（2026年2月）のもので

※記載内容は執筆者個人の見解であり、所属校およびJICAの見解を代表するものではありません。

★本報告書はJICA中国HPでも公開しています。



JICA中国HP



研修国概要

ラオス人民民主共和国

(Lao People's Democratic Republic)



- 首 都：ビエンチャン
- 面 積：24万平方キロメートル（日本の約3分の2）
- 人 口：758万2,000人（2023年、ラオス統計局）
- 政 体：人民民主共和制
- 民 族：ラオ族（全人口の約半数以上）を含む計50民族
- 言 語：ラオス語
- 宗 教：仏教
- 気 候：熱帯モンスーン気候に属し、高温多湿で雨季（5～10月）と乾季（11月～4月）がはっきりしている。
ビエンチャンの年平均気温は乾季22.1℃、雨季28℃
- 通 貨：キープ（Kip） 10,000キープ＝約72円（2026年2月）
- 一人あたりGDP：2,067ドル（2023年、ラオス統計局）
- 主要産業：サービス業（GDPの約36%）、農業（約21%）、鉱工業・エネルギー（約32%）、製品及び輸入に係る税（約11%）（2023年、ラオス計画投資省）
- 主要貿易相手国：タイ、中国、ベトナム 他（2021年、ラオス商工業省）

<日本との関係>

- 伝統的に良好な関係。1955年に外交関係を樹立し、2025年3月に70周年を迎えた。2025年1月に両国関係は包括的戦略的パートナーシップ関係に格上げされた。
- 在留邦人数：618人（2024年10月、海外在留邦人数調査統計）
- 在日ラオス人：4,205人（2025年6月、出入国在留管理庁発表）
- 文化関係：日本は1976年より文化無償協力案件を実施。文化遺産保存、スポーツ交流、人物交流等の文化交流も拡大中。
- 経済関係：日本の輸出 約246.1億円… 車両、車両部品、電気機器・部品、合成繊維、トラクター、電線・ケーブル 等
日本の輸入 約162億円…… 靴・靴関連、電気機器・部品、衣類、香水・化粧品、羽毛、バナナ 等
(いずれも2023年、ラオス商工業省)

日本からの投資：コンサルティング、縫製・部品製造業、電力 等（2023年、ラオス商工業省）

- 日本の援助実績（2022年度まで）：

(1) 有償資金協力	484.36億円
(2) 無償資金協力	1,776.51億円
(3) 技術協力	871.83億円
- （2026年2月付 外務省ホームページ「国・地域」(ラオス)より）

教師海外研修概要

JICAの開発教育支援事業

グローバル化が進む現在、地球に暮らす私たちが自ら足元を見つめ直し、日本を含めた国際社会が抱える課題に取り組むことが急務となっています。そのため、国際理解教育や開発教育、持続可能な開発のための教育（ESD）といった取組みを多くの教育機関が実践し、その関心と需要はますます高まっています。

また、学習指導要領では「持続可能な社会の創り手」の育成がうたわれ、多様な価値観・生活習慣をもつ人々と国内外で共存できるよう、児童・生徒が互いの文化を理解し、尊重し合い、違いを認められるなど、新たな社会で生きていくために必要な資質・能力を育むことが求められています。

国際協力活動は主に開発途上国の現場で行われていますが、JICAでは途上国と日本の地域との懸け橋となるべく、国内でも様々な事業を行っています。中でも、長年にわたる国際協力の知見を活用して、小・中・高校や大学、教育委員会や自治体、市民団体などと連携して展開しているのが、「開発教育支援事業」です。

JICAでは、国際協力出前講座、JICA施設訪問、開発教育指導者研修といったプログラムを通じて、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくりを支援しています。教師海外研修は、そのプログラムのひとつです。



教師海外研修とは

●ねらい

本研修は、国際理解教育・開発教育に関心を持つ教員を対象に、実際に開発途上国を訪問し、国際協力の現場を視察することで、途上国の現状や日本との関係性、国際協力への理解を深め、その成果を、学校での授業等を通じて、地球の未来を担う児童生徒への教育に役立ててもらおうことを目的として実施しています。

国内で実施する派遣前・帰国後の研修では、ワークショップ体験などを通じて参加型学習の手法を学び、海外研修での知見をより効果的に還元するための授業づくりのサポートも行います。

帰国後は、教室にいる児童生徒はもちろん、地域において他の教職員や市民にもその経験を発信してもらい、持続的に国際理解教育・開発教育の担い手として活躍していただくこともねらいとしています。

主催：独立行政法人国際協力機構 中国センター（JICA中国）

独立行政法人国際協力機構 四国センター（JICA四国）

後援：外務省、文部科学省

鳥取県教育委員会、島根県教育委員会、岡山県教育委員会、

広島県教育委員会、山口県教育委員会、徳島県教育委員会、

香川県教育委員会、愛媛県教育委員会、高知県教育委員会、

岡山市教育委員会、広島市教育委員会

● 研修のながれ (2025年度)

募集・選考

- 募集 (4月～5月16日)
- 書類選考、結果通知 (5月下旬)
- 面接選考 (5月26日～6月2日)
- 最終結果通知 (6月12日)

派遣前研修

- 6月28日 (土)～29日 (日) 会場：第1セントラルビル1号館 (岡山県岡山市)
- 海外研修について：教師海外研修のねらい、研修日程と訪問先解説、安全管理について
 - 講義：「ラオスの概要、教育事情」
牧 貴愛 氏 (広島大学大学院人間社会学研究科准教授)
「教師海外研修過年度参加者による体験談」
古瀬 由紀子 教諭 (府中町立府中緑ヶ丘中学校/2024年度教師海外研修参加)



海外研修 (ラオス) 8月7日 (木)～16日 (土)

海外研修レポート提出 8月25日 (月)

- 帰国後研修** 8月30日 (土)～8月31日 (日) 会場：第1セントラルビル1号館 (岡山県岡山市)
- ・海外研修で得た資料や情報を参加者全員で共有・整理。参加型手法を改めて学びながら、現地の知見をどう教材化するか考え、授業案を作成。
(助言指導：山中 信幸 氏 (開発教育ファシリテーター・JICA中国・四国教師海外研修アドバイザー))
 - ・教師海外研修過年度参加教員 (2024年度) による講義。授業実践への事前準備、テーマ設定や児童・生徒の様子、周囲の教職員の反応や今後の課題などを共有し、参加教員の授業案作成へのアドバイスも行う。
(発表者：岡崎 麻央 教諭 (高知市立昭和小学校)、末村 和也 教諭 (山口市立大内中学校)
仁木 敦子 教諭 (徳島県立徳島中央高等学校))

所属校での授業実践 9月～2026年1月



授業実践報告書提出 2026年1月13日 (火)

- 授業実践共有会** 2026年1月24日 (土) 会場：岡山コンベンションセンター
海外研修参加者全員が所属校で行った授業内容、児童生徒の変容や課題などを報告。
- 授業実践報告会** 2026年1月25日 (日) 9:30～13:00
会場：岡山コンベンションセンター
一般参加者20名を対象に開催。ラオス研修の報告、小・中・高校の教員が行った授業をワークショップ形式で実施。



海外研修(ラオス)日程

研修テーマ：SDGsの視点からラオスの課題を考える

日程	時間	内 容	宿 泊
8月7日 (木)	午前	福岡空港を出発、タイ・バンコク経由でラオスへ	
	夜	ラオスの首都ビエンチャンのワットタイ国際空港に到着	
8月8日 (金)	午前	【JICA事業視察】 教育スポーツ省訪問 「ラオス国 初等教育における算数学習改善プロジェクト (iteam2)」(技術協力プロジェクト)	ビエンチャン
	午後	JICAラオス事務所 ブリーフィング	
8月9日 (土)	午前	鉄道にてビエンチャン→ルアンパバーンへ	ルアンパバーン (ロンラオ村 ホームステイ)
	午後	【JICA事業視察】 SVA (公益社団法人シャンティ国際ボランティア会) ルアンパバーン事務所訪問 「初等教育における少数民族児童の指導・学習環境改善事業」(草の根技術協力事業) ロンラオ村にてホームステイ	
8月10日 (日)	昼	ホームステイ終了→ルアンパバーン市内へ	
	午後	【JICA海外協力隊活動視察/市内見学】 ルアンパバーン国立博物館など	
8月11日 (月)	朝	【JICA海外協力隊活動視察】 ルアンパバーン子ども文化センター (CCC) 訪問、子どもとの交流	ルアンパバーン
	午前 ↓ 午後	UXO Lao ルアンパバーン事務所訪問/ UXO Laoが活動する不発弾爆破処理現場を視察	
8月12日 (火)	朝	【JICA海外協力隊活動視察】 ルアンパバーン教員養成校訪問	ウドムサイ
	昼	鉄道にてルアンパバーン→ウドムサイへ	
	午後	【JICA海外協力隊活動視察】 ウドムサイ商工会議所訪問	
8月13日 (水)	午前	【JICA海外協力隊活動視察】 ウドムサイ子ども文化センター (CCC) 訪問、2名のJICA海外協力隊員・子どもとの交流	バンビエン
	午後	鉄道にてウドムサイ→バンビエンへ	
8月14日 (木)	朝 ↓ 午後	【様々なJICA事業を活用した活動視察】 森林トレーニングセンター (FTC) 訪問/エコツアー参加、線香・うちわ作り	ビエンチャン
	午後	バスにてバンビエン→ビエンチャンへ	
8月15日 (金)	午前	【JICA事業視察】 リーガルプロジェクト「法の支配発展促進プロジェクトフェーズ2」(技術協力プロジェクト)	機中泊
	昼	【昼食/JICA事業視察】 「みんなのカフェ」訪問 「知的・発達障害を持つ子供の社会自立を目指したインクルーシブ教育・就労支援の実践 (特定非営利活動法人NPO アジアの障害者活動を支援する会 (ADDP))」(草の根技術協力事業)	
	午後	JICAラオス事務所にて研修報告	
	夜	ビエンチャンのワットタイ国際空港を出発、タイ・バンコク経由で日本へ	
8月16日 (土)	朝	福岡空港着、帰路へ	

海外研修レポート



8月7日(木)

川崎 悠

訪問先

福岡空港→スワンナプーム国際空港(14:55着)→ビエンチャンWattay空港(19:45着)

研修内容

- 出国後、バンコクを経由し、ラオスの首都ビエンチャンから入国
- ホテルチェックイン (Settha Place Hotel)

所感

ラオス。教師海外研修に参加したい!と思ってから、初めてちゃんと地図で見た国。名前は聞いたことがあるけれど、どうやらJICAの青年海外協力隊が最初に派遣された国で、国際協力関係は今年で60周年を迎えるそう。この研修がなかったら、一生知らない国だったかもしれない。そして、今回はただの旅行ではなく、熱い思いを持った10人の仲間とJICA島根デスク舂本さん、山中先生と学び、感じに行く旅。一生体験できない10日間になる。そんなことを胸に秘めながら、前日に福岡空港近くのホテルに集合した。久しぶりの再会に自然と笑顔が生まれる。夕食はメンバー全員で最後(?)の日本食。次の日、いざ福岡空港へ。国際線ターミナルでまず驚いたのが、セルフチェックイン、セルフバックドロップ。長蛇の列を覚悟していたが、困ったらすぐに空港スタッフが丁寧に教えてくださり、あっという間に完了。手荷物預け札は、シールのゴミが出ない工夫、航空チケットは硬い紙から薄いペラペラの紙になっていた。日々進化する日本の技術に驚く。そして、それが単なる便利さだけでなく、安心感やSDGsに繋がっていた。税関を通過すると、免税店は多言語の説明、漂う化粧品の香り。出国前から異国感を五感で感じた。

バンコクへの機内でおやつが出た。袋に書かれた「どらやき」の文字から、日本を思い出したのも束の間、中身はクッキーアンドクリームであった。日本に生まれ、当たり前のように食べてきたどら焼きの中身はあんこである。きっと、海外の人はあんこよりもクッキーアンドクリームの方が馴染みがあって食べやすいのだろう。だが、これはどちらかというホットケーキに近い。どこか、「どらやき」とは認めたくない自分がいた。ただ、日本から母国に帰る旅行客が、この丸くて膨らんだフォルムと「どらやき」の文字を見て、日本のことを思いだし、またいつか行きたいと思わせる力があるならば、素晴らしいおやつである。食べるという行為は、その国、その地域の文化を体に直接取り込み感じることのできる最高の異文化理解の手段。多様性とは何か?日本人としてのアイデンティティーの境界は何によって作られているのか?この「どらやきタイム」は、そんなことを立ち止まって考える貴重な時間になった。

ラオスの首都ビエンチャンに到着し、ホテルに着いたのは21:30。このSettha Place Hotelは、ラオスが元々フランスの植民地だったことを物語る、ヨーロッパの建築技術やデザインと、現地の気候や文化が融合して生まれたフレンチコロニアル様式と呼ばれる建物であった。高い天井、風通しの良い窓、落ち着いた雰囲気のある室内。時差は2時間あるため、日本時間だともう深夜。あっという間にラオス1日目の夜が夢の世界へと変わっていった。



自動化+温かい対応=安心感



どらやきタイム



ホテルでの明日の動きの確認

訪問先

- ①教育スポーツ省
- ②JICAラオス事務所

研修内容

- スポーツ教育省：「ラオス国初等教育における算数学習改善プロジェクト（iteam2）」ワークショップ
見学、質疑応答
- JICAラオス事務所：ラオスにおけるJICA事業についての説明後、ラオスの教育の現状と課題について
長岡教育政策アドバイザーから話を聞いた。

所感

ラオスに到着して初めての見学先である「ラオス国初等教育における算数学習改善プロジェクト（iteam2）」では、プロジェクトの概要を聞いた後、実際にラオスの教員養成学校の教員の研修を見学した。研修で扱っていた内容は「教え込み型からの脱却」、「子どもたちの主体的、協働的な学びの重要性について」が主であった。日本の教育と似ている点や違う点がいくつも感じられた。特に、子どもたちの意見をどのようにつないで考えを深めさせるか教師の力量はとても重要であると改めて感じた。さらに、日本では当たり前に使っている算数ボックスなどの教具も、身近なペットボトルの蓋を使って手作りし、「いかにローコストでありふれたもので教具をつくるか」という言葉を聞いて、自分の当たり前は当たり前ではないと驚き、この研修で自分の固定概念を捨てて学ぼうと思った。

JICAラオス事務所では、田澤さんと長岡さんの話を聞いた。お二人ともラオスについてとてもくわしく教育の現状だけでなく、わたしたちの質問にも丁寧に答えてくださった。多民族国家だからこその課題である言語の修得の難しさや、教員不足をボランティアの教員が支えていたり、国境兵士を活用したりして補っているというラオスの教育の現状を聞いて驚いた。

この日の振り返りでは、一人ずつその日に感じたことや自分の問いを口頭で共有した。この日は、長岡さんが言っていた「国際協力はだれのため？自分たちのためなら、相手に本当に良い支援はできているのか？」という問いについて主に意見が出た。話には、「日本にいと国際協力を自分も身近に感じていなかった。それを子どもたちに伝えたいと思っても、子どもたちも身近に感じるはずがない。」という意見や、「国際協力のあり方は、国それぞれに適したやり方でしていけばいいのでは？繰り返す教育の流行の中で、自分の国の教育のあり方を確立していくのではないか」という意見などそれぞれの所感があった。これからの視察を通して自分の中で「国際協力はだれのため？」の問いの答えをみつけないと心に誓った一日であった。



iteam2の説明



ワークショップ見学



長岡さんによる説明



8月9日(土)

四宮 健

訪問先

- ①SVA（公益社団法人シャンティ国際ボランティア会）ルアンパバーン事務所
- ②ロンラオ村ホームステイ（1日目）

研修内容

- SVALuanPabarn事務所：ラオスの現状と教育課題について、シャンティ国際ボランティア会の取り組みについて知り、特に少数民族児童への効果的な学習支援について学んだ。
- ロンラオ村ホームステイ（1日目）：村長さん、公式ガイドさん案内のもと、カム族の伝統的な建物や風習等について話を伺ったあと、ともに夕食をとったり、会話を交わしたりして現地のカム族の生活を体験した。

所感

SVALuanPabarn事務所では、「人（教員等の研修）」「本（読書推進活動）」「場所（学校建築）」の3本柱で、教育文化支援、緊急人道支援に関わっているシャンティ国際ボランティア会の活動や、ラオスの教育課題について学んだ。ルアンパバーン県だけ取り上げても、県の60%以上は複式学級を行っている、教材や教具が足りず、児童1人1人に教科書が与えられていない状態で授業が行われていることを知った。また、少数民族の児童は、就学前までそれぞれの民族の言葉を用いるだけでよかったが、小学校入学とともに、国の決まりとしてラオ語で学ぶことになり、ラオ語によって書かれた教科書を用いることになる。また、教師が不足しているという実態から、ボランティア教員、さらには、国境付近では兵士教員という人まで現れ、子どもたちの教育に携わっていることを聞いて大変驚いた。

その後、車は山の奥深い所へと進んでいき、カム族とモン族が隣接してともに生活しているロンラオ村を訪れた。到着までは、「1泊2日、無事に過ごせるだろうか。」「コミュニケーションをはかることはできるだろうか。」という不安や緊張でいっぱいだった。到着すると、村長さんをはじめ、村の方々は皆笑顔で我々を迎え入れてくれてほっと安心することができた。村では、ガイドの方とともに、カム族の建物を見学したり、作業（調理）を行っている様子を見学させていただいたりした。途中、急なスコールに見舞われ、予定していたモン族の集落へは向かうことができなかったが、それもまた、東南アジアの国ならではの貴重な経験となった。夜には、村長さんを囲み食事を行った。先ほどまで調理をされていた鶏肉や野菜などがテーブルに並べられ、カオニャンとともに食べるととても美味しかった。日本語が分からない中で、夜分遅くまで、一緒に過ごし我々におもてなししてくださった村長さん、家のオーナーの方の温かい心を実感した。



ラオ語訳された日本の絵本



カム族の家屋の様子



ロンラオ村での夕食

訪問先

- ①ロンラオ村(2日目)
- ②ルアンパバーン国立博物館

研修内容

- ロンラオ村(2日目):村の子どもたちとシャボン玉や折り紙を用いて交流した後、モン族の村に訪問し、伝統的な生活をしている村民から話を聞いた。
- ルアンパバーン国立博物館:宮脇隊員からの博物館紹介の後、ガイドをしてもらいながら見学した。

所感

ロンラオ村の朝はニワトリの鳴き声とともに始まった。ラオス国旗と共産党旗の下で目覚め、慣れない環境下で朝のルーティンを終えた後、村を散策した。弾んだ声の方へ向かうと、先に起きていた先生方が村の子どもたちと遊んでいた。日本から持参したシャボン玉や折り紙で一緒に過ごす中で、子どもたちの屈託のない笑顔がまぶしかった。その後、子どもたちの提案で、木の蔓を使った大縄跳びが始まった。跳び方やルールも日本と同じで、みんなの笑顔があふれた。縄の素材は異なるものの、日本と同じ遊びを楽しむ姿から、遊びの持つ普遍性を感じると同時に、「今の日本の子どもたちはこれほどまでに縄跳びを楽しんでいるだろうか」と考えさせられた。

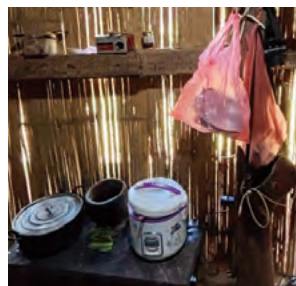
朝食後にはモン族の集落を訪問した。地理の教科書には「熱帯の伝統的な住居は高床で通気性が良い」とあるが、目の前にあった伝統的な住居は窓のない平屋であった。これは「祖先の霊が外に出てしまうから」という理由によるものであり、快適さよりも伝統や言い伝えを重んじる価値観が印象に残った。また、「今の暮らしで十分」という村民の言葉も心に響いた。世界を取りまくスマート化とモータリゼーションの潮流の中、村の伝統的な住居にも電気が通っており、スマートフォンを使う子どももいる。車やバイクの恩恵も受けている。ラオスの農村の「今の暮らし」が今後どのように変容していくかを想像するのは容易ではなかった。

午後には、ルアンパバーン国立博物館を訪れた。ここでは、学芸員として活動する宮脇隊員からガイドを受け、王政から革命、そして現代へと至るラオスの歴史について学んだ。文献や資料が乏しいラオスで、500人の現地ガイドとの人間関係を通じて知識を蓄積していることや、来館者のために自作でゼロからパンフレットを作成したという話を聞き、環境を問わず信念を持って行動し続けることの大切さを強く感じた。宮脇隊員の語りは情熱にあふれており、その生き方から大きなエネルギーを受け取ることができた。

山間部の農村から賑わう観光地へと移動したこの日の研修は「豊かさとは何か」ということを振り返る契機となった。この問いには明確な答えがあるわけではないが、帰国後に生徒たちと一緒に考えを深めていきたいと思った。



ロンラオ村の縄跳び



伝統的な住宅にある炊飯器



博物館での集合写真



8月11日(月)

西村 友貴

訪問先

ルアンパバーン

- ①ワットシェントーン寺院、モーニングマーケット散策、プーシーの丘見学
- ②ルアンパバーン子ども文化センター（CCC）
- ③UXO LAO ルアンパバーン事務所訪問、不発弾処理現場視察

研修内容

- ワットシェントーン寺院、モーニングマーケット散策、プーシーの丘見学等：托鉢体験を行った後、グループに分かれてルアンパバーン市内を散策した。
- ルアンパバーンCCC：JICA海外協力隊久野隊員からCCCの概要やルアンパバーンCCCの現状や課題についての講義の後、子どもたちと歌やダンス、クイズなどで交流した。
- UXO LAO ルアンパバーン事務所、爆発処理現場視察：ラオスにおける不発弾の種類や処理状況などに関する講義や併設されている資料館を見学した後、実際の不発弾処理現場を見学し、最後は不発弾を爆破処理した。

所感

今日は朝5時に集合し、托鉢体験を行った。ルアンパバーンでの托鉢は観光用のエンターテインメントの様相を呈しており、次々とやってくる僧侶に機械的にお菓子やカオニャオ（ラオス主食のもち米）を入れるだけであったが、それでも徳を積んだようなありがたい気持ちを感じることができるとても良い経験となった。

子ども文化センター（CCC）は、ラオス全17県に一つずつあり、子供たちにラオスの伝統文化の継承や青少年の情操教育の補完を目的に作られた施設である。CCCに通う子どもたちは純粋だったが、その背後には貧富の差や栄養不足・偏食の問題、娯楽の少なさに起因するスマートフォン依存が多いなどさまざまな困難や課題を抱えている。その中で協力隊の久野さんは、「すべてはラオスの子どもたちのため」という信念のもと、JICAのみならずルアンパバーンで活動する日本人や観光客も巻き込みながら活動されている。教員とは違う職種で活躍されている久野さんの教育に対する熱意に深く感銘を受けた。説明の後には子どもたちと交流を行った。まず、CCCの子どもたちからダンスや歌のもてなしを受けた。その後は私たちが子どもたちと一緒に〇×クイズとダンスを行った。クイズは全てラオ語ですることに挑戦した。初めはルールが伝わりにくかったが、徐々に気持ちが通じていって楽しむことができた。ダンスはマツケンサンバを子どもたちと一緒に踊った。子どもたちとは言葉の壁はあるかもしれないが、音楽とジェスチャー、そして笑顔でコミュニケーションをとることができた。

UXOでは、ラオスにはたくさんのクラスター弾をはじめとする不発弾が残存していることや9万発を越す不発弾を処理したことを学んだ。資料館では実際の不発弾を見学したり、映像資料を視聴したりして理解を深めた。

見学の後、事務所から車で約1時間の山間部の村の調査現場に向かった。そこは村の水田のすぐ隣で、住民の生活と隣り合っていることを感じた。現場でまず私たちに求められたことは、指示に従うこと、勝手に場所を離れないなどの11の注意事項に対する同意のサインと血液型の記入である。現場には2名の医療スタッフもおり、一気に緊張感が高まった。現場の概要について一通り説明を聞いた後、金属探知機使用体験をした。金属探知機を初めて持ったが、重さは意外と軽かった。金属に反応すると音だけでなく、光と微細な振動で知らせてくれた。その後調査中の現場に入り実際に発見された未処理弾を見せていただいた。それは深さ約20cmのところ埋められた直径数cm程度の小さなものであり、普通に生活し

ていたら絶対に気付かないなと感じた。最後に不発弾の処理の現場に立ち会うことができた。爆破前から村の住民に繰り返し放送をかけていた様子に物々しさを感じた。実際に爆破スイッチを押させてもらうことができた。安全な距離まで離れていたものの、爆破の瞬間は緊張を感じた。そして大きな音がることを予測していたが、想像を超える爆発音が衝撃だった。爆破スイッチを押した先生に感想を聞いた。起爆装置のボタンを押せば爆発することはわかっていたが実際に押す瞬間には恐怖を感じたそうだ。

ラオスでの戦争は約50年前に終わったが、ラオス人にとっての戦争はまだ終わっていないなと感じた。世界一の被爆国ラオスと核兵器被爆国日本、2つの国の歴史から平和について深く追求していけるのではないかと感じた1日だった。



托鉢の様子



ルアンパバーン CCC での子ども達との交流の様子



ルアンパバーン CCC での記念写真



不発弾処理現場での様子



8月12日 (火)

神田橋 知成

訪問先

- ①ルアンパバーン教員養成校 ②ウドムサイ商工会議所

研修内容

- ルアンパバーン教員養成校：ラオスの小学校教育についての講義を受けた後、TTC（教員養成校）付属校とTTCの見学を行った。
- ウドムサイ商工会議所：ウドムサイ商工会議所での取り組みについて講義を受けた後、実際にラオスの特産品を用いた商品の製造、販売の現場を見学した。

所感

ルアンパバーン教員養成校の付属校を訪れた際、老朽化の進んだ建物が目立ち、日本のいわゆる付属校との大きなギャップを感じた。そんな付属校の一室で行われた講義では、協力隊の大加隊員より、主に日本とラオスの教育の比較という観点から、ラオス初等教育の実情について学んだ。まず、日本とラオスの教育の共通点といえば、研修2日目で学んだように、算数の教科書の内容が同じ、といったくらいだそう。裏を返せば、それ以外は日本の教育と異なっているとのことである。例えば、教科書を使って授業ができないことや、複式学級が増えてしまっていること、紙が大変貴重なものであること、などである。日本教育の「ふつう」と比較すると、ずいぶん違った様相である。これらを受けて、講義の最後に大加隊員がおっしゃった、「自国の教育を他国が担うって怖くないですか？」という問いかけは、それまで自分が抱いていた開発途上国への支援の在り方を考えさせられるものであった。人助けは良いことだから積極的に支援すべきという旧態依然とした考えから、その国の国民性を考慮せず支援を行ってしまうことの危うさを感じるようになるきっかけとなった。

ルアンパバーン教員養成校を後にして、ラオス中国鉄道で北部のウドムサイに移動した。道中、焼畑の跡が残る山々や、山の麓に整備された棚田を眺め、農業文化の違いが見せる自然景観の美しさを堪能することができた。

ウドムサイ商工会議所では、岡田隊員から、ラオスの産業分野における特産品を生かしたコミュニティ開発についてお話を伺った。ここでの取り組みの根元には、「多様性のある発展を」というコンセプトがあるそうだ。確かに、それまでの研修でも、ラオスにしかない良さを見てきた。岡田隊員は、そのようなラオスの「強み」を生かした発展を目指しているらしい。その一方で、日本でも課題として存在する、安く品質の良い海外製品の流入という壁が立ちはだかっているそうだ。我々が享受している便利さの裏側には、環境負荷の問題や文化保全の観点からの危機をもたらしているということを改めて痛感した。そのほか、起業家精神が育ちにくい風土などのラオス特有の課題とも闘いながら奔走されている協力隊の方々の姿も、ぜひ日本の生徒に伝えたいと感じた。

以上のように、この日は教育界と産業界の2つの視点から、ラオスをとらえることができた。その中で「ラオスにはラオスの本質的魅力があること」と「国民を考慮せず安易に外的援助を行うことの危うさ」を痛感した。この、開発途上国への支援の在り方への気づきは、自分自身の教育の在り方にも置き換えることができるのではないだろうか？帰国後も考え続けたい。



TTC 付属校の教室



TTC での教員研修の様子



ラオスの特産品販売

訪問先

ルアンパバーン教員養成校・附属小学校、附属中学校

研修内容

- 大加隊員の取り組みについて、ラオスの教育事情について
教員の人材不足や所得、厳しい教育現場の環境について話を聞いた。
- 実際に学校の授業、並びに教員養成校の見学
初等教育、中等教育、そして教員養成校の様子を見学した。

所感

1日を終えて、「豊かな生活」「幸せ」とは何かについて改めて考えた。大加隊員の話から、小学校では複式学級で学ぶ生徒が多いこと、複数の民族が同じ教室で言語も分からないままに学んでいること、新しいことを学習するための教科書が一人に一冊ないこと、そして、教員が十分に足りていないことなど、発展途上国の教育環境がこれほどにも困難な状況にあることに衝撃を受けた。どの点を挙げてもラオスの教育現場は日本の教育現場と比べて、かなり劣った条件に置かれていることが分かった。しかし、授業に参加している生徒の表情は明るく、前向きにそして楽しんで学ぼうとしている様子が見られた。教室掲示を見回してみると、名簿のようなものにぎっしりと数字が書き込まれていた。他にも、英語の月の掲示物や、数字の掲示物など、学びの復習につながる掲示も多く見られた。担任の先生の生徒全員を認め評価しようとしている、細やかな生徒指導も見られた。登校していたのは夏期講習で集まっていた生徒たちだったが、友達に会うために学校に来ている生徒も少なからずいるのだろうか考えると少し温かい気持ちになった。教員養成校では、教員を目指すたくさんの学生が4人がけの席で意見交換をしていた。全員が担任の方を向いて学習しているのではなく、手元のタブレットや携帯を使ってグループワークのような形で学習をしていた。ここでも学生の主体性に委ねる、教え込みではない学習方法がとられているのではないかと考えた。

教育は文化だ、というフレーズをこの研修中に何度も聞いた。大加隊員の話の中に、ラオスは自国の教育を他国が担う形になっているという内容の話があったが、事前に学習したラオスの歴史的背景と照らし合わせると納得することができた。ラオスが抱える問題は、教育に関わる部分だけでなく、インフラや環境問題など、数え切れないほどたくさんあるが、隣国やその他の組織から支援を受けて少しずつ変わりつつある。10日あまりの滞在だったが、ラオスに愛着を覚えた自分自身、前向きに捉えたいと思った。今

後ラオスの人々が自国の良さを正しく理解し、どのように生かすかを考え、持続可能な形で残していくことが大事だと感じたのと同時に、日本の良さとその良さの残し方も考えていこうと思った。



学校で学習する小学生たち



大加隊員が生徒と九九を確認している様子



生徒の努力の証



教員養成校で学ぶ学生たち



8月13日 (水)

原田 真木子

訪問先

ウドムサイCCC

研修内容

- ウドムサイCCCでの活動について (JICA海外協力隊 長谷川さん、伊丹さん)
- 子どもたちとのふれあい (サッカー、出し物)

所感

教育面に関しては、ワンポイントの支援で終わるのではなくて、相手に合った方法で接することが大切だと学んだ。長谷川さんのおっしゃっていた「日本と外国のあたりまえは違う」という視点を教員自身が持って子どもたちと接する必要があることを再認識した。捉え方は人それぞれで、人によって解釈も違うので、そういう認め合いが大事。相手を理解するうえで言語は非常に大切で、相手のことを知りたい、関係を築きたいと思ってもコミュニケーションが取れないと難しいので、英語の学習の重要性を感じた。

また、伊丹さんの子どもとの関わり方を見て、実は朝ごはんを食べる時間がないという家の事情とか、その子の背景にある原因をきちんと聞いて、子どもに寄り添う姿勢は、世界共通の教育の視点なのだ実感した。日本でも「全員同じレベルに」という気持ちが多少ある。それは、同じゴールをみんなが達成することを目的としているが、それがすべてなのか？と考えさせられた。できるに越したことはないが、いろんな事情を抱える子どもたちや民族が共存する国では、ゴールをそろえることよりも、生きていくうえで必要なこと（個人のニーズに合った内容）が達成できるように支援するべきだと感じた。

図書室の整備が追い付いていない点も気になった。教員や物資が足りていない環境に、子どもたちが困っていないからいいとみなすべきなのか、もっと教育にお金をかけた方が子どもたちの将来のためになると考えるのか、難しかった。他国からの支援に頼る姿勢が見られ、「自国によって、自国のために発展する」ために教育は必須だと思ったが、これは日本の当たり前の考え方を押し付けているだけかもしれない。ラオスの発展のために「教育」はあまり重視されていない現状を感じた。

サッカーやクイズでの交流を通して、小学校の先生のノリの良さは、非言語コミュニケーションの割合が高いからなのではないかと思った。言語が分からなくても、手話などを含むやり取りでも、かかわりを持つことができていた。学校はやっぱみんなで学ぶ場であって、楽しいだけではいけないけど、楽しみながらしないといけないと感じた。

また、サッカーのゲーム中にラオスの国民性が見えた。途中で泣き始めた子にみんなが寄って行って、プレーが中断しても声をかける思いやりが見えた。学力だけではなく、人として必要な心の豊かさを感じた。

子どもたちと関わるうえで、子どもたちに様々な視点を与えたり、興味のあることを引き出したりしながら、将来の夢や今後の目標など、何かのきっかけを与えられる人になりたいと感じた。相手にとって、教員の言動が1つのきっかけになればと思う。



訪問先

森林トレーニングセンター (FTC)

研修内容

●FTCの施設についての概要

●うちわ・線香づくり、トレッキング (散策)

※FTCに関連したJICAプロジェクト

【技術協力プロジェクト】ラオス・日本森林保全植林プロジェクト (FORCAP) (1997~2003年)

【草の根技術協力事業】香川らしい国際協力プロジェクト「ラオスビエンチャン県バンビエン郡うちわ産業振興支援プログラム」(香川県) (2012~2014年)

【草の根技術協力事業】香川らしい国際協力プロジェクト「ラオスうちわ産業振興支援プログラム (香川県) (2016~2019年)

【草の根技術協力事業】FTC (森林研修センター) を拠点にした森林エコツーリズム事業による雇用創出 (高尾グリーン倶楽部) (2022~2024年)

【JOCV (JICA海外協力隊派遣)】コミュニティ開発 (2021~2023年)

所感

今回訪問した森林トレーニングセンター (FTC) は、JICAのプロジェクト支援によって設立された施設であり、焼き畑によって失われた森林の保全および再生を目的としている。施設の話聞く中で明らかとなった主な取り組みは、①「焼畑による森林破壊を防ぐための植林活動」、②「地域住民の雇用を確保するための観光業の強化」の二点である。

現地の実地を視察した際には、焼き畑により荒廃した土地で、「植林」による再生が少しずつ進められている様子を確認することができた。しかしながら、人的・金銭的資源に限られているという現状もあることから、広大な面積を再生するには相当な時間と労力を要することが予想される。そのため、施設単体での努力にとどまらず、地域全体で危機感を共有し、継続的に取り組みを支える仕組みづくりが不可欠であると感じた。

観光業の強化に関しては、地域の伝統技術を活用した観光プロジェクトがいくつか紹介された。その活動の中の1つであるうちわや線香の製作体験では、障がいを持つスタッフの方とも一緒に体験活動を行い、地域資源を生かしたインクルーシブな取り組みの意義を実感することができた。その他にも、キャンプ場の整備やホームステイの導入など、複数の施策が検討されているとのことであったが、現実には周知することの難しさや観光客のニーズとの不一致などといった様々な課題も存在していたことが分かった。

このように、今回の施設見学および体験活動を通して、表面上は見えにくい施設の実態や課題について考えることができた。今後は、短期的な成果を追い求めるのではなく、施設と地域が一体となって長期的かつ継続的に取り組むために何をすべきか、次世代へとつなげていくために私たちには何ができるのかを改めて考えるきっかけとなった。





8月15日 (金)

飛鷹 奏多

訪問先

- ①リーガルプロジェクト
- ②みんなのカフェ

研修内容

- 「法の支配発展促進プロジェクトフェーズ2」（技術協力プロジェクト）：元検察官の矢尾板さんによるプロジェクトの概要説明および質疑応答
- 「みんなのカフェ」（草の根技術協力事業）：「特定非営利活動法人NPO アジアの障害者活動を支援する会（ADDP）」が行う知的・発達障害を持つ子供の社会的自立を目指したインクルーシブ教育・就労支援の実践。「みんなのカフェ」代表による活動紹介、スタッフへのインタビュー、昼食、手話教室

所感

ラオス研修最終日、まずリーガルプロジェクトオフィスを訪れ、「法の支配発展促進プロジェクトフェーズ2」に関する説明を受けた。このプロジェクトは1998年に開始され、「人の支配」ではなく、誰もが同じ「法」に従う社会を目指すものである。ただし、法を運用するのも人間であるため、法を理解し、自ら考えて他者に伝える能力が求められることを理解した。

特に印象的だったのは、「法律が『ある』ことと、法律を『適用する』ことは全く別物である」という指摘である。法律を適用するには内容を十分理解し説明できなければならず、単に結論を出すことが目的ではないという矢尾板さんの言葉は、学校現場で校則と向き合う自分に強い自省を促した。リーガルプロジェクトが「内容はあくまでラオス人の手で進める」という姿勢を取っていることも、教育現場で生徒が自走できる環境の重要性を考える契機となった。

その後、私たちは「みんなのカフェ」を訪問した。ここはNGO団体「ADDP（アジアの障害者活動を支援する会）」が運営するカフェで、障がいを持つ方々がスタッフとして働いている。ラオスには福祉制度がなく、障がい者への理解も十分ではないため、ADDPは啓発活動と自立支援を目的に活動している。「すべてをサポートするのではなく、自分たちがいなくなっても存続できる仕組み」を意識している点は、日本の特別支援教育にも通じるものがあると感じた。

スタッフへのインタビューを通して、「場の提供」の重要性も改めて実感した。障害の有無にかかわらず安心して働ける場を提供することが、夢や成長につながり、その夢を実現するサポートまで体系化されている。この経験から、学校現場においても、生徒が安心して過ごせる環境を整えることの重要性を強く感じた。

以上の研修を通して、法の運用や教育支援の現場では、制度や仕組みだけでなく、「人の理解力・判断力」と「安心して学べる環境」の双方が不可欠であることを実感した。ラオスでの体験は、自分の教育実践において、規則や制度の説明力と、生徒が主体的に学べる環境づくりの両立を意識する契機となった。



質疑応答の様子



オフィスでの集合写真



カフェのカレーライス



手話教室の様子

私の1枚



これは、ロンラオ村のお風呂とトイレの写真である。雨水を貯めたこの水は、彼らの生活に欠かせない貴重な水（資源）だった。日本で当たり前に使っていた「水」に対する見方や考え方が変わる一つの大きなきっかけとなった。

青山 航大

→ そんな私の授業実践はP.24へ！



「安全だ」と分かっているけど、スコップを握る手は震えた。60年前、世界で最も爆弾が降った国、ラオス。撤去完了まで100年以上。土を掘る感触と共に、今も足元に眠る戦争の爪痕の深さを、肌で痛感した瞬間だった。

川崎 悠

→ そんな私の授業実践はP.35へ！



学校にお菓子？誰が置いているの？そもそも学校でお菓子って食べていいの？ラオスの小学校では、学校の先生が子供たちにお菓子を販売しているところがあるそうです。日本では考えられませんよね？しかし、ラオスでは「あたりまえ」なのです…。 四宮 健

➡ そんな私の授業実践はP.51へ！



ロンラオ村滞在の2日目の朝に生きたアヒルをさばくところを見せてもらった。先程まで「かわいそう」と思っていたのに、茹でられた瞬間から良い香りがただよい始めた。生き物から食べ物に変わる瞬間。命をいただくとは、どういうことなのかを自分で実体験することは大切だと感じた。 金井 彩夏

➡ そんな私の授業実践はP.64へ！



これは、ロンラオ村の子供たちと工作絵本を使って一緒に遊んでいる様子である。子供たちは見慣れないおもちゃや道具に興味を示し、アルファベットの発音を伝えると笑顔で発音していた。

佐藤 郁弥

➡ そんな私の授業実践はP.72へ！



ロンラオ村は、2つの民族が暮らすのどかな村だった。ほぼ自給自足のこの村で困っていることは？必要なものはない？たくさん疑問を聞いてみたい！そんなワクワクと温かい歓迎パーティーから始まる1日ホームステイ！

原田 真木子

➡ そんな私の授業実践はP.78へ！



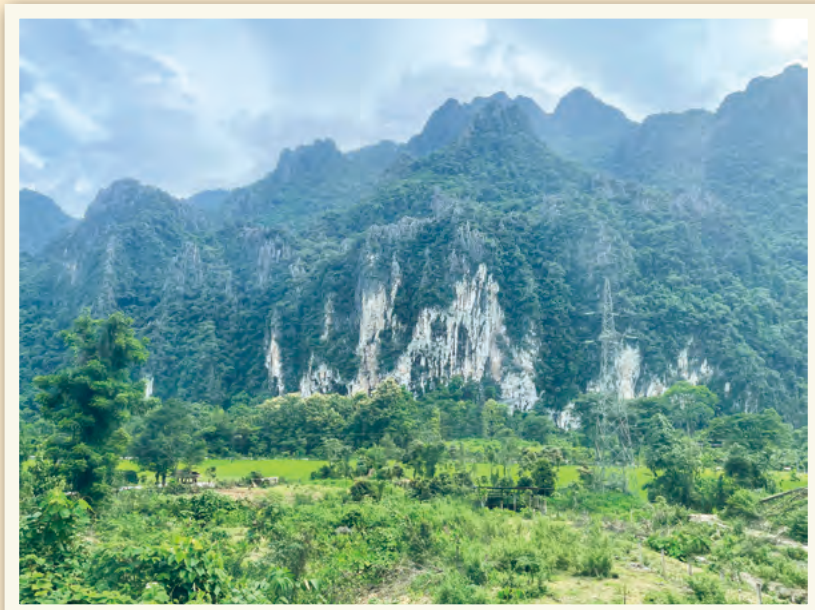
ロンラオ村のホームステイ先で、就寝前に撮った一枚。共産党旗の下、蚊帳の中という初めての環境で迎えた夜は、とても印象に残っている。電気は通っていたが、扇風機や冷房はなく、高床式でもなかった。それでも風が通り、意外と寝やすかった。 塚本 拓也

→ そんな私の授業実践はP.86へ！



写真はラオスで処理されたクラスター弾の不発弾である。ベトナム戦争で投下された爆弾の約8000万発が今も地中に眠り、終戦から50年を経た現在も人々の命を脅かしている。戦争はまだ終わっていないのである。 西村 友貴

→ そんな私の授業実践はP.92へ！



バンビエンにそびえ立つタワーカルストは、秋吉台と同じ石灰岩が作り出した地形である。しかし、同じ石灰岩地形でありながら、その景観は全くと言っていいほど別物である。ここに、自然環境の奥深さを感じた。 神田橋 知成

➡ そんな私の授業実践はP.104へ！



言語の壁から来る教育の難しさ。インクルーシブ教育とは名ばかりの特別支援教育の体制。しかし子供たちは万国共通でキラキラしていて夢を持っている。そんな現状を知り、多文化共生について理解を深めてほしいと痛感し、この写真を選んだ。 飛鷹 奏多

➡ そんな私の授業実践はP.115へ！

授業実践報告



「地球を守ろう！大作戦」～私たちの生活と「水」～

1. 授業実践者および単元の紹介

- **学校名** 鳥取県米子市立住吉小学校
- **実践者** 青山 航大
- **実践教科** 総合的な学習の時間
- **単元名** 「地球を守ろう！大作戦」～私たちの生活と「水」～
- **単元を貫くキーワード**
#SDGs #水 #バーチャルウォーター #大きく考え小さく行動 #感謝 #節水
- **対象学年・人数** 第4学年 29名

2. 単元計画

● 単元設定の理由・実践者の思い

本校の総合的な学習の時間では、「持続可能な社会の実現に向けて、自ら課題を見付け、主体的に考え、行動しようとする児童の育成」を目標としている。4年生では、1学期にSDGsの17の目標について学習し、2学期にはそれぞれのテーマについて理解を深めながら、私たちの生活と世界とのつながりについて考えてきた。本単元では、実践者がラオスで見聞きした実体験を、SDGsの目標と関連付けて児童に伝えることで、世界の課題を身近なものとして捉えさせ、より実感を伴った理解につなげたいと考えた。中でも「水」は、児童の生活と深く関わる題材であり、自分たちの日頃の生活を見つめ直しながら、水を大切にすることを育てることができるのではないかと考え、本テーマを設定した。



児童は、社会科「水はどこから」や理科の学習を通して、水の働きや大切さについて学んできている。しかし、節水の必要性は理解していても、水が限りある資源であることや、日本と世界の水事情について深く考える機会は多くない。そこで、SDGs目標6「安全な水とトイレを世界中に」を中心に上げ、安全な水を十分に使うことができない人々の存在を知ること、自分たちの生活を見直し、持続可能な行動について考えられるようにしたい。

指導にあたっては、教師が知識を一方向的に伝えるのではなく、児童が体験したり、疑問をもって友だちと話し合ったりする活動を多く取り入れ、主体的に学べるように工夫する。また、1日に使用する水の量や無駄にしている水の量など、生活に即した具体的な事例や数値を扱うことで、「自分ごと」として考えられるようにする。また、資料等が視覚的に捉えやすくなるように掲示していきたい。さらに、体験的・対話的な学習（フォトランゲージを活用したグループ活動）を通して、「なぜ水は大切なのか」をグローバルな視点で大きく考え、「自分たちにできることは何か」を身近な学校生活の中で小さく実践することを意識して指導したい。学習のまとめでは、節水の大切さを感じながら、みんなで水を飲む活動を行い、水への感謝の気持ちを改めて実感するとともに、持続可能な社会の担い手としての意識を育てたいと考える。

● 単元の目標

児童がSDGsの17の目標について、体験や話し合い活動、調べ学習を通じて、世界の現状を理解し、日常生活で持続可能な行動を考えて実践できる力を育てる。

●単元構成 (全11時間)

時	テーマ・ねらい	活動内容	メインの学習※
1	SDGsって何?	①SDGsについて知る ②17のテーマについて考える 【資料1】	
2	世界から見たSDGs ～ラオスと日本のつ ながり～	①ラオスクイズ ②ラオスと日本のつながり ③調べたいことや疑問に思ったことを出す	
3	ゴミの行方について 学ぼう (校外学習)	私たちの生活の中で出ているゴミをどのように処理するかを 見学する (クリーンセンター) (校外学習)	
4	平和な世界について 考えよう	①戦争の歴史について知る ②不発弾について考える ③私たちにできることを考える	
5	わたしたちの生活と 水のつながり	①私たちの生活と水のつながり ②世界の水事情 ③バーチャルウォーターについて 【資料2】 【資料3】	○
6 ～ 7	17のテーマについ て調べる	①自分が興味をもったテーマを1つ選び ②タブレットで詳しく調べる ③スライドにまとめる	
8 ～ 9	SDGsプロジェクト を考える	①SDGsの17のテーマの中で自分たちが取り組みそうな テーマを選ぶ ②そのテーマに関連する実践内容をみんなで考える  子どもたちから出てきた実践内容 ③1週間実践する ④振り返る (ワークシート) ⑤スライドに付け加える 【資料4】	
10 ～ 11	プロジェクトを発表 する	自分が考えたテーマと実践内容について発表する (プレゼン発表)  児童のSDGsプロジェクトの発表の様子	


※展開案記載の授業



3. メインの学習（実践者が最も共有したい授業の展開案）

●目標

SDGs目標6「安全な水とトイレを世界中に」において、水の大切さや世界の水事情について理解し、日常生活でできる持続可能な行動を考える。

●学習指導過程

過程 (時間)	教員の働きかけ・学習活動および発問・指導形態	指導上の留意点	使用教材
(5分)	1. 私たちの生活と水のつながり (1) イメージマップで考えよう 個人で考える ⇒ グループで考える 【発問】 私たち日本人は水を1日どのくらい使っているかな？	<ul style="list-style-type: none"> すべての生命に必要なものが「水」であるということを確認する。 他のSDGsのテーマにも関連していることをおさえる。 	
(5分)	(2) 生活ランキングを考えよう 1位……お風呂80L（40本） 2位……トイレ50L（25本） 3位……料理・皿洗い25L（12本） 4位……洗濯30L（15本） 5位……洗面その他10L（5本） (3) もし水道によごれた水が流れてしまったら 【発問】 もし水道によごれた水が流れてしまったら、その水をきれいにするためにどのくらいの水が必要かな？ ① 醤油大さじ1杯……450L（225本） ② 油1さじ……1200L（600本） ③ 牛乳1パック……3000L（1500本） ④ 味噌汁1杯……5000L（2500本）	<ul style="list-style-type: none"> 量が分かるように2Lのペットボトルの実物を用意し、何本分かで考えた。 2Lのペットボトルに実際に醤油や牛乳を入れる。 量が分かるように2Lのペットボトルの実物を用意し、（その何本分かで考えた。 海や川との関連 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに記入 【資料3】 スライド 2Lペットボトル
(10分)	2. 世界の水事情 1～6のグループに4枚の写真を貼った画用紙を配り、付箋を貼りながら1～17のどのテーマと関連しているかを考える。 	左上…泥水を飲む子 左下…水を運ぶ子 右上…ラオスのお風呂・トイレ 右下…荒れた土地（干ばつ） <ul style="list-style-type: none"> ラオスの一部の地域の状況であることをおさえる。 	<ul style="list-style-type: none"> フォトランゲージ用の4まいの写真付き画用紙

<p>(5分)</p>	<p>3. バーチャルウォーターについて考えよう</p>  <p>バーチャルウォーターの説明スライド</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 米0.5合……約300 L ② ジーンズ……約7500 L ③ 牛1キロ……約20000 L 	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物やものを捨てることも間接的に水を捨てることにつながっていることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド
<p>(10分)</p>	<p>4. 身近な食べ物や物と水の関係について</p> <p>【発問】 日本にある水は日本だけのもの？</p> <p>【発問】 どのくらいの距離を運んでる？</p> <p>【発問】 ラオスの農村部では、平均1日1人どのくらい水を使っている？</p> <p>【発問】 もし、災害が起こったら日本も同じような状況になるのかな？</p>	 <p>実際に同じ量の水を持って重さを体感している様子。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国によって水の使う量が違うことを知る。 ・東日本大震災や熊本地震で日本でも実際に断水になったことがあることをおさえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水の入れ物 ・水20 L
<p>(5分)</p>	<p>5. まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ★安全な水を手に入れられない人……約21億人 ★外でトイレをする人……約6億人 ★手洗いができない人……約30億人 ★水による健康被害……約18億人 <p>【発問】 地球上の水100%の内、私たちが使える水はどのくらい？……約0.01パーセント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水はいつかなくなってしまうかもしれない大切な資源である。 ・日本の全人口約1億2000万を元にして想像する。 ・浴槽1杯の水に対してスプーンひとつくらい程度の量 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙テープで地球上の水の量を表す
<p>(5分)</p>	<p>6. ふりかえり</p> <p>学習で分かったことや感じたことをワークシートに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの実践につながるように私たちが日常で取り組むことができるSDGsについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入 【資料3】

4. 実践授業を終えて

●単元を通した児童生徒の感想や学び・変容

授業実践を通して、節水に取り組んだり、周囲に節水を呼びかけたりする児童が増加した。また、バーチャルウォーターを初めて知ること、目に見えない水の使われ方と生活とのつながりに気づき、食べ物や日常生活の物事の見方に変化が見られた。さらに、SDGsの学習全体を通して、「友だちに優しくしたい」「困っている友だちを助きたい」「男女関係なく関わりたい」「パートナーシップを大切に、クラスのためにできることを考えたい」などの意見が多く聞かれた。このように、単元全体を通してSDGsの各17のテーマと日常生活（自分自身）を関連付けて幅広く捉え、学級内で実践しようとする意識の高まりが見られたことは、成果であったと考える。

一方で、水の大切さやSDGs全般への理解は深まったものの、学習内容が一時的なものにとどまり、児童の意識や取り組みが継続的でないと感じられる面もあった。今後は、ポスターの掲示や継続的な働きかけを行うなど、日常生活の中で子どもたちが意識的に実践できるよう、指導方法の工夫が必要であると考える。

ごはんをのこさず食べることや、水を出しっぱなしにしないことをがんばりたいです。

(学んだこと、初めて知ったこと、もっと調べたいこと、疑問に思ったこと)

他の国にはまだ安全な水を飲めない人が毎日遠い川まで水をくみに行っている

◎これからの生活でどんなことに気をつけたり、意識したしりしながら生活していきたいですか？

節水をしたり服を大切に使う、きれいに食べたいです。

(学んだこと、初めて知ったこと、もっと調べたいこと、疑問に思ったこと、など)

日本人は、1日に200リットル水を使っていることにおどろきました。みそしるが「播磨」じゃあいいことか分かりました。また、みそしる、しょうゆ、油、牛乳、これくらいは知っていました。

◎これからの生活でどんなことに気をつけたり、意識したりしながら

生活していきたいですか？

ごはんをのこさずにはたべる。水を出しっぱなしにしない。服を大切に。私のあはなさんがいない服をもとってくれるので、大切にしたいと思っています。

(学んだこと、初めて知ったこと、もっと調べたいこと、疑問に思ったこと、など)

思ったよりも自分達が使っている水の量が多くてびっくりした。ビーチウォーターのことを初めて知って、ジーンズにも水がそれとたくさん使われているなんて思わなかった。

◎これからの生活でどんなことに気をつけたり、意識したりしながら

生活していきたいですか？

水を出しっぱなしにしない。食べ物と服を大切に。

●授業実践者の感想・振り返り

本単元では、実践者がラオスで実際に見聞きした体験を交えて学習を進めたことで、児童は日本の生活だけでなく、世界の水事情にも目を向け、広い視野で考える姿が見られた。実際の資料や写真、具体的なエピソードを通して、教科書だけでは捉えにくい現地の暮らしや世界の水問題を理解しようとする様子が見られた。また、日本と世界の水事情を比較しながら水の大切さについて考えたり、体験的・対話的な活動を取り入れたことで、節水の必要性を、より自分事として捉えることができたように感じた。学習のまとめとして行った児童の振り返りでは、「水を無駄にしないようにしたい。」「家でも節水に取り組みたい。」といった記述が多く見られ、多くの児童が学習内容を日常生活と結び付けて考えることができていた。

一方で、世界の水問題について学習する中で、自分たちが直接的に現地（安全な水が少ない地域）と関わったり支援したりすることの難しさを感じている児童も多く見られた。今後は、現地で支援活動を行っている日本の支援団体や企業などを紹介しながら、今の私たちにできる具体的な行動についても改めて考え直していきたい。

なお、今回のグループ活動で使用した写真には、ラオス以外のものも多く含まれている。ラオスに限らず、JICAをはじめとしたSDGsに関連する各種サイトには学習に活用可能な写真や資料が多数掲載されているため、目的に応じて取捨選択した上で積極的に学習に活用してほしい。

5. 使用教材



資料1 単元1時間目のスライド～SDGsって何？～

The slides are arranged in a 6x3 grid:

- Slide 1 (Top Left):** 2学期のFTの学習 (2nd Semester FT Learning)
- Slide 2 (Top Middle):** ①SDGsって・・・何？いくつある？ (What are SDGs... How many are there?)
- Slide 3 (Top Right):** 【今日のメニュー】 (Today's Menu) with a list: 01 SDGsって何？, 02 世界のSDGs, 03 2学期のFTは, 04 まとめ
- Slide 4 (Row 2, Left):** 【今日のメニュー】 (Today's Menu) with a list: 01 SDGsって何？, 02 世界のSDGs, 03 2学期のFTは, 04 まとめ
- Slide 5 (Row 2, Middle):** SDGsって何？ (What are SDGs?)
- Slide 6 (Row 2, Right):** 2015年に国連が決めた世界中にある目標をみんなで、無くしていくために決めた大切な目標です！ (A precious goal decided by everyone in the world in 2015 to eliminate the goals decided by the UN.)
- Slide 7 (Row 3, Left):** SDGsクイズ！ (SDGs Quiz!)
- Slide 8 (Row 3, Middle):** ①SDGsの目標はいつまでに達成するの？ (When will the SDG goals be achieved?) with options A: 2025年, B: 2030年, C: 2100年
- Slide 9 (Row 3, Right):** ②日本のSDGs達成率は、世界193か国中、第何位でしょう？ (What is Japan's SDG achievement rate, ranked how in the world's 193 countries?) with options A: 第3位, B: 第19位, C: 第129位
- Slide 10 (Row 4, Left):** ③SDGsの目標は全部でいくつある？ (How many SDG goals are there in total?) with options A: 7こ, B: 15こ, C: 17こ
- Slide 11 (Row 4, Middle):** ④SDGsの17の目標の中で、日本はどれが1番課題でしょうか？ (Among the 17 SDG goals, which one is the biggest challenge for Japan?)
- Slide 12 (Row 4, Right):** A grid of SDG icons with some crossed out (7, 12, 14, 13, 15, 16).
- Slide 13 (Row 5, Left):** 他の国は、どうなってるか... 知ってる・・・?? (How are other countries... do you know...??)
- Slide 14 (Row 5, Middle):** SDGsもう学習できてます！！ って自信をもって言うて 本当にいいわー？ (We can already learn SDGs!! Say with confidence, really good, right?)
- Slide 15 (Row 5, Right):** A large white triangle on a black background.
- Slide 16 (Bottom Left):** どの国へ行った？ (Which country did you go to?) with a map of Laos and the text: ヒント① ヒント② ヒント③ 121/193カ国位
- Slide 17 (Bottom Middle):** どの国へ行った？ (Which country did you go to?) with a photo of a plane and the text: ヒント④ ヒント⑤ 答え！！ 飛行機で7時間
- Slide 18 (Bottom Right):** ラオスクイズ！ (Laos Quiz!)

どっちがラオスの食べ物??



どっちがラオスの??



どっちがラオスの子ども??



実は・・・せーんぶ、ラオスで青山先生がとってきた写真でした!!



これは日本??



ラオスの街



ラオスの食べ物



ラオスのおもてなし



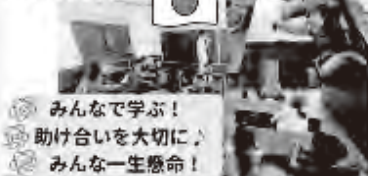
これらの写真や動画がラオスのすべてではないよ!
SDGsのどのテーマとつながっているかを考えながら、聞いてね!

【今日のメニュー】
01 SDGsって何?
02 世界のSDGs
03 2学期のFTは...
04

ラオスの学校

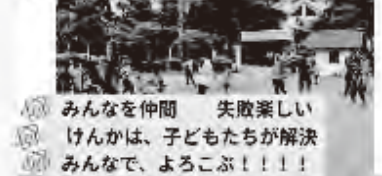


ラオスの学校



みんなで学ぶ!
助け合いを大切に!
みんな一生懸命!

ラオスの学校



みんなを仲間 失敗楽しい
けんかは、子どもたちが解決
みんなで、よろこぶ!!!!

ラオスの学校



課題 (ゴミ) が多い!

課題 (紙) が不足している!!



その他の課題

△ (教科書) が全然分らない。

△ (教科書) が分らない。

△ 先生が (2~5) 人

△ (家の手伝い) で行けない。



これは、何でしょう?



Q:考えてみよう



問い「なぜ下校時がここに?」
問い「どれくらい不発弾がある?」
問い「え?日本にも関係があるの?」
問い「どんな気持ちで生活している?」



これは、何でしょう?



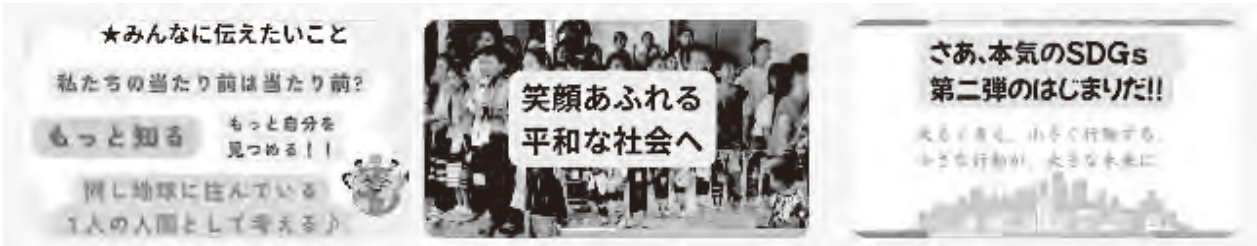
Q:考えてみよう



問い「なぜ水がない?」
問い「どうやって生活している?」
問い「私たちは水を大切にできる?」

ラオスの道路の様子





資料2

単元5時間目（本時）のスライド～わたしたちの生活と水のつながり～



<p>バーチャルウォーター</p> <p>それができるとまでに どのくらいの水が必要だったかを表 した、目に見えない水の量のこと</p>	<p>バーチャルウォーター</p> 	<p>日本の人口・・・</p> <p>約1億人</p>
<p>外でトイレをしている・・・</p> <p>6億人</p>	<p>水による健康ひがい・・・</p> <p>18億人</p>	<p>安全な水が手に入らない人・・・</p> <p>21億人</p>

資料3

単元5時間目（本時）に使用したワークシート～わたしたちの生活と水のつながり～

6 わたしたちの生活と水のつながりについて考えよう

名前

① 日本人が使っている水の量ランキングを考えよう！

使っている水の量ランキング

1人1日 L



② ABCDの中でどれが一番水をよごしてしまうかな？

1番水が少ない () → () → () → () 1番たくさん水がある

A



牛乳

B



OIL

C



生しょうゆ

D



③ 他の国では、どのように水を使っているかな??

写真を見て、SDGsのどの目標と関係しているか、はんのみんなで、考えてみよう！

〇〇。



(ふり返り)

◎今日の学習を通して学んだことを書きましょう。

(学んだこと、初めて知ったこと、もっと調べたいこと、疑問に思ったこと、など)

◎これからの生活でどんなことに気をつけたり、意識したりしながら生活していきたいですか？


◎時間があまった人は、タブレットを使って水を大切にする取り組みについて調べてみよう！



単元8～9時間目に使用したワークシート～SDGsプロジェクトを考える～

～SDGs プロジェクト計画表～

名前



① あなたのSDGsのテーマの番号・・・(番)

② そのテーマの中で、問題になっていることは何？

③ どんな世界になってほしい？

④ わたしたちには、何ができる？(家や学校)

-
-
-

【プロジェクト活動チェック表】

◎…よくできた ○…できた △…できなかった

	月	火	水	木	金
◎○△					
活動メモ					

【自分のプロジェクト活動のふり返りを書こう。】

【SDGsの学習を通して学んだことは？】

【これからやってみたいことや調べてみたいことは？】

6. 参考資料

- ・ 開発教育研究会（2022）『身近なことから世界と私を考える授業Ⅲ』、明治書店
- ・ 廣嶋 憲一郎（2022）『SDGsの視点に立った授業づくり』、教育出版
- ・ 国際協力について－JICA
<https://www.jica.go.jp/cooperation/index.htm>
- ・ SDGs（持続可能な開発目標）を学べる教材、JICA
<https://www.jica.go.jp/cooperation/learn/material/sdgs.html>（参照日2024年11月27日）
- ・ SDGs（エス・ディー・ジーズ）とは？ 17の目標ごとの説明、事実と数字 | 国連広報センター
https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/31737/（参照日2024年9月18日）
- ・ 一般社会法人 日本SDGs協会（参照日2024年11月27日）
<https://japansdgs.net/about/sdgs/>
- ・ 持続可能な開発のための2030アジェンダ／SDGs | 地球環境・国際環境協力 | 環境省
<https://www.env.go.jp/earth/sdgs/index.html>（参照日2024年11月27日）
- ・ SDGs CLUB | 日本ユニセフ協会（ユニセフ日本委員会）
<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/>（参照日2024年10月17日）
- ・ SDGs（エス・ディー・ジーズ）持続可能な開発目標 | ベネッセ教育情報サイト
<https://benesse.jp/kyouiku/sdgs/>（参照日2024年9月15日）
- ・ SDGsのターゲットになっている水不足問題、世界の現状や行われている支援は？
https://gooddo.jp/magazine/sdgs_2030/water_and_sanitation_sdgs/4780/（参照日2024年10月11日）
- ・ 深刻化する世界の水問題 | 原因や解決策、今すぐできる支援を解説
<https://gooddo.jp/magazine/water-and-sanitation/>（参照日2024年11月27日）

「知る」のその先へ～ラオスとヒロシマ、 「過去」と「現在」そして「自分」をつなごう～

1. 授業実践者および単元の紹介

- **学校名** 広島県広島市立観音小学校
- **実践者** 川崎 悠
- **実践教科** 総合的な学習の時間 道徳 国語
- **単元名** 「知る」のその先へ～ラオスとヒロシマ、「過去」と「現在」そして「自分」をつなごう～
- **単元を貫くキーワード**
#平和教育 #日本とラオスの違い #日本とラオスの共通点 #自分事 #行動
- **対象学年・人数** 5年生3クラス 101人

2. 単元計画

● 単元設定の理由・実践者の想い

・授業構想に至った経緯

広島市に住む子どもたちは、日常の中で「平和」や「原爆」という言葉を自然と耳にすることが多い。8月6日の登校日には市内の小学生は平和の大切さについて考える。しかし、「平和」「原爆」といった言葉の奥にある人々の苦しみや、平和をつくる努力の重みを実感する機会は多くない。また、知識や思いが一時的なもので終わり、時間が経つにつれ、その関心は薄れてしまう姿も見られる。

実践者が担任する5年生も、7月に原爆の子の像のモチーフになった佐々木禎子さんの友人の川野登美子さんからお話を聞いたり、国語科「たずねびと」の物語文を学習したりすることを通して、平和についての思いを深めた。登場人物の「楠木綾」が訪れた平和記念資料館や追悼平和記念館、原爆供養塔に実際に見学に行き、子どもたちの知識や興味は深まったものの、その段階で満足している児童も多く、知識としての平和から、行動へどう繋げていくのか課題を感じていた。

そんな中で、実践者自身がラオスの不発弾処理現場を訪れ、ベトナム戦争が終わって半世紀以上たっても、今なお人々の命や生活を脅かす爆弾が存在するという現実を目の当たりにした。この体験は、「戦争の悲惨さ」は過去の出来事ではなく、今も続く課題であることを強く実感させた。ラオスと広島は、戦争によって悲惨な経験をしてきた過去があるだけでなく、広島の被爆者が放射線の後遺症や差別と向き合いながら生きてきたように、ラオスの人々もまた“見えない戦争の傷跡”と闘い続けている。

この共通性を通して、子どもたちが「戦争は終わっても苦しみは終わらない」という事実に気づき、自分たちにできる平和のつくり方を考えることをねらいとする。知識として平和を学ぶだけでなく、「自分はどう行動するか」という主体的な視点を持ち、世界とつながる広い視野で平和を考える力を育てたい。その思いから本単元を設定する。

本単元で扱うラオスの不発弾問題や広島の被爆体験の継承活動は、単なる知識としての「戦争の歴史」ではなく、今も続く戦争の影響を生きる人々の現実である。学習指導要領（総合的な学習の時間）では、児童が「課題を追究し、自己の生き方を考える」ことが求められている。この観点から、本教材は以下の価値をもつ。

・戦争は過去の出来事ではなく、現在進行形の課題であることを実感できる。

・広島で学ぶ子どもだからこそ、世界とつながる視点で平和を考える必然性がある。

・「知る」ことが行動につながるという学びのプロセスを体験できる。

ラオスの現状と広島を重ねることで、子どもたちは「平和をつくる主体」としての自分に気づき、学習指導要領が示す「持続可能な社会の担い手として必要な資質・能力」の育成につながると考える。

課題を追求する際は、「知る → 気づく → 行動する」という学びの循環をつくることを意識する。

① 知る（情報を得る）

- ・ラオスの文化、不発弾問題
- ・広島の被爆体験
- ・語り部の証言、物語「たずねびと」

② 気づく（価値を見いだす）

- －戦争の影響は今も続いている
- －平和は自然に生まれない
- －行動する人がいるから平和が守られている

③ 行動する（自分の生き方に結びつける）

- －意見文を書く
- －グループで平和のための行動を企画・実践する
- －学校・地域に発信する

これらの循環を通して、学習指導要領が示す「探究的な学習のプロセス」を重ね、「平和を願う」だけでなく「平和をつくる」行動へ、「自分には関係ない」から「自分にもできる」に変わる学びをつくりたい。

●単元の目標

- ・ラオスの現状（魅力と課題）を知り、日本や広島との共通点や相違点に関心を持つ。
- ・不発弾問題や被爆体験の継承活動を通して、平和を維持するために自分たちに何ができるかを多角的に考える。
- ・情報を比較・関連付けながら、世界の平和を自分事として捉えようとする態度を養う。

●単元構成（全13時間）

時	テーマ・ねらい	活動内容	メインの学習※
1	ラオスと日本の「似ている!」「違う!」を見つけよう。	イメージを膨らませた後、ラオスの気候・街の様子・食文化を知り、日本と似ている点、違う点を考える。(道徳「国際親善」)	
2	「知る」ことの先には何があるのだろうか。①	第1時の児童の振り返り、国語科「たずねびと」の振り返りの共通点である「もっと知りたい」を掘り下げ、戦争がなぜ起こるのか、太平洋戦争はどのようにして起こったのかについて学び、「知る」ことは何につながるのかを考える。(総合的な学習の時間)	
3	「知る」ことの先には何があるのだろうか。②	「世界で一番爆弾を落とされた国」という視点からラオスを見つめ、改めて「知る」ことは何につながるのかを考える。(総合的な学習の時間)	○

4 ～ 7	「平和の意見文」を書こう。	来年度子どもピースサミットに向けて「平和の大切さについて感じたことや考えたこと、平和な社会の実現に向けて自分の思いや願い、できること」について考え、意見文を書く。(国語科「あなたは、どう考える」)	
8 ～ 13	「知る」のその先へ。	グループで協力して平和を築くための行動を考え、実践する。(総合的な学習の時間)	

※展開案記載の授業

3. メインの学習（実践者が最も共有したい授業の展開案）

●目標

「世界で一番行きたい国」であるラオスが、「世界で一番爆弾を落とされた国」でもあるという事実を知り、不発弾の現状やUXO Laoの方々の活動と、これまでの平和学習とをつなげる中で、平和は自然につくられるものではなく、誰かの強い意志や行動によって支えられているということ、自分事として考えることができる。

●学習指導過程

過程 (時間)	教員の働きかけ・学習活動および発問・指導形態	指導上の留意点	使用教材
導入 (5分)	<p>【前時までの振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一時の振り返りから、魅力がたくさんあるラオスに行ってみたく、もっと知りたいという意見があったことを確認する。 ・第二時の振り返りから、知ることの先には「平和」「幸せ」があり、もっと知る必要性を感じていることを確認する。 <p>【めあて】</p> <p>「知ること」の先には何があるのだろうか。</p>		【資料1】
展開1 (8分)	<p>【課題の提示】</p> <p>【発問】</p> <p>「ラオスは世界で一番（ ）な国」かっこには何が入ると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（ ）に入る言葉を予想する。 <p>【ラオスの二つの顔を知る】</p> <p>1. 「世界で一番行きたい国（1位）」としての魅力を、第一時を振り返りながら考える。</p> <p>2. 「世界で一番爆弾を落とされた国」という現実を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・衝撃的な事実との対比を強調させるために、観光地としての光の部分の先に提示する。 ・興味を高めるために、クラスター爆弾の不発弾の写真は、少しずつ全体が見えるように提示する。 	<p>【資料2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メコン川の夕日【板書用写真】 【資料3】 ・不発弾からできたスプーンの実物【板書用写真】 【資料4】

<p>展開2 (12分)</p>	<p>【不発弾の現状を知る】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. なぜラオスに不発弾があるのか、ベトナム戦争の背景を知る。 2. アメリカ軍の激しい空爆、実際の不発弾を映像で確認する。 3. 不発弾による被害が今も続いていることを、負傷者や死者の表から読み取る。 4. UXO Laoの存在を知り、不発弾の処理現場の写真や、映像を視聴する。 5. 爆破処理の音声を聞く。 6. 不発弾処理にはまだ100年以上かかり、ラオスの人にとっての戦争はまだ終わっていないことを押さえる。 <p>【広島とラオスを繋げる】</p> <p>【発問】</p> <p>不発弾の処理現場で働くラオス人は、なぜ命の危険があるにもかかわらず今日も不発弾を撤去しているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語科で学習した「たずねびと」の著者の朽木祥さんと、被爆体験講話でお話を聞いた、語り部の川野登美子さんの写真を提示し、「不発弾処理に挑むラオスの人」と「語り続ける広島の人」の写真を見比べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戦争に実際に参加していたわけではないことを確認するために、ラオスは中立国であるにも関わらず、爆弾を落とされたという点を押さえる。 ・ 自分事として考えさせるために、子どもは男の子が女の子よりも圧倒的に被害に遭っている理由を考えさせ、学校でも先生が不発弾の危険性を教えている写真を見せる。大人も同様になぜ男の人の被害者が多いのか考えさせ、映像で確認する。 ・ 危険が身近にあるというのをおさえるために、実践者が不発弾撤去の体験をするに当たって、なぜ血液型を書く必要があったのか、考えさせる。 ・ 実際に実践者が不発弾撤去の体験をした時の感覚を伝える。 ・ 音声をを用いることで、知識だけでなく感覚に訴える。 ・ 既習事項（平和学習）と結びつけることで、遠い国の問題を自分たちの歴史として引き寄せる。 	<p>【資料5】</p> <p>【映像1】</p> <p>【資料6】</p> <p>【映像2】</p> <p>【資料7】</p> <p>【映像3】</p> <p>【資料8】</p> <p>【映像4】</p> <p>【資料9】</p> <p>・ 不発弾処理時の音声</p> <p>【音声】</p> <p>【資料10】</p> <p>【「たずねびと」作者朽木祥さんの写真】</p> <p>【語り部川野登美子さんの写真】</p>
----------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>振り返り まとめ (15分)</p>	<p>【発問】 「国も歴史も違うけれど、この人たちに共通することはありますか？」</p> <p>・被爆者の人口が年々減少し、今年10万人を割ったこと、被爆体験を伝承する人の存在、戦争のない世界は今後訪れないと考えている人が7割いるという事実を知る。</p> <p>【「知ること」の先にあるものを改めて考える】 【発問】 「これまでの学習を通して、ラオスのことを知ったり、平和の大切さについて資料館や語り部の方、国語の学習で知ったりしました。みんなが知ることの先に、何があるのでしょうか。」</p> <p>・感じたこと、考えたことをワークシートに書く。</p> <p>【発問】 「自分がやりたいこと、できること、クラスの仲間とやりたいこと、できることはありませんか」</p> <p>・考えを発表する。</p>	<p>・平和は自然につくられるものではなく、誰かの強い意志や行動によって支えられているという気づきを価値付ける。</p> <p>・自分事として考えるために、これからの総合的な学習を自分たちの行動のために使ってよいということ伝える。</p>	<p>【資料11】</p> <p>【ワークシート】</p>
-------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------

4. 実践授業を終えて

●単元を通した児童生徒の感想や学び・変容

メインの学習に向けて、まずラオスという国に親しみを持つところから始めた。現地の「托鉢」の様子や、実践者の食レポ映像を提示すると、子どもたちの目は輝き、「日本と違うところがたくさんあってびっくりした」「ラオスにぜひ行ってみたい、もっと知りたい」といった前向きな感想が教室に溢れた。平和について深く考える前段階として、まずは未知の文化に対する純粋な知的好奇心を育むこと。この「好き」という感情が、その後の学びを支える強固な土台となった。

その上で、国語科「たずねびと」の振り返りの共通点である「もっと知りたい」を掘り下げ、戦争がなぜ起こるのか、太平洋戦争はどのようにして起こったのかについて学び、「知ること」は何につながるのかを考えた。文化や暮らしを深く知ることは、互いを尊重し、幸せや平和に近づくための第一歩ではないか。この段階では、多くの子どもたちが「知ことは平和への近道だ」という、温かく希望に満ちた意識を持っていた。

しかし、メインの学習では子どもたちの意識は大きく変容した。ラオスで今なお人々を苦しめている不発弾の現状と、日本で被爆体験を語り継ぐ人々が減り続けている事実を、対比させる形で提示したからだ。「知っているだけでは、何も変わらないのではないか」そんな切迫感が教室に広がった。児童の振り返りには、「知るだけでは平和は作れない。自分たちが伝えていかなければ」「周りに訴えかけ、行動しないと平和は守れない」といった、責任感の強い言葉が並ぶようになった。単なる知識としての平和が、自らの手で創り出すべき「課題」へと変容した瞬間であった。

この授業が、子どもたちにとって大きな起爆剤となり、自分たちに何ができるかを考え、意見文にまと

め、さらには実際の行動へと移そうとするプロジェクトが動き出している。ラオスという「遠い国」を広島との共通項を通して見つめ直したことで、子どもたちは「自分たちも平和の担い手である」という自覚を持ち始めている。

また、授業とは関係ない部分ではあるが、廊下や階段に掲示していたラオスの資料を見て、別の学年の児童が「ラオスについて調べたよ。」と話しかけてきたり、「この国の料理、おいしい？」と聞いてきたりすることがあった。小さな種まきも、可能性を秘めていると感じた。

〈メインの学習の子どもの感想〉

「知る」だけでは、なくて、行動で、しつづけて、平和は、実現しなさい。

児童の感想1

「知る」ことだけでは 平和は実現できない。
知ったあとに、行動して 次の世代に伝えるていけば
平和につながると思う 自分たちにできることはやりたい
と思いました。

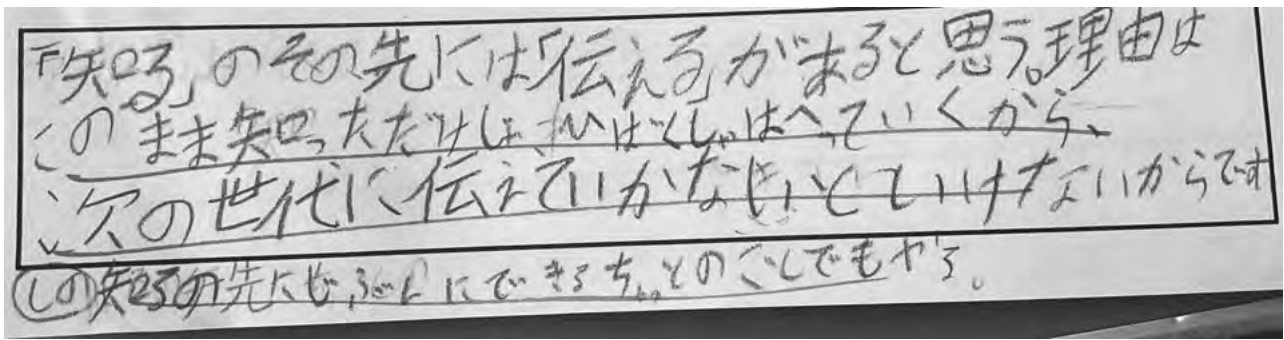
児童の感想2

知るだけでは平和はいつげんできない？行動が大事？
本当の平和という物を知りたい。どうしたら本当の平和を
じつげんできるのか知りたい。

児童の感想3

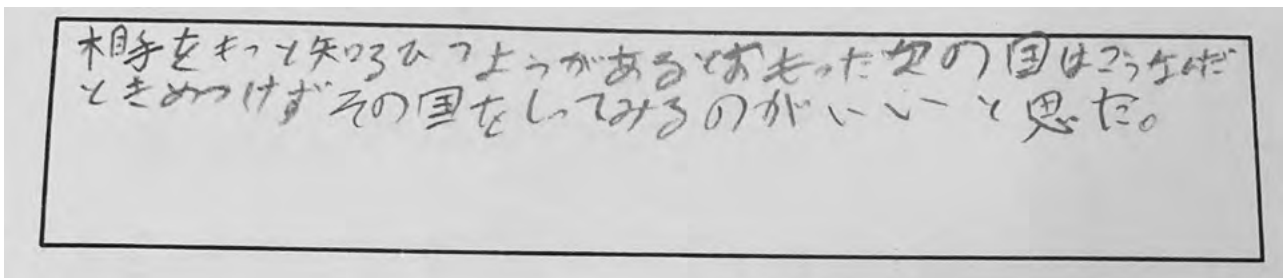
「知る」だけでは絶対だめ。そのせきには平和がある
てもみんなが平和になる方に働いている人がいる
だから次は自分が行動で表せる方にしたい。
実現する。

児童の感想4



児童の感想5

●授業実践者の感想・振り返り



児童の感想6

「相手をもっと知る必要があると思った。この国はこうなんだと決めつけず、その国を知ってみるのがいいと思った。」(第1時の振り返りから)

広島市における平和教育は、世界で最初に原子爆弾を落とされた街として、被爆者の苦しみや立ち上がった人々の思いを「自分事」として見つめ、単に平和を願うだけでなく、「自分たちが世界にどう貢献できるか」という具体的なアクションを促すことを目標としている。しかし、私自身の小学生時代を振り返ると、体育館で原爆の悲惨さを訴えるアニメーションを視聴するなどの活動は、恐怖の視点から「戦争はいけない」「平和は大切だ」と訴える「戦争反対教育」の側面が強かったように感じる。もちろんその意義は大きいですが、現代の子どもたちが平和を真に「自分事」として捉えるために、あえて子どもたちに馴染みの薄い「ラオス」を教材として取り入れるアプローチができないかと考えた。不発弾（爆発物）による被害に苦しむラオスの現状と広島を結びつけることで、子どもたちが多角的な視点から平和について考え、自発的に行動しようとする態度の育成をねらいとした。

本授業を構築する上で重視したのは、子どもたちの知的好奇心を引き出すことである。人間関係や異文化理解において、外見や断片的な情報だけで「こんな人だろう」「あんな国だろう」と決めつけてしまうことは、相互理解の可能性を狭めてしまう。私自身、ラオス渡航前にはネット上の「面白くない」「何もない」といった否定的な情報に触れることもあった。しかし、実際に現地へ足を運び、自分の目で見て、心で感じた本質は全く異なるものであった。子どもたちの中にも、特定の国に対して「怖い」「行きたくない」といった限定的な情報を絶対視する傾向が見られる。

そのため、「自分は知らない」という状態を自覚し、そこから「もっと知りたい」という知的好奇心をくすぐること、相手を知ることからすべてが始まるという視点を、平和学習の土台に据えた。授業では、ラオスという国を提示するに当たって、ラオスの文化や食、人々の暮らしに触れることで、子どもたちの関心は非常に高まった。

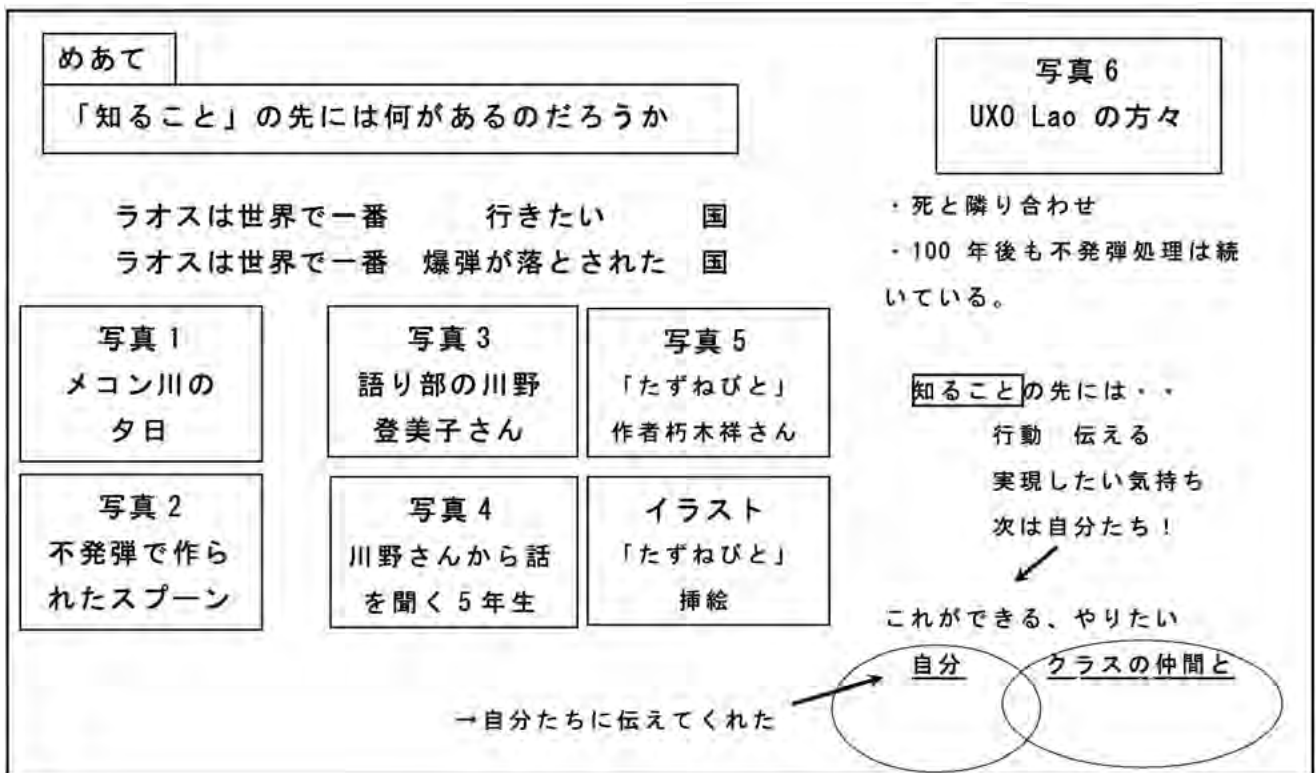
従来の平和学習では、悲惨な事実によって圧倒され「祈ることしかできない」という無力感に陥る場面も見ら

れた。しかし、本実践においては、ラオスでの学びを基に「平和への取り組みを考え、プレゼンテーションしたい」という主体的・意欲的な姿が見られた。未知の国であるラオスを広島と結びつけて学ぶことで、これまでの平和教育とは異なる角度から「自分にできること」を模索し始めた姿であった。これは、私自身の教員人生においても、平和学習における新たな可能性を確信させる大きな収穫であった。

成果が得られた一方で、課題も明らかになった。一つは、子どもたちが訪れたことのない「ラオス」という遠い国の問題を、いかにして「自分事」としての手触りを失わずに深め続けられるかという点である。今回は知的好奇心が追い風となったが、一過性の興味で終わらせないための継続的な教材提示が求められる。今後は、広島とラオスの共通点をさらに深掘りし、歴史的背景だけでなく、未来に向けた共生や解決策を語り合えるような授業構成を検討したい。試行錯誤を繰り返し、ラオスを教材として使う意義をさらに高め、子どもたちが「自分事」として平和を創造していくための授業づくりに邁進していきたい。

5. 使用教材

●板書計画



●ワークシート

() 番 名 前 ()

めあて

ラオスは世界で一番 _____ 国

ラオスは世界で一番 _____ 国

●スライド

資料 1

1時間目の振り返り

ラオスは人があまりにもスロリでいい平和な国
と分かりました。あと、アップルは、かなり高かったです。

フレンドリー 平和な国

ラオスは思った以上にいい国だと思った
いつか行ってみたい。

日本とラオスとが繋がって、これからラオスに飛ぶ
飛行機がある。一度行ってみたい。

行ってみたい!

まだ知らないところがある。飛行機とラオス
と先を調べたい。

日本にいないが、早く行ってみたい。もう一度
行ってみたい。

ラオスについてもっと知りたかった。

まだ知らないところがある **まだまだ知りたい**

ラオスについてもっと知りたい
 広島についてもっと知りたい

2つの「知る」先にあるものとは？

2時間目の振り返り

～知ることの先にあるのは～

平和 大たがいが大たがいを争うとすると「平和な国」
 なんだ」といつか思った。相手のことを知ることに「平和な国」
 と決めたけど意味のない戦争が起きたり大たがいを理解する
 からこそその先に平和が来ると思っています。

先にはラオスの平和が学ば
 ない心も思いますが、今は少しは平和な国を
 ラオスのような美しい国にしたいです。
 (おちく)

平和 幸せ

～知ることの先にあるのは～

相手を知らずして争うと争うだけだ。相手の国は争うと
 争うだけだ。争うだけだ。争うだけだ。争うだけだ。

もっと知る必要性

みんなが意見をもち、ついでにせめて
 おいすのはちがうと思いた。
 ラオスは相手のことを一番に考えてくれる心優しい国だと
 おぼた。

資料2

ラオスは
 世界で一番 _____ 国

ラオスは
 「世界で一番 行きたい 国」

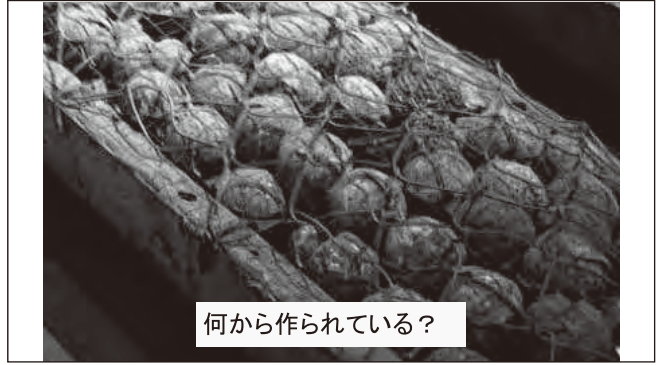


資料3

ラオスは
 世界で一番 _____ 国

何から作られている？

資料4



何から作られている？



何から作られている？



何から作られている？



1964年～1975年の戦争で
落とされたbombs(爆弾)の
アルミニウムで作られています。

ラオスは
世界で一番 _____ 国

ラオスは
世界で一番 爆弾を落とされた 国

資料5

ベトナム戦争（1964年～1973年）



- ベトナム**
北ベトナムと南ベトナムに分かれて戦争をしていた
- ラオス**
「戦争はしない（中立）」と約束していた。
- アメリカ**
南ベトナムを助けるために、遠くから参加した。

ベトナム戦争（1964年～1973年）



- ベトナム**
北ベトナムと南ベトナムに分かれて戦争をしていた
- なぜラオスに爆弾？**
- ラオス**
「戦争はしない（中立）」と約束していた。
- アメリカ**
南ベトナムを助けるために、遠くから参加した。

ラオスで起きたこと（原因）

秘密の道：

北ベトナム軍が、南ベトナムへ攻めるために、ラオスの森を「通り道」に使った。

空からの攻撃：

アメリカ軍がその道を壊すために、飛行機からたくさんの爆弾を落としました。



落とされた爆弾の量：

2億6000万発

資料6

落とされた爆弾の量：

2億6000万発

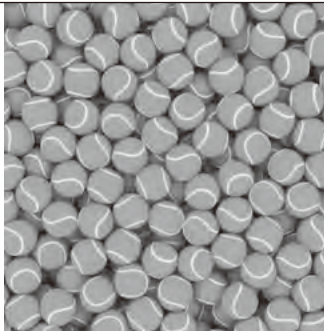


ラオス国民一人当たり、**1トン**

テニスボールに換算すると

一人当たり、**約2300個**

学校の体育館がボールで埋まるくらいの量



落とされた爆弾の量：

2億6000万発

そのうち爆発せずに地面に残った爆弾の量：

8000万発

不発弾

Sector Trends: Accidents and Casualties, 2011-2023

Table 4. UXO accidents and casualties, number, 2011-2023

Year	Accidents	Injured				Deaths				Total casualties
		Men	Women	Boys	Girls	Men	Women	Boys	Girls	
2011	64	32	9	34	4	6	0	14	0	99
2012	36	17	11	11	2	6	1	6	2	59
2013	18	9	2	12	5	5	0	7	1	41
2014	22	8	5	9	7	4	0	12	0	45
2015	27	15	1	16	1	6	1	2	0	42
2016	35	17	3	24	5	2	0	8	0	59
2017	19	12	8	11	6	3	0	0	1	41
2018	17	4	8	4	5	2	1	0	0	24
2019	20	5	2	4	5	8	0	1	0	25
2020	23	12	10	2	2	5	2	0	0	33

Year	Accidents	負傷				死亡			
		Injured				Deaths			
		Men	Women	Boys	Girls	Men	Women	Boys	Girls
2011	64	32	9	34	4	6	0	14	0



資料7



Year	Accidents	負傷				死亡			
		Injured				Deaths			
		Men	Women	Boys	Girls	Men	Women	Boys	Girls
2011	64	32	9	34	4	6	0	14	0

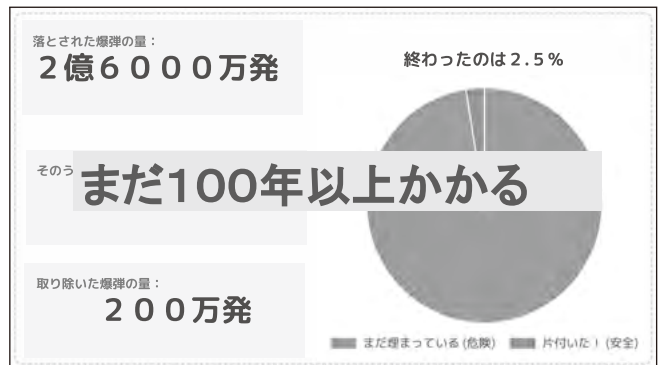
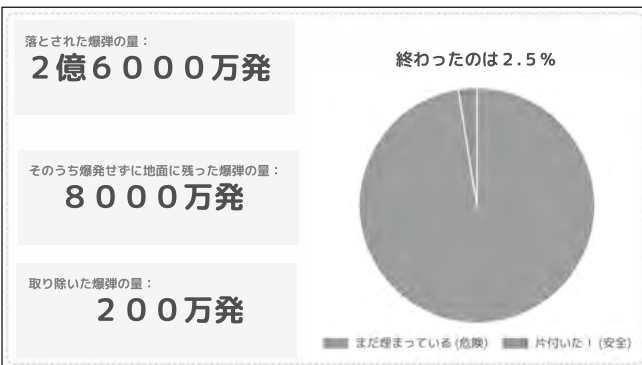
普通の生活の中に隠れている恐怖

資料8

資料9



資料10



自分たちが始めたわけでない戦争
その戦争が終わっても、
ラオスの人にとっての戦争は終わっていない



なんのために？

資料11

被爆者数の推移
(万人)

年	推定人数 (万人)
1983	35
2025 (3月末)	9万9130人

2025.07.02
被爆者、初めて10万人下回る：記憶の継承課題に

戦後80年、被爆者の高齢化進む
原爆が都市の中心で、被害者遺族を支援する被爆者は700万3月末で9万130人となった。広島県原爆体験伝承者会が発表した。2025年3月末で9万9130人となり、今年初めて10万人を下回った。被爆者平均年齢は80歳を超え、2014年より1.2倍増した。高齢化が進んでいる。被爆者支援の課題は、高齢化が進んでいる。被爆者支援の課題は、高齢化が進んでいる。被爆者支援の課題は、高齢化が進んでいる。

出所：厚生労働省
<https://www.nippon.com/ja/japan-data/h02464/>

被爆者数の推移
(万人)

年	推定人数 (万人)
1983	35
2025 (3月末)	9万9130人

2025.07.02
被爆者、初めて10万人下回る：記憶の継承課題に

戦後80年、被爆者の高齢化進む
原爆が都市の中心で、被害者遺族を支援する被爆者は700万3月末で9万130人となった。広島県原爆体験伝承者会が発表した。2025年3月末で9万9130人となり、今年初めて10万人を下回った。被爆者平均年齢は80歳を超え、2014年より1.2倍増した。高齢化が進んでいる。被爆者支援の課題は、高齢化が進んでいる。被爆者支援の課題は、高齢化が進んでいる。

出所：厚生労働省
語り部の方から直接お話を聞ける最後の世代
<https://www.nippon.com/ja/japan-data/h02464/>

広島市
The City of Hiroshima
原爆・平和

原爆体験伝承者養成事業

令和7年4月1日現在、被爆体験伝承者239人と家族伝承者39人が活動中です。
被爆体験伝承者等は、学校等の依頼に応じ伝承講話を行うだけでなく、広島平和記念資料館などで定時講話を行っています。

<https://www.city.hiroshima.jp/atomsbomb-peace/fukko/1021099/10150412.html>

戦争のない世界、7割近くが「実現しない」と回答 ～約半数が「今の日本は平和」と考える一方、将来的な懸念も示す結果に～

2025年7月25日

https://www.jrc.or.jp/press/2025/0729_048166.html?utm

知ることの先には

●映像



① 激しい空爆と不発弾



② 今もお苦しむ村の人



③ 不発弾探知作業の様子



④ 不発弾の処理の仕方

●音声



不発弾処理時の音声

●板書用写真



メコン川の夕日



不発弾からできたスプーンとゾウ



UXO Laoの方々

6. 参考資料

- ・ The New York Times 「The 53 Places to Go in 2008」
<https://www.nytimes.com/2007/12/09/travel/09where.html> (参照日2025年9月20日)
- ・ ベトナム戦争とホーチミン・ルートの歴史的背景 Mines Advisory Group (MAG) 「MAG in Laos: The Ho Chi Minh Trail」
<https://www.maginternational.org/what-we-do/where-we-work/laos/> (参照日2025年11月15日)
- ・ UXO Sector Annual Report 2023 「UXO accidents and casualties, number, 2011-2023」
nra.gov.la/index.php. UXO Sector Annual Report 2023_ENG.pdf (参照日2025年11月15日)
- ・ TSSライク! 「シリーズ『ラオスと広島』」
<https://www.tss-tv.co.jp/tssnews/000031271.html> (参照日2025年11月5日)
- ・ 広島市「原爆・平和 被爆体験伝承者養成事業」
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/atomicbomb-peace/fukko/1021099/1015041.html>
(参照日2025年9月20日)
- ・ nippon.com 「Japan Data 被爆者、初めて10万人下回る：記憶の継承課題に」
<https://www.nippon.com/ja/japan-data/h02464/> (参照日2025年9月20日)
- ・ 日本赤十字社「戦争のない世界、7割近くが『実現しない』と回答 ～約半数が『今の日本は平和』と考える一方、将来的な懸念も示す結果に～」
https://www.jrc.or.jp/press/2025/0729_048166.html?utm (参照日2025年9月20日)

世界とつながる日本 ～国際協力について考えよう～

1. 授業実践者および単元の紹介

- **学校名** 香川県高松市立円座小学校
- **実践者** 四宮 健
- **実践教科** 総合的な学習の時間
- **単元名** 世界とつながる日本 ～国際協力について考えよう～
- **単元を貫くキーワード**
#国際協力 #開発途上国 #国際理解 #多文化共生 #他者理解
- **対象学年・人数** 第5学年 145名（4学級）

2. 単元計画

●単元設定の理由・実践者の思い

小学5年生という発達段階において、自分の身近な事象については自ら考え行動する力が育ってきているが、多様化する現代社会で起こっている様々な課題については関心が低く、また自分事として捉える児童は少ない。社会がますます国際化する中で、児童がより「世界の中の日本」という意識を持ち、国際課題に対して自分の考えをもったり、他者と関わったりする態度を育てたいと考え、本単元を設定した。

●単元の目標

開発途上国の人々の生活と日本の生活を比較したり、開発途上国の課題について話し合ったりする活動を通して、国際理解の必要性や多様性を認めることの大切さを実感し、国際課題に対してどのような形で協力できるかを考えて、今後の生活に生かそうとすることができる。

●単元構成（全5時間）

時	テーマ・ねらい	活動内容	メインの学習※
1	ラオスと日本 (学習課題との出会い)	・ラオスと日本の写真の比較(クイズ) (類似点・相違点について話し合う)	
2	開発途上国の課題 (開発途上国の課題をつかむ)	・開発途上国の現状について知る・調べる (写真を用いた「フォトランゲージ」、データ等)	
3	国際社会の不均衡さ (国際社会の課題をつかむ)	・世界経済の不平等さ、国際社会の課題について体験する (「貿易ゲーム」)	
4	多文化共生 (マイノリティの気持ちを理解する)	・自分の「あたりまえ」、他者の「あたりまえ」のちがいについて体験する(ロールプレイ)	○
5	国際協力 (国際協力の在り方を考える)	・国際協力がどのようなものかを知る ・自分ができる国際協力について考え、交流する (ダイヤモンドランキングで順位付け)	

※展開案記載の授業

3. メインの学習（実践者が最も共有したい授業の展開案）

●目標

日本の「あたりまえ」と世界の国の「あたりまえ」を比較し、国や人によって「あたりまえ」が違っていることに気づき、互いの文化の違いや価値観の違いを認め、多文化が共生する社会について考えることができる。

●学習指導過程

過程 (時間)	教員の働きかけ・学習活動および発問・指導形態	指導上の留意点	使用教材
導入 (3分)	○いろいろな「あたりまえ」について考える。 (全体) ・生活の中における、自分と友だちのあたりまえを比較する。(起床後にすること・学校から帰宅後にすること) ㊦ルールプレイで「あたりまえ」について考えよう	・教師は、それぞれのあたりまえを認める。 ・違いを感じる場面を具体的にイメージしやすい資料を用意する。	・パワーポイント【資料1】 ・ワークシート【資料2】
展開1 (17分)	○ルールプレイを行う。 (グループ) ・ルールや設定を確認する。 ・4人グループを編成し、それぞれ役割になりきって、①集合時間②服装③食事④掃除について話し合う。(各2分) ・話し合った感想をワークシートに記入し、交流する。 ㊧ルールプレイで話し合ってみて難しかったところはどこですか。	・ルールプレイであるため、与えられた役割になりきって話し合いを行うように助言する。 ・時間内に内容を決めることを意識できるように、話し合う項目ごとに時間を区切る。 ・話し合いの際、何を発言すればよいか困る児童には、せりふの例を使うように助言する。 ・話し合いを行って、難しかった点や、意見が分かれた点などについて全体で共有する。	・招待状【資料3】 ・計画書【資料4】 ・役割カード【資料5】
展開2 (10分)	○あたりまえカードを共有する。 (グループ・全体) ・まず、自分の役割のあたりまえカードを読む。 ・その後、グループ内の他の友だちに対して読み上げ、情報を共有する。 ・あたりまえカードを読んで感じたことや考えたことについて話し合う。 ㊨あたりまえカードを読む前と読んだあとで自分の考えは変わりましたか？変わったのなら、どのように変わりましたか。	・あたりまえには違いがあることを再認識できるように、日本の文化や価値観とは違った特徴のあるものが書かれたあたりまえカードを用意する。 ・異文化に対する理解を深めるため、あたりまえカードを読む前と後で自分の考えに変容があったかを問う。	・あたりまえカード【資料6】

展開3 (10分)	<p>○これからの人との関わり方について考える。 (全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活している中で、外国人を見かけたり、関わったりした経験を振り返る。 ・在留外国人数を表すグラフから、日本に住む外国人の数の変化を読みとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数値で見ても日本における外国人の数が増えてきていることが分かるように、在留外国人数の推移を表すグラフを示す。 ・外国人も含め、他者とともに生活していく上で大切なことについて考えさせる。 ・これからの自分の生活と結び付けて考えるように助言する。 	<p>・パワーポイント 【資料1】</p>
振り返り (5分)	<p>○振り返りを行う。 (全体)</p>		

4. 実践授業を終えて

●単元を通じた児童生徒の感想や学び・変容

単元初めは、開発途上国に対して、「自分たちの生活と比べると考えられない。」「そのような課題があるなんて知らなかった。」というような、驚きの反応、理解に苦しむ反応が多くみられた。その後、さまざまなアクティビティを通して、より具体的にどのような課題があるのかを実感し、単元終末では、これまでの学習を通して考えた「国際協力」について、自分たちにできること・すべきことは何かを主体的に考え、友達と交流する様子が見られた。

メインの学習で行った、「あたりまえ」を考えるロールプレイを行った振り返りからも、自他の「あたりまえ」が違っていることを感じ、それらの違いを認め尊重することの大切さに気付く児童が多くみられた。

【授業を終えての児童の振り返り】

【振り返り】(分かったこと・考えたこと・疑問に思ったこと・もっと知りたいことなど)

それぞれの国でいろいろな「あたりまえ」があるの
でそれぞれの意見や「あたりまえ」を尊重してみん
なでかいてきは生活できるようにしたいです。これから
日本や外国の「あたりまえ」についてもっと言周べてけ
たいです。

【振り返り】(分かったこと・考えたこと・疑問に思ったこと・もっと知りたいことなど)

国によってはそれぞれ「あたりまえ」がいろいろ分
かった。日本にも外国人がたくさんいるから「意見」が
ちがうときは、必ず「あたりまえ」を「あつち」の意見
も大事にしていきます。いろいろな理由で意見
がちがう「あたりまえ」からこのことを大切にしたい。

【振り返り】(分かったこと・考えたこと・疑問に思ったこと・もっと知りたいことなど)

役割りカードだけを見たときは自分がその人だったけどあたりまえカードを見るとそれぞれ理由があると分かりました。これからあまりの人たちと生活していくうえで相手の意見も自分の意見も大切にしたいです。人によってあたりまえはちがっていたのでびっくりしました。

【振り返り】(分かったこと・考えたこと・疑問に思ったこと・もっと知りたいことなど)

他の国であたりまえなことは、別の国の人にとってはおどろかえることがあるということが分かりました。自分だけが正しいから他の人の意見を聞かずに決めてしまうと不公平がうまれてしまうので不公平にならないように考えたいと思いました。

●授業実践者の感想・振り返り

「国際協力」を単元のテーマにおき、計5時間単元で授業実践を行った。開発途上国に対してマイナスな出会いをさせたくないという思いで、第1時はラオスと日本の違いについて考えるクイズを行った。児童はラオスと日本の共通点や相違点を楽しみながら見つける姿が見られた。毎時間、教師による講話ばかりにならないように、毎時間アクティビティを入れたり、友達と話し合う活動を取り入れたりして単元を計画した。「国際協力」というテーマが、児童にとっては実生活とはかけ離れたもので、現実味がない、と感じやすいものであると考えられるので、普段の生活を振り返り、日本と外国はあらゆる場面につながっていること、そこには互いの協力関係も影響しあっているということを伝えていながら、今後も児童と一緒に考えていきたい。

5. 使用教材

資料1 パワーポイント

「あたりまえ」ってなんだろう？

わたしの「あたりまえ」
あなたの「あたりまえ」


Q.朝、起きてまずすることは？



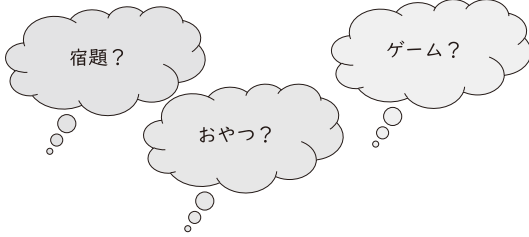
Q.朝、起きてまずすることは？

顔を洗う？
着替える？
歯をみがく？

Q.下校後、家に帰ってまず何をする？



Q.下校後、家に帰って何をする？



めあて

ロールプレイで「あたりまえ」について考えよう

【ルール】

学校の代表としてある表彰式に参加
グループ（4名）全員で出席
計画シートで4項目を決める



表彰式のご案内

表彰式計画

表彰式の日時(学校) / 会場	表彰式の日時(学校)
出席するグループ(4名)全員	表彰式の場所(学校) / 表彰式の日時(学校)
表彰式(1時間) / 表彰式(1時間)	表彰式(1時間) / 表彰式(1時間)
表彰式(1時間) / 表彰式(1時間)	表彰式(1時間) / 表彰式(1時間)
表彰式(1時間) / 表彰式(1時間)	表彰式(1時間) / 表彰式(1時間)

【絶対に守ってほしい3つのルール】

- ①「役割カード」を他の人に見せないこと
- ②役割になりきって話し合うこと
- ③時間内で計画を立てること
(1つの項目につき2分)

自分の役割カードをよく読みましょう

項目1「駅での集合時間」
について話し合います(2分間)



項目2「表彰式の服装」
【きちんとした服装・おしゃれな服装】
について話し合います(2分間)



項目3「食事」
【みんなで一緒に行く・行かない】
について話し合います(2分間)



項目4「会場のそうじ」
【そうじする・そうじしない】
について話し合います(2分間)



どのような計画になりましたか？

- ①集合時刻
- ②服装
- ③食事
- ④そうじ

感想の交流

『あたりまえカード』を静かに読みましょう

役割Aの人から順に、自分の『あたりまえカード』を読んであげましょう

「メニューを選ぶのが大変だから、人といっしょにごはんを食べたくない」の背景（理由）

ベジタリアンやビーガンって知っているかな？実は、肉を食べないのが「あたりまえ」。私のいたアメリカなどのおう米の国では、野菜専門のレストランやスーパーなどもたくさん見かけたのにな。日本に来てからは、自分と同じようなベジタリアンやビーガンをほとんど見かけないから、まわりのみんなに言い出しづらくて…。日本ではベジタリアンやビーガンのためのメニューを用意しているお店なんてあまり見かけないし、お店選びでみんなにめいわくをかけたくなかったんだ。

「掃除をする意味が分からないから、掃除には参加しない」の背景（理由）

ブラジルや南アフリカなど、学校や家で自分から掃除をすることなんてない国もたくさんあるんだ。日本では、ごみを落としたら自分で拾ったり、自分でぬいだくつをならべたりするよね？とっても不思議。私のいた国の「あたりまえ」では、掃除をする仕事の人がいるから、自分でやってしまうとその人たちの仕事をうばってしまうことにもなるし、まわりの人に変に見られたり、笑われたりされることもあるよ。実は日本のように学校で掃除をする国は海外はほとんどないんだよ。日本では学校の掃除は自分たちでするけど、他国だと学校の掃除は職業になるからね。でも、この話し合いでは、自分の「あたりまえ」が通用しなくてびっくりしたね。

「表彰式には失礼のない、きちんとした服そうで参加したい」の背景（理由）

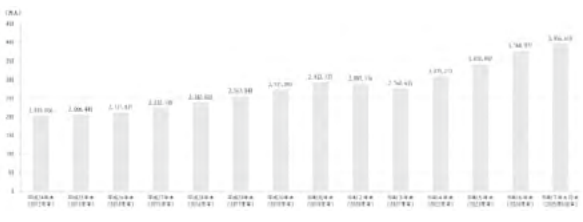
日本では、正式な場では服そうを整えてきちんとしたかっこうをするのが「あたりまえ」だし、私たちくらいの子どもだと、お化粧(けしよ)やアクセサリーをすることは「きちんとしたかっこう」とは呼ばれないよね。だけど、日本以外の国では、お化粧をしたりピアスをつけたりして学校に行くことが「あたりまえ」の国も多いらしいんだ。もちろん正式な場でも失礼にならないから、アクセサリーをつけたり、おしゃれをしたりしてもだれも気にしないんだって。でも、この話し合いでは、自分の「あたりまえ」が通用しなくてびっくりしたね。

「昼には下校できるのだから、13:00集合がいい」の背景（理由）

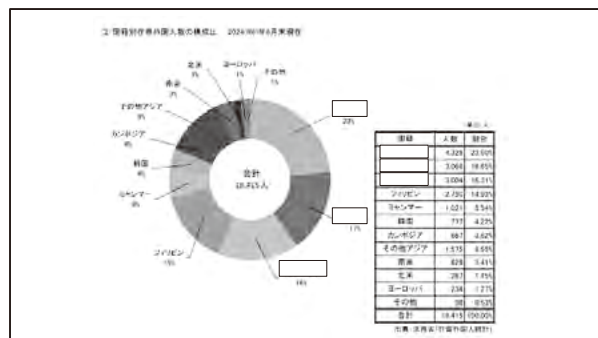
日本では、夕方までに勉強し部活やクラブ活動をしてから下校することが多いよね。でも、ブラジルなどの外国の学校は午前・午後の半日制だから、午前か午後のどちらかは自由な時間になるのが「あたりまえ」。日本に来ているのをすっかり忘れて自分のあたりまえで話をしてしまったよ。さぼりたいという意味ではなかったのだけれど…。日本の学校に通っている子からはうらやましいって言われることが多いけれど、ブラジルでは子どもが一人で外を歩くのはとても危険だから、親に送りむかえをしてもらうのもあたりまえなんだよ。

『あたりまえ』についてどのような考えが深まりましたか？

在留外国人数の推移（全国）



資料 出入国在留管理庁



これからまわりの人とともに生活していくうえで大切なことは何だろう？

ふりかえり

資料2 ワークシート

世界とつながる日本 ～国際協力について考えよう～ No.4
5年()組 名前()

⑦

○自分の「あたりまえ」について振り返ろう

「起床後することは？」

「学校から帰ってすることは？」

○話し合ってから計画を立てた後の感想

○これからまわりの人とともに生活していくうえで大切なことは？

【振り返り】(分かったこと・考えたこと・疑問に思ったこと・もっと知りたいことなど)

表彰式のご案内

高松市立円座小学校 5年 代表者様

会場： JR ホテルグレイメント高松
(JR 高松駅より徒歩1分)

日時： 12月 18日 (木)
17:00開場 17:30~18:30

注意：必ず一度帰宅してからお越しください

※表彰式終了後の18時30分より、会場の掃除を予定しております。
お時間のある方はご協力ください。

表彰式計画

① 駅での集合時間

② 表彰式の服装 [きちんとした服そう、おしやれな服そう]

③ 食事 [みんなで一緒に行く・行かない]

④ 会場の掃除 [掃除する・掃除しない]

※1つにつき時間内で必ず決めてください！時間は限られています！



【役割カード A】

山折り

【役割カード A】

□役割□

- 意見をまとめるリーダー的存在
- どんなときにもみんなを引っしょに行動したい
- 最近買った新しい赤いTシャツを着ていくのが楽しみ
- ごはんのメニューを遠慮が大変だから人と引っしょにごはんを食べたくはない

◇セリフの例◇

「みんなを行動したいから、必ず一つの意見にまとめようよ！」
 「服そうは自由でいいと思うよ！」
 「みんなで作れば掃除も楽しいよ！」
 「帰りのご飯は引っしょに食べないでそれぞれ家で食べようよ、夜おそくなっちゃうし、お金もないし。」

☆重要☆

帰りのご飯だけは絶対にゆずっちゃうんだよ！



【役割カード B】

山折り

【役割カード B】

□役割□

- 家が遠いための帰塾してから遊びに行けるのは16:30以降
- 掃除をする意味がわからなから掃除はしない
- おしやれをするのが大好き
- 表彰式後にみんなで作る食べに行くことが一番の楽しみ

◇セリフの例◇

「学校から家が遠いから、16:30以降にしか帰塾できないよ。」
 「せっかくの表彰式だから自由におしやれをして行こうよ。」
 「えー！掃除なんて絶対にしたくないよ。なんで私たちの掃除しなくちゃいけないのか意味がわからないよ。家で話したらびんぐりされちゃう！」
 「帰りのご飯はみんな引っしょがいいな、これが一番楽しみだった。」

☆重要☆

掃除だけは絶対にゆずっちゃうんだよ！



【役割カード C】

山折り

【役割カード C】

□役割□

- 学校も早退したことも休んだこともない
- スルや不正なと曲がったことが大さらないリーダー
- 学校の代表として参加することへの責任意識が強い
- 表彰式には表彰のないまちゃんとした服そうて参加したい

◇セリフの例◇

「学校は早退せずに帰りの会まで出てから帰って、16:30には集合しよう!」
「表彰式におしやれちゃんて来たよ、正式な場でそんな服そうするなんて失礼だよ!」
「まちゃんからやっっているし、案内に書いてあるのだから開始まで参加しよう!」
「代表として参加したのだし、このメンバーでおつかれさま合したよね!」

☆重要☆

表彰式にまちゃんとした服そうて行くことだけは絶対にゆずっちゃダメだよ!



【役割カード D】

山折り

【役割カード D】

□役割□

- 自由な時間ではできるだけみんなといたい
- 昼には下校できるのだから13:00集合がいい
- 最近買ったピアスましていくのが楽しみ
- 人のためになるような活動には積極的に参加する

◇セリフの例◇

「学校から帰ってから十分に時間があるといいから13時集合にしようよ!」
「16時集合じや帰ってからの時間がおそいよ!長い時間いっしょにいるのが親友でしょ!」
「ピアセサリーもつけたいいし、おしやれしていいこうよ!」
「使ったら掃除するのはマナーだよね!」
「できるだけいっしょにいたいし、夕飯いっしょに食べようよ!」

☆重要☆

13:00集合は絶対にゆずっちゃダメだよ!



【あたりまえカード A】

山形

【あたりまえカード A】

★ちがいは★

「メニューを選ぶのが大変だから、人としてしょごはんを食べたくない」の背景(理由)

ベジタリアンやビーガンになって知っているかな？実は、肉を食べないの「あたりまえ」が、私のいたアメリカなどのおうち米の国では、野菜専門のレストランやスーパーなどもたくさん見かけたのよ。日本に来てからは、自分と同じようなベジタリアンやビーガンをほとんど見かけないから、まわりのみんなに言いつらなくて…。日本ではベジタリアンやビーガンのためのメニューを用意しているお店なんてあまり見かけないし、お店選びでみんなにめいわくをかけたくなかったんだ。



【あたりまえカード B】

山形

【あたりまえカード B】

★ちがいは★

「排除の意味が分からないから、排除には参加しない」の背景(理由)

アメリカやカナダなど、学校や家で自分から排除をすることなんてない国もたくさんあるんだ。日本では、ごみを落としたり自分で拾ったり、自分でぬいだらをならせたりするよね？でも不思議、私のいた国の「あたりまえ」では、排除をする仕事の人がいるから、自分でやってしまうとその人たちの仕事をうばってしまうことになるし、まわりの人に要に見られたり、笑われたりされることもあるよ。実は日本のように学校で排除をする国は海外はほとんどないんだよ。日本では学校の排除は自分たちでするけど、他国だと学校の排除は職業になるからね。でも、この話聞いては、自分の「あたりまえ」が通用しなくてびっくりしたわ。



【あたりまえカード C】

山形

【あたりまえカード C】

★ちがいがい★

「表彰式には失礼のない、きちんとした服を着て参加したい」の背景（理由）

日本では、正式な場では服や髪を整理整頓してきちんとしたかっこうをすることを「あたりまえ」だし、私たちが小さい子どもだと、お花壇やフラセサリーをすすめることは「きちんとしたかっこう」とは向はれないよね。だけど、日本以外の国では、お花壇をしたりピアスをつけて学校に行くことが「あたりまえ」の国も多いらしいんだ。もちろん正式な場でも失礼にならないから、フラセサリーをつけたり、おしぼれをしたりしてもだれも気にしないんだって。でも、この話し合っているのは、自分の「あたりまえ」が通用しなくてびっくりしたね。



【あたりまえカード D】

山形

【あたりまえカード D】

★ちがいがい★

「昼には下校できるのだから、13:30集合がいい」の背景（理由）

日本では、夕方までに勉強し習字やフラ活動をしてから下校することが多いよね。でも、フランスなどの外国の学校は午前、午後の半日制だから、午前か午後のどちらかは自由な時間になるのが「あたりまえ」ね。日本に来ているのをついでに忘れて自分のあたりまえを話してしまっただよ。さぼりたいという意味ではなかったのだけれど…。日本の学校に通っている子からはやらやましいって言われることが多いけれど、フランスでは子どもが一人で外を歩くのはとても危険だから、親に送り迎えをしてもらうのがあたりまえなんだよ。

6. 参考資料

- ・『学校や地域で活用できる！ 多文化共生ワークショップ集』（JICA横浜）
https://www.jica.go.jp/domestic/tokyo/activities/kaihatsu/material/_icsFiles/afieldfile/2025/02/20/activity_2018.pdf（参照日2025年11月1日）
- ・『世界の課題を考える写真』（JICA）
<https://www.jica.go.jp/cooperation/learn/material/practice.html>（参照日2025年11月1日）
- ・『つながる世界と日本』（JICA）
https://www.jica.go.jp/aboutoda/find_the_link/（参照日2025年11月1日）
- ・YouTube 『【開発途上国・教育】 開発途上国について徹底解説』（JICA）
<https://www.youtube.com/watch?v=CnRf59bfF6s>（参照日2025年11月1日）
- ・『共につくる 私たちの未来』（JICA 地球ひろば）
- ・『JICA中部 教師海外研修ガイドブック』（JICA中部）

伝えよう自分の生き方 ～自分の幸せについて考えよう～

1. 授業実践者および単元の紹介

- **学校名** 香川県三木町立田中小学校
- **実践者** 金井 彩夏
- **実践教科** 総合的な学習の時間
- **単元名** 伝えよう自分の生き方 ～自分の幸せについて考えよう～
- **単元を貫くキーワード**
#異文化理解 #多文化共生 #日本とラオス #豊かさ #幸せ
- **対象学年・人数** 第6学年 18名

2. 単元計画

●単元設定の理由・実践者の思い

本学級の子どもたちは、総合的な学習の時間で1年間を通して「伝えよう 自分の生き方～様々な生き方を知り、未来へつなごう～」のテーマのもと学習を進めている。子どもたちは、4月から自分の将来の職業を調べたり、様々な職業の人から生き方を聞いたりしてきた。学習の中で、子どもたち一人一人が将来自分の思い描く幸せに近づけるようにと願って日々、教育活動に携わっている。一方で、学校生活の中で「この国の人は悪いイメージだから日本がいい。」「ゲームをしているときが一番幸せ。」と一部の子どもには特定の国への偏見や、消費的な快楽（ゲーム等）のみを幸せと捉える傾向も見られる。私は教師海外研修を通じ、アジア最貧国と称されるラオスで、笑顔に溢れ、互いに助け合う人々の姿に接した。そこには、効率や便利さを追求する過程で私たちが置き去りにしてきた『幸せの原点』があった。本単元では、私の実体験を『生きた教材』として提示し、『便利=幸せ』という固定観念を揺さぶりたい。イメージで判断せず、多様な生き方を知ることで、子どもたちが自分自身の未来をより多角的な視点で描き、自分なりの『幸せの尺度』をもつきっかけとなることを願っている。

教師海外研修を通して、「何をもちて幸せというのか」「国際協力は誰のために必要なのか」を考えさせられた。アジア最貧国と言われているラオスは、便利で豊かな生活を送っているとは言い難いと思っていたが、実際に訪れると、笑顔に溢れ、便利さを追求した私たちが失ったものが、ラオスから学べる幸せであると感じた。先進国であり便利な物に溢れているだけが幸せの基準ではなく、様々な生き方や文化を知り、一人一人が思い描く幸せについて視点を増やしたいと思い、本単元を設定した。さらに、イメージだけで物事を判断せず、自分自身の目で見て、経験してほしいと感じた。

単元の中での様々なゲストティーチャーからの話や、教師のラオスでの体験談を聞くことを通して、多様な価値観や考え方にふれ、自分の思い描く幸せとは何かをまとめる。さらに、友だちとの交流を通して、自分の未来の姿へとつなげて考え、生き方についての自らの課題を見つけることで、主体的・対話的に考える子どもを育てたい。

●単元の目標

- ・子どもたちが望ましい職業観や勤労観を培ったり、自分の夢や希望に向けて努力することができる。
- ・様々な体験を通して、自分の未来の姿へとつなげて考え、生き方についての自らの課題を見つけ、主体

的・対話的に考えることができる。

- ・ 交流や体験を通して、自分たちでできることを考え、発信し、行動できる。
- ・ 地域との連携を図り、ゲストティーチャーや学習サポーターとふれあう活動を通して、児童が自らの活動を評価して改善を加え次の行動の意欲につながるすることができる。

● 単元構成（全7時間）

時	テーマ・ねらい	活動内容	メインの学習※
1	JICA隊員について知ろう。	JICA隊員の話聞く。 (マダガスカル)	
2	挨拶を通して、世界について考えよう。	「ひょうたん島問題」を通して、相互理解について考える。	
3	「戦争は最大の人権侵害」	ラオスの不発弾を学習し、これからの平和について考える。	
4	世界の現状について考えよう。	貿易ゲームを通して、世界の国についてそれぞれの立場から考えよう。	
5	国同士の支援、協力について知ろう。	協力、支援、援助をしている機関やありかたについて考える。	
6	世界の貧困に目を向けよう。	JICA栄養ワークショップ教材「買い物ゲーム」を体験して世界の貧困について学ぶ。	
7	自分の幸せについて考えよう。	ラオスについて知り、自分の思う幸せについて考えよう。	○

※展開案記載の授業

3. メインの学習（実践者が最も共有したい授業の展開案）

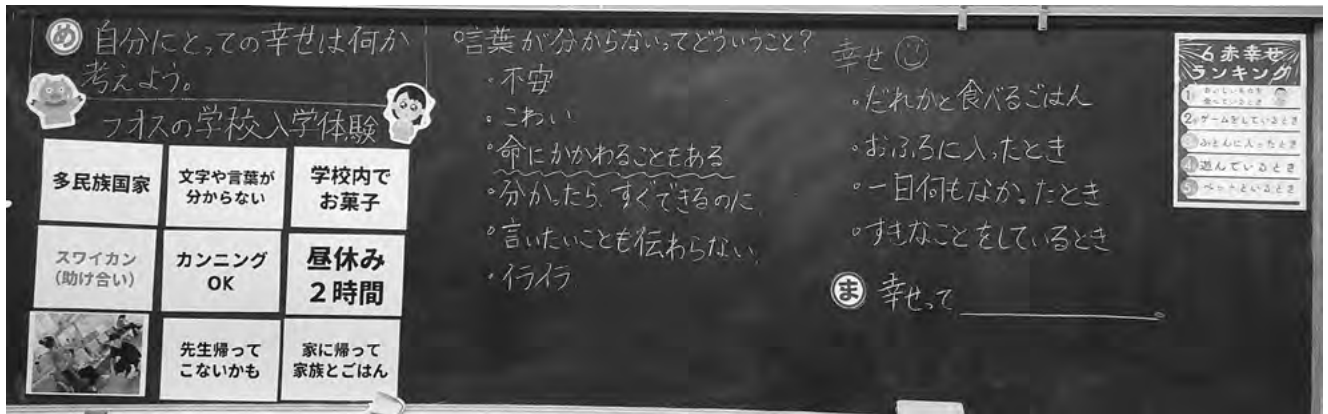
● 目標

- ・ 国際社会における日本の役割を理解し、日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さに気付くことができる。(知識・技能)
- ・ 身の回りの人々や環境にふれ、世界の実情や課題、国際協力について主体的に学び、学んだことを生かして自身のこれからの生き方について考えることができる。(思考・判断・表現)
- ・ 様々な活動を通して、自分の未来の姿とつなげて考え、自分のこれからの生き方や夢を実現させようという思いをもつことができる。(主体的に学習に取り組む態度)

● 学習指導過程

過程(時間)	教員の働きかけ・学習活動および発問・指導形態	指導上の留意点	使用教材
(5分)	1. 今までの学習を振り返る。	・ これまで学習してきた様々な活動の様子をPPTで振り返ることでこれまでの学習を想起させる。	・ 活動記録スライド(PPT) ・ 電子黒板使用

(5分)	2. クラス全体の「幸せを感じる」ときを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に子どもたちに「自分が幸せを感じる時はどんなときか」という質問についての答えをロイロノートのシンキングツールを用いてシートを作成しておく。 ・ランキングの結果を提示することで現時点の子どもたちの考える幸せを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケート（一人一台端末使用） ・幸せランキング（シンキングツール）（一人一台端末使用）
(7分)	3. ラオスの基本情報について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・PPTで写真を用いながら、子どもたちのつぶやきを拾いながら発言しやすい雰囲気を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラオスの生活の様子の写真(PPT) ・電子黒板使用
(10分)	4. ラオスの学校体験をする。活動を通して、「ラオスのすてき」、「びっくり」について整理する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で言葉が分からない困難さ（多民族国家）、助け合いの心スワイカン（テストのカンニング）、学校内でお菓子が売られている、教員によっては午後から帰る日もある、などを実際に演じる。 ・言葉や文字が分からないことは、どんな困難があるのかも確認しておく。 	<p>【ワークシート①】</p> <p>【テスト①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲み物 <p>【ワークシート②】</p> <p>(ラオ語)</p>
(5分)	5. 先進国、発展途上国について写真を見ながら、自分のもつイメージについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・既習内容の「先進国」「開発途上国」についての自分のもっているイメージを素直に発言できるように促す。開発途上国のマイナス面だけでなく、プラスな面も紹介することで、心の豊かさについて考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「先進国」「開発途上国」等の写真(PPT) ・電子黒板使用
(5分)	6. 学習したことをもとに自分の考える幸せについてもう一度考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に考えておいた自分の幸せを再確認することで、便利さやモノがあふれている豊かさ、心の豊かさとの違いに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幸せランキング（シンキングツール）（一人一台端末使用）
(5分)	7. 発表する。		
(8分)	8. 振り返る。		



4. 実践授業を終えて

●単元を通じた児童生徒の感想や学び・変容

単元の中の第4時が終わったときに、子どもたちに「どんなときに幸せを感じますか。」というアンケートを取った。クラスでは、「おいしいものを食べているとき」「ゲームをしているとき」「布団に入ったとき」が上位にあがった。

個人の変容は以下のとおりである。

ふりかえり

これまでに、した授業の中で自分は協力、支援、援助の
 のちがいに ついての授業が、一番心に残りました。
 自分が支援より協力がいいと思う理由は、支援は
 自分たちがしてあげただけで、協力は自分たちがすること
 を相手が、学んで、次からは他の国に頼らずに解決
 できるようになるからです。

ふりかえり

自分の幸せは、たくさんあるけれど、世界
 には、幸せではない人がいるという決りつけるの
 ではなく、その人の幸せがあるということわか
 かりました。また、このことを頭に入れて、
 生きていきたいと思います。

●授業実践者の感想・振り返り

本時に向けて、教師の主観が子どもたちの先入観にならないよう「先生はこう感じた」という伝え方に徹したことで、子どもたちは自由で多角的な思考を巡らせることができた。単元を通して、JICA隊員の話や国際協力の実態に触れる中で、子どもたちの中に「物にあふれた便利さ」と「ラオスで見つけた心の豊かさ」との間での健全な葛藤が生まれた。

振り返りでは「募金」や「食品ロス削減」といった言葉が挙がったが、これらを単なる「定型句としての正解」に終わらせず、いかに「自分の生き方」に直結する自分事として深められるかが今後の課題である。

ラオスで言葉を越えて心が通じ合ったあの瞬間の熱量を、どうすれば子どもたちが日常の行動に反映できるか。1年間の総合的な学習の時間の締めくくりとして、世界を知識として知るだけでなく、他者への想像力を持ち、具体的な一歩を自ら踏み出せる力を育てていきたい。

5. 使用教材

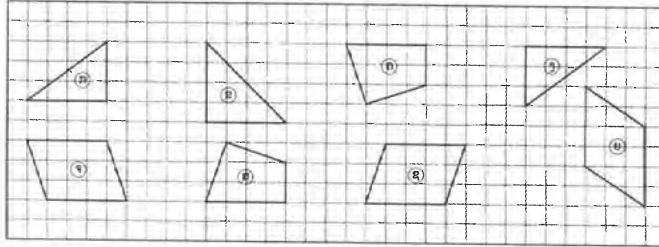
資料1

ワークシート①

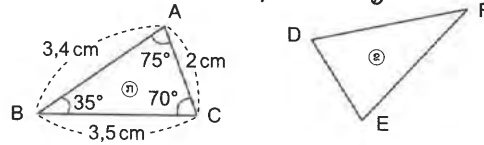
2025年12月12日				
問診票				
氏名		生年月日	年 月 日	男・女 年齢()
住所			電話番号	
○本日はどうされましたか？あてはまる所に☑をつけてください。				
<input type="checkbox"/> 熱がある <input type="checkbox"/> のどの痛み <input type="checkbox"/> 頭が痛い <input type="checkbox"/> 下痢 ^{げり} <input type="checkbox"/> 便秘 <input type="checkbox"/> 寒気がする <input type="checkbox"/> 健康である <input type="checkbox"/> その他()				
○持病はありますか？あてはまる所に☑をつけてください。				
<input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある → <input type="checkbox"/> 高血圧 <input type="checkbox"/> 糖尿病 <input type="checkbox"/> 心臓病 <input type="checkbox"/> 花粉症 <input type="checkbox"/> ぜんそく				
○薬や食べ物にアレルギーはありますか？				
<input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある → ()				
○タバコは吸いますか？				
<input type="checkbox"/> 吸わない <input type="checkbox"/> 吸う → 1日の本数 ()本				

15 ຈົ່ງຕອບຄໍາຖາມຕໍ່ໄປນີ້.

① ຈົ່ງຊອກຮູບທີ່ທຽບເທົ່າກັນຈາກຮູບຕໍ່ໄປນີ້.



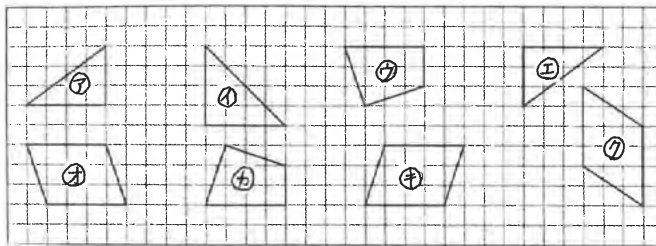
② ຮູບສາມແຈ ㉑ ແລະ ㉘ ລຸ່ມນີ້ແມ່ນທຽບເທົ່າກັນ.



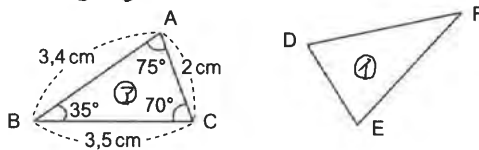
- ① ຄວາມຍາວຂອງຂ້າງ DE, EF ແລະ FD ແມ່ນຈັກ cm?
- ② ຂະໜາດຂອງມຸມ D, E ແລະ F ແມ່ນຈັກອົງສາ?

15 次の問いに答えましょう。

① 下の図で合同な図形をみつけましょう。



② 下の三角形㉑と㉘は合同です。



- ① 辺 DE、EF、FD の長さはそれぞれ何cmですか。
- ② 角 D、E、F はそれぞれ何度ですか。

6. 参考資料

- ・ 神奈川県「多文化共生社会をめざして」（外国籍県民の人権）ワークシート2
<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/5874/sk-prog-02.pdf>（参照日2025年12月10日）
- ・ 世界一大きな授業2013
<https://www.jnne.org/gce2013/pdf/material2013.pdf>（参照日2025年12月10日）
- ・ JICA学びのプログラム集2024年度JICA中国・四国教師海外研修授業実践報告書

日本の学校ってどんな感じ？ (NEW CROWN 1 Lesson6 Goal Activityより)

1. 授業実践者および単元の紹介

- **学校名** 岡山県里庄町立里庄中学校
- **実践者** 佐藤 郁弥
- **実践教科** 英語
- **単元名** 日本の学校ってどんな感じ？
- **単元を貫くキーワード**
#異文化理解 #国際理解 #国際協力 #当事者性 #違いから学ぶ
- **対象学年・人数** 第1学年 30人

2. 単元計画

● 単元設定の理由・実践者の思い

本単元は、他国の学校生活について知ることを通して、異文化への理解を深めるとともに、自分たちの学校生活を客観的に捉える視点を育成する側面を持っている。また、英語を用いて情報を理解し、自分の考えを表現する活動を通して、多様な価値観を尊重する態度を養うことを目標とする。

今回のラオスでの10日間の研修を通して、日本での生活がいかに恵まれているか、また普段の生活の中に多くの価値や豊かさがあることに気づくことができた。異なる文化や習慣に身を置いたからこそ、これまで当たり前だと思っていた環境のありがたさを実感し、「足るを知る」という姿勢の大切さを学んだ。

この気づきを、単なる個人の経験に留めるのではなく、本単元の単元観とリンクさせることで、教育を通して生徒に還元できるのではないかと考えた。外国の文化や生活に触れる学習活動を通して、生徒が自分たちの生活を見つめ直し、今ある環境や支えに感謝する心を育むとともに、多様な価値観を尊重できる姿勢を身につけてほしいと感じた。

● 単元の目標

- ・他国の学校生活や文化、価値観に関する基本的な語彙や表現を理解し、英文を読んだり聞いたりする活動を通して、内容の大まかな要点を捉えることができる。
- ・他国の学校生活と日本の学校生活を比較しながら、共通点や相違点に気づき、自分なりの考えをもち、簡単な英語を用いて表現し、相手に伝えようとするすることができる。
- ・多様性を尊重することで、自分の生活を振り返り、学んだことを今後の生活や学習に活かそうとしている。
- ・それぞれの国の特徴を理解するとともに、日本の学校生活と比較しながら国際理解に対する考えを深める。

●単元構成（全7時間）

時	テーマ・ねらい	活動内容	メインの学習※
1	Let's think about Japanese school life and American school life!	<ul style="list-style-type: none"> 教科書から、アメリカの学校生活について読み取る。 アメリカの学校生活や暮らしについてトピックごとにグループに分かれ、調べ学習をしながらスライドにまとめる。 教科書の内容を参考に、自分の学校生活や暮らしについて英語でまとめ、グループでスライドにまとめる。 日本とアメリカについてまとめた内容からその違いに着目し、気づきをクラス全体で共有する。 	
2			
3	Let's ask ALT some questions!	<ul style="list-style-type: none"> グループでまとめた内容をALTに聞いてもらう。 トピックごとに疑問に思ったことを質問する。 ALTの話聞き、実際のアメリカの学校生活について聞き取る。 再度、日本の学校生活やアメリカの学校生活の違いについてスライドにまとめ、気づいたことをクラス全体で共有する。 	
4			
5	Let's think about school life in developing countries!	<ul style="list-style-type: none"> 世界には、日本やアメリカのような先進国ばかりではなく、ラオスのような発展途上国もたくさんあることを会話の中で伝える。 ラオスの学校生活や暮らしについてトピックごとにグループに分かれ、調べ学習をしながらスライドにまとめる。 日本とラオスについてまとめた内容からその違いに着目し、気づきをクラス全体で共有する。 	
6			
7	What do you want to do with students in Laos? What can we do for the people in developing countries?	<ul style="list-style-type: none"> アメリカ、日本、ラオスの学校生活をトピックごとに比べ、それぞれの良さを考え共有する。 それぞれの国の困っていることに気づき、自分たちにできることはないか考え、クラスで共有する。 (自由課題) 他の国の様子について調べまとめたことを発表する。 	○

※展開案記載の授業

3. メインの学習（実践者が最も共有したい授業の展開案）

●目標

- アメリカ、日本、ラオスの学校生活をトピックごとに比べ、その違いを言及しながらそれぞれの良さをスライドを用いて英語で伝えることができる。
- それぞれの国の困っていることに気づき、自分たちにできること、またその国の生徒と一緒にしたいことを英語で伝えることができる。

●学習指導過程

過程(時間)	教員の働きかけ・学習活動および発問・指導形態	指導上の留意点	使用教材
(5分)	日本とアメリカの学校生活の違いについて、教科書の内容を参考に英語で表現させる。	・教室内で自由に会話をさせ、これまでの学習を思い出す時間を確保する。	【NEW CROWN1】 Lesson6 Part1, Part2

(5分)	ラオスについてグループでまとめたスライドの内容を確認し、発表の最終確認をする。	・グループ学習の形をとるが、協働的・探究的な学習を充実させるために、個の学びの時間をしっかりと確保する。	
(30分)	グループごとのトピックについて英語で発表する。 発表の最後にラオスでしたいこと、またラオスの生徒と一緒にしたいことを英語で伝える。 他のグループの発表中は、ワークシートに聞き取った内容をメモする。	・発表の流れの中で、I want to ~が出てこないときは、What do you want to do?と聞いて、発表を促す。	【ワークシート③】 【ワークシート④】
(10分)	振り返りをする。 本単元を通して学習した、世界の国の学校生活や普段の暮らしについて、日本の学校生活や暮らしの様子と比べ、感じたことを近くの友達と共有する。	・発表の中で聞き取った内容と関連づけて会話させるように声をかける。	

(評価基準)

- ・ want to ~を使って自分のしたいことを伝えることができる。
 - A. I want to play Sepak Takraw with students in Laos.
 - B. I want to play Sepak Takraw.
 - C. I play Sepak Takraw.
 - ・ want toがない。
 - ・ want to の後に動詞がない。
 - ・ 動詞や、動詞につづく目的語が、調べた内容と一致しない。
 - ・ 振り返りシートを活用して学びを調整しようとしている。


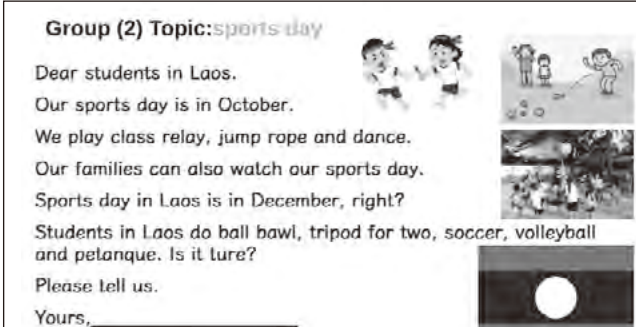
4. 実践授業を終えて

●単元を通した児童生徒の感想や学び・変容

生徒は、スライドを使って全体の前でグループごとに発表した後、トピックに関連したラオスの生徒と一緒にしてみたいことを、want to ~を使って述べる事ができた。

生徒の振り返りには、「教科書が1人に1冊あることは当たり前ではないことを知って驚いた」「安心安全な場所で学べることに感謝したい」「実際に他の国に訪れて、英語を使って会話してみたい思いが強まった」などの記述が見られ、異文化理解と自己理解が結びついた学びが生まれていた。

生徒がトピックごとにグループに分かれ作成したスライド

<p>Group (1) Topic : after school</p>  <p>Dear students in Laos, At my school, students play club activities after school. We can choose one from Japanese archery, volleyball, kendo, basketball, table tennis, soft tennis, brass band club, judo, information science, or track and field. We have club activities on Mondays, Wednesdays, and Fridays. At Laos school, students play club activities after school, right? You can choose one from soccer, petanque, badminton or volleyball, right? Please tell us about your school in Laos. Yours, _____</p>	<p>Group (2) Topic: sports day</p>  <p>Dear students in Laos. Our sports day is in October. We play class relay, jump rope and dance. Our families can also watch our sports day. Sports day in Laos is in December, right? Students in Laos do ball bawi, tripod for two, soccer, volleyball and petanque. Is it lure? Please tell us. Yours, _____</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

Group (3) Topic: after school

Dear students in Laos,

In Satoshio, some students go to cram school after school. Others do homework at home. We sometimes join a volunteer after school.

In Laos some students study ccc, right?

Some students do farm work. Others do house work, right?

Please tell us about after school in Laos.

Yours, _____





Group (4) Topic: Chorus contest

Dear students in Laos,

At my school, we have a chorus contest in November. We sing a song with our classmates. We have three awards, performance, piano and conductor. There are no chorus contest in Laos. But there is traditional music and folk music. The songs are about peace and the country. In Laos, students sing and play the musical instruments, right? Want do you think about chorus contest in Japan?

Yours, _____





Group(5) Topic:school lunch

Dear students in Laos,

At my school, everyone has a same lunch at the classroom.

At Laos school, some students buy snacks and sweets, at the cafeteria. Others bring lunch from home. Does the cafeteria have snacks and sweets, right? Please tell us about your school lunch in Laos.

Yours, _____



Group (6) Topic:field trip

Dear students in Laos,



We go to Fukuyama field trip in April. We enjoy field bingo and SAF.

In Laos, students have the village exchange, right? What do you do?

We go to Okinawa. We study the history in Japan. Do you have the field trip or school trip?

Please tell us about your school life in Laos.

Yours, _____



Group (7) Topic:vacation

Dear students in Laos,

We have summer vacation from July to August. Some students go to the sea. Others students see fireworks. We are excited! We have winter vacation in January too. We can go to skiing. We enjoy new year's day! but,we have homework.

You have summer vacation from August to September, right? Some students help their family. Others join in traditional events, right? You don't have a winter vacation, right? We have a question.How many homeworks do you have? Please tell us.

Yours, _____

Group (8) Topic:class

Dear students in Laos,


We study Japanese, math, social studies, science, English, moral education, music, art, P.E.technology and home economics at school. We study nine subjects. We have a same schedule. We have six hours of classes.

Your lesson at Laos school is 45 minutes long.

In Laos, students go to school at 8 o'clock and have seven hours of classes, right?

Please tell us about your classes at school in Laos.

Yours, _____



●授業実践者の感想・振り返り

本単元を通して、他国の学校生活や文化を題材にした学習活動が、生徒にとって単なる知識の獲得にとどまらず、自分たちの生活を見つめ直す機会になることを改めて実感した。特に、生徒が日本と他国の学校生活を比較しながら考える場面では、日常を当たり前として受け止めるのではなく、その価値や豊かさに気づこうとする姿が見られ、本単元のねらいが一定程度達成されたと感じている。

また、自身のラオスでの体験を背景に本単元を構成したことで、「足るを知る」という価値観を、より実感を伴った形で生徒に伝えることができたと考える。

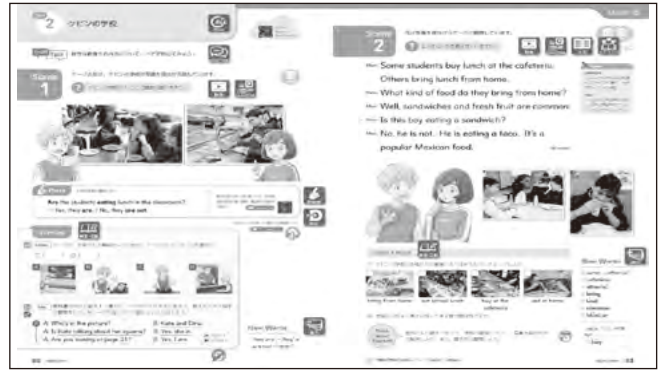
一方で、英語による表現活動においては、自分の考えを十分に言語化できない生徒もおり、言語面での支援や段階的な表現活動の工夫が今後の課題として明らかになった。本単元を通して、異文化理解を深める授業には、生徒の思考を丁寧に引き出す問いの設定と、安心して表現できる言語的支援、環境が不可欠であることを学んだ。

今回の実践を通して、自分自身、英語教育は単なる言語技能の育成にとどまらず、生徒の価値観やものの見方を広げる力になっていることを改めて認識した。今後も、自身の経験を活かしながら、学びが生徒の内面の変容につながる授業づくりを目指していきたい。

5. 使用教材



Lesson6 part1
Everyone has a different schedule.



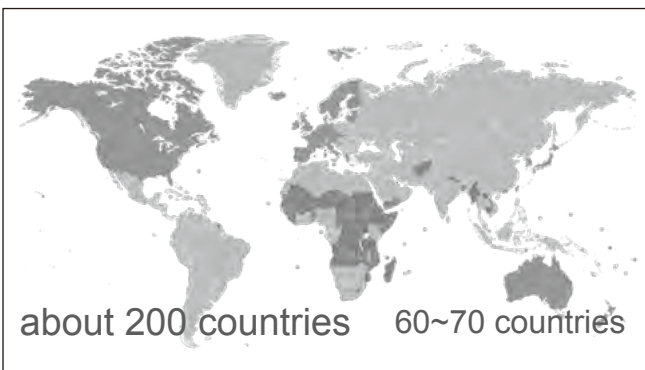
Lesson6 part2
Some students buy lunch at the cafeteria.



Lesson6 Goal Activity
Let's write a message to students in America.



Let's think about countries in the world.



How many developing countries in the world?



What can we do for the people? Let's think about it.

国際協力って何だろう？

1. 授業実践者および単元の紹介

- **学校名** 岡山県和気町立和気中学校
- **実践者** 原田 真木子
- **実践教科** 道徳
- **単元名** 国際協力って何だろう？
- **単元を貫くキーワード**
#国際協力 #募金 #ネパール #道徳 #発展途上国
- **対象学年・人数** 第1.2学年 6名

2. 単元計画

● 単元設定の理由・実践者の思い

日本の中学生にとって、“発展途上国”はあまり身近な存在ではない場合が多い。日本は発展途上国ではないし、発展途上国に行ったことがある生徒もほとんどいない。前時で『世界がもし100人の村だったら』（マガジンハウス）の絵本をもとに、世界の概要について学習している。そこには理不尽な差別や格差について書かれており、生徒も予想しない展開に驚きながら学習していた。

今回の【資料3】「国際協力ってどういうこと？」では、ネパール人の女の子にお金が必要と言われ、1ルピー（日本円で約2円）をあげようとしたところ、女の子の父親に「自己満足のための支援ではいけない」と止められたと書かれている。この文章を読んで、自分にも思い当たる節があった。

ロンラオ村1日目の夕方、小学校低学年くらいの子どもたちがたくさん出迎えてくれた。とてもかわいらしく、後ろを付いてくる。ちょうど村に来る前に寄ったコンビニでグミを買っていたのでその子たちに分けてあげた。次の日の朝、地面をみると、昨日あげたグミのごみが捨てられていた。とても複雑な気持ちになった。良かれと思ってあげたお菓子が、村を汚している。ゴミが出るものをあげてしまったのがいけなかったのか。誰がこのごみを拾うのか。ゴミを処理する方法がないのか。子どもたちがニコッと笑ってお辞儀をしてくれたことに嬉しく思った実践者の自己満足なプレゼントだったのかもしれない。この経験とこの本文から国際協力のあり方について再考することができた。

自分が良かれと思ったことをやって、それがすべて悪いとは思わない。一部の人だけでも救えるかもしれないし、子どもたちもグミをもらって嬉しかったかもしれない。でもあの時の実践者に足りていなかったのは「相手（国、人）に寄り添って、必要なものを考える」ことだ。そのときにたまたま持っていたお菓子で、子どもたちを喜ばせようと、“一時的にいいこと”をしただけであった。その国や人に必要なものを考えるために、“相手をよく知ってから自分にできることを考えること”が、今の自分にできる最大のことなのだと感じた。

今回は【資料3】「国際協力ってどういうこと？」を読んで、国際協力の在り方や、支援するときどんな気持ちで、他国と関わっていくのか、同じ地球上で暮らす仲間として、自分事として考えてほしいと願っている。そして今後、もし募金をする機会があったら、この授業を思い出して自分にできることを考えたり、このお金がどこに渡するのか調べたりしながら、国際支援に少しでも参加してくれたらと思う。

●単元の目標

みんなのためになる国際協力って何？

●単元構成（全2時間）

時	テーマ・ねらい	活動内容	メインの学習※
1	発展途上国ってどんなところ？	画像をもとに、発展途上国はどんな国なのか、人々の暮らしの様子や抱える課題を理解する。また、「世界がもし100人の村だったら」の本の内容から、世界にどのような人がどのくらいいるのか、知識を身に付ける。	
2	みんなのための国際協力って何？	「国際協力って何だろう？」を読んで、支援の在り方や、支援の目的を考える。	○

※展開案記載の授業

3. メインの学習（実践者が最も共有したい授業の展開案）

●目 標

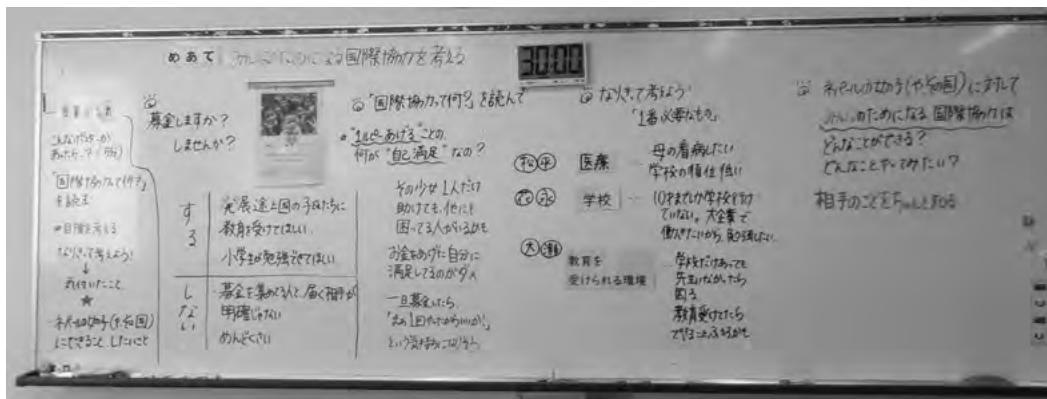
みんなのための国際協力って何だろう？

●学習指導過程

過程 (時間)	教員の働きかけ・学習活動および発問・指導形態	指導上の留意点	使用教材
(5分)	1. 募金しますか？しませんか？ 【発問1】このポスターを見て、募金しますか？しませんか？理由も教えてください。 (個人でワークシートに記入→全体発表)	・どちらの意見がいい、悪いではなく、生徒の意見を尊重する。	・ポスター（募金しますか？しませんか？） 【資料1】 ・ワークシート 【資料2】
(15分)	2. 国際協力ってどういうこと？ 「国際協力ってどういうこと？（授業プリント①）」を教員が読む。読み終わった後に、あらすじを確認する。 【発問2】“1ルピーあげる”ことのどこが“自己満足”なのだろうか。 (個人でワークシートに記入→全体発表)		・「国際協力ってどういうこと？（授業プリント①）」 【資料3】
(3分)	3. めあてを設定しよう 【発問3】“自己満足”な国際協力ではいけないので、どんな国際協力になったらいいでしょうか？ ★今回は「みんなのための国際協力について考える」になった。	・できる限り生徒の言葉をそのまま使う。	
(15分)	4. なりきって考えよう！ ～1番必要なもの～ 【発問4】みんなが生活するうえで、必要なものは何ですか？（挙手で発表） 出た意見のカードを黒板に貼っていく。出してほしい意見が出ないときは、こちらから促す。	・意見が出そうなものを、事前にカードにしておく。空欄のカードを用意して、その場で生徒の意見を書き足して使用する。	・欲しいものカード 【資料4】

<p>(5分)</p> <p>(7分)</p>	<p>【ロールプレイ】 2人1組になって、1組にはホワイトボードを渡して“日本の中学生”役になってもらう。残りの2組には、なりきりカードA、Bをそれぞれ渡して、“発展途上国で暮らす男子A”役と“発展途上国で暮らす女子B”役になりきってもらう。</p> <p>【発問5】 (日本の中学生役へ) 発展途上国に1番必要だと思うものは何ですか？前カードの中から1つ選んでホワイトボードに書きましょう。書いたら裏返して置きましょう。</p> <p>(なりきりカードA、Bへ) カードを読んで、カードの人物は1番何が必要だと思いますか？欲しいものカードから1つ選んでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見が出揃ったら、なりきりカードA、Bのペアに2択ずつ聞いていき、1つまで絞る。 (例) Aさんは“パン”と“テレビ”だったらどっちが必要？ ・最後に日本の中学生が1番必要だと思ったものを明かして、一致したかどうか確認する。 <p>【発問6】 それぞれのチームは、なぜこれが1番必要だと思ったの？ (個人でワークシートに記入→各チームで発表する)</p> <p>【発問7】 ここから気づくことは何ですか？ (個人→全体で発表)</p> <p>5. 「国際協力ってどういうこと？ (授業プリント②)」を読む 【発問2】 の回答に触れながら、ポイントを押さえる。 【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他人事だと思わず、親身になることが大切。 ・苦勞せずにお金だけ渡して、優越感に浸ってはいけない。 ・人と人がつながって、本当に相手のことを理解する必要があること。 <p>6. みんなのためになる国際協力をするために 【発問8】 <u>ネパールのみんなのためになる国際協力</u>は、どんなことができる？やってみよう！ (個人→回収して教員がチェック)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・配られたカードの中身は周りに見せてはいけない。 ・日本の中学生が思う「発展途上国が必要なもの」と、実際に「発展途上国が「必要としているもの」が異なることに気付かせる。 ・紙に書いて、掲示物を作成することもできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なりきりカードA、B 【資料5】 ・ワークシート 【資料2】 ・「国際協力ってどういうこと？ (授業プリント②)」 【資料3】 ・ワークシート 【資料2】
-------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【板書】



4. 実践授業を終えて

●単元を通した児童生徒の感想や学び・変容

【発問1】で「募金しますか？しませんか？」と聞いたとき、【資料6】の回答をした生徒がいた。確かにカバンから財布を出して、貴重なお小遣いを募金する生徒は少ないだろう。この生徒には、なりきりカードB役になってもらった。大学に進学したい男の子の気持ちになって、学校が1番必要だと考えていたが、支援する側と、支援を受ける側の意見が異なることに気付いた【資料7】。また、なりきりカードを読んで、世界に支援を求めている子どもがいることも再確認し、【資料8】のような振り返りを書いてきた。本授業の目的である、「相手に寄り添って、相手のことを理解した支援をすること」に気が付いていると読み取れる。他にも、「相手に寄り添って考える」「相手をよく知る」など、国際理解の第一歩といえる感想が多く見られた。

【資料6】
授業前の
募金についての意見

【する・しない】
本当に子供達に届いてるのと思ふのと、手順がめんどくさい
募金箱があつても金によつたがあつたら

【資料7】
ペアワークを
やってみて
気が付いたこと

なりきって考えよう！（ペアワーク）をやってみて、気づいたことを書きましょう。

何も知らないのに適当な物を渡していても、欲しいかもしれないけど、本当に欲しいものじゃないかもしれないからその人の環境で欲しいものが変わるから、親身に寄り添ってその人の本当に欲しいものが分かった時に初めて国際協力だと分かった

【資料8】
授業後の
募金についての意見

募金について教えてください。

今までに募金をしたことはありますか？*

- ある
- ない
- 覚えていない

今後、募金しようと思いますか？*

- はい
- いいえ
- わからない

その理由を教えてください。*

本当にそれが欲しいのか分からないけど、助けたいから物凄く迷ってる。

●授業実践者の感想・振り返り

授業を実践するとき特に気を付けたことは、偏った意見を植え付けないような発言をすることだ。発展途上国について詳しく知らない生徒にとって、教員の発言はそのまま受け止められる。実践者もまだラオスの一部しか知ることができていない。この授業に限ったことではないが、出来事にはすべて背景があるので、一部だけを切り取って発言しないようにする必要がある。

子どもたちの振り返りを見て、多くの生徒が授業の趣旨を理解できていた。「募金しますか？しませんか？」や「なりきりカード」など、具体的に想像しやすい資料を提示したことで、興味をもって学習に取り組む生徒が多かった。そして、支援の在り方について、自分の意見を書くことができた。一方、ペアワークの時間が少なめになっており、もう少し生徒の活動時間が増えると、集中力も続きやすいのではないかと思う。

また、この授業は学習内容が多いため学習負荷が高く、消化不良になることが考えられる。本授業は6人学級で行っているため、50分で終わることができた。生徒の人数や状況にあわせて2時間に分けて実践することも可能である。

5. 使用教材

資料1 ポスター (募金しますか？しませんか？)

まごころ募金

募金にご協力ください

10円で消しゴムが、50円でノートが
子どもたちに届けられます

この募金は、発展途上国の子どもたちの学用品や学校設備を充実させるために使用されます。

お問い合わせはこちらから
tel. 01-2345-6789

(実践者作成 2026年1月)

1.2F 道徳 ②発展途上国が目指すゴールは何だろう？

めあて：みんなのためになる国際協力を考える

◎こんなポスターをみたら募金しますか？ しませんか？ (理由も書きましょう)

◎「国際協力って何だろう？」を読んで

★1 ルビをあげることは、どうして「自己満足」なんだろう？

◎なりきって考えよう！ **「1番必要なもの」** ※それを選んだ理由も書きましょう

() ←前のカードの中から1つ選びましょう

★結果を聞いて、何に気がきましたか？どう感じましたか？

◎ネパールの女の子(や、その国)に対して、

「みんなのためになる国際協力」って、どんなことができる？ やってみたい？

→ みんなで紙に書いて、貼ってこう！

<p>授業プリント①</p> <p style="text-align: center;">国際協力ってどういうこと？</p> <p style="text-align: center; font-size: small;">(令和7年度 中学校道徳教科書 中学生の道徳) あかつき教育図書より一部抜粋)</p> <p>幼い女の子が、お金をねだってきた。はだして髪はぼさぼさ、かわいそうなくらいやせている。私は一瞬戸惑った。でも、私がこの子にできることはお金を恵んであげることしかない。</p> <p>これは、ネパールへ行ったときの出来事だ。父が仕事でネパールに行っていたので、私たち家族も数日間観光することになった。初めての海外旅行が開発途上国、すべてがショッキングだった。中でも一番印象的な思い出となった出来事だ。</p> <p>このとき女の子にお金をあげていけば、話は簡単だった。ところが、「構わないで乗れ」と、父がそれを止めたのだ。お金といってもたったのルピー、日本円にして約二円だ。それをあげることでどこに不満があるというのか。私は、納得がいかないままその場を離れた。貧しい子どもの役に立つチャンスだったのに、父はなんてケチなのだろう。女の子のすがすがしい目が頭から離れない。</p> <p>そのあと、父は私に言った。</p> <p>「自己満足のための援助はいけないんだ。」</p> <p>私はその言葉にショックを受けた。辞書によると「自己満足」とは自分のしたことに満足すること。私はただ女の子のためにできることをしようと思っただけに、どうしてこんなことを言われなければならないのだろう。父に反感をもった私は、「自己満足」についてよく考えてみた。でも、なかなか難しい。いろいろ考えても、お金をあげようとしたことと「自己満足」との関係がよく分からない。</p>	<p>授業プリント②</p> <p style="text-align: center;">国際協力ってどういうこと？ (続き)</p> <p style="text-align: center; font-size: small;">(令和7年度 中学校道徳教科書 中学生の道徳) あかつき教育図書より一部抜粋)</p> <p>そんなとき、テレビ番組で重油流出事故のボランティア活動を見た。すくってもすくっても重油が押し寄せてきてきりが無い。私は、その番組を見て思った。ボランティアは、たいへんな時間と労力を費やさなければ達成できない。それに比べ、ルビをあげることはなんて簡単なんだろう。</p> <p>苦勞せずに相手に感謝してもらえる、その満足感が「自己満足」なのかもしれない。自分自身が豊かであるという優越感へつながり、援助することが安易なことになってしまうのだ。</p> <p>恵まれない人たちの気持ちも大して分からないまま、お金だけあげて助けたように思うこと自体がいけないのだ。かわいそうなんだなあと何かが思えてやるだけでは「哀れみ」になってしまう。人ごととは思わずに、親身になることが大切なのではないだろうか。</p> <p>他の国の人、特に貧しい人々の心を知るには、彼らと生活してみるしかない。そこにはたくさん苦勞があるだろう。でも、本当に相手が望んでいることを理解して初めて、「国際協力」をする段階に来るのだ。</p> <p>今度ネパールへ行く機会があれば、あの子どもたちが何を望んでいるのかを見定めてきたいと思う。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育を
受けられる環境

お金

学校

きれいな水

テレビ

パン

働く場所

工場の技術

資料5

なりきりカードA

なりきりカードA

【とある発展途上国で暮らす13歳の男の子】

毎日朝早くから夜遅くまで、コーヒー豆農園で働いています。1日のお給料は488ブル(約500円)。もらえない日もたくさんあります。近くに学校はあるけれど、家のお手伝いをしなければならないので、学校には10歳までしか行けません。将来は家族のためにたくさんお給料を稼ぎたい。だから、たくさん勉強をして、外国に行って、大企業で働きたと思っています。

なりきりカードB

なりきりカードB

【とある発展途上国で暮らす11歳の女の子】

朝早くに起きて、朝ごはんの準備を手伝います。わたしのお母さんは病気がちなので、家のこととお母さんの面倒は私が見ています。お母さんを病院に連れて行きたいけれど、近くに病院はないし、もちろんお店もないので綺麗な水で着病してあげることもできません。父は金を採掘するお仕事をしています。金は採れるけれど、お家は貧しいままです。弟が3人いますが、毎日おなかをすかせていて、わたしの分を分けてあげます。

6. 参考資料

- ・池田 香代子 (2001) 『世界がもし100人の村だったら』 マガジンハウス
- ・「国際協力ってどういうこと?」『令和7年度 中学校道徳教科書 中学生の道徳』あかつき教育図書

「ラオスから考える国際協力 ー公正な世界の見方と日本のODAー」

1. 授業実践者および単元の紹介

- **学校名** 徳島県神山町神山中学校
- **実践者** 塚本 拓也
- **実践教科** 社会科・道徳科
- **単元名** 「ラオスから考える国際協力ー公正な世界の見方と日本のODAー」
- **単元を貫くキーワード**
#国際協力 #ODA #南北問題 #南南問題
- **対象学年・人数** 中学校3年生・20名

2. 単元計画

●単元設定の理由・実践者の思い

本実践は、教師海外研修で得た学びを学校現場に還元することを目的として構想した。生徒の実態を把握しやすく、カリキュラム・マネジメントを行いやすいことから、担任をしている第3学年で実施することは当初から定めていた。実施教科は道徳科または社会科を想定し、道徳科で扱う場合は内容項目「国際理解、国際貢献」の視点から教材を開発すること、社会科で扱う場合は公民的分野の「私たちと国際社会の諸課題」に位置付く学習として、ODAをはじめとする国際協力を題材とすることが適切であると見通していた。

しかし、10日間のラオスでの経験を通して、国際協力は制度や方法を理解するだけでは不十分であり、相手の立場と尊厳を踏まえて判断する道德性が不可欠であると実感した。現代の課題は複雑で、明確な正解があるとは限らない。単純な善意だけでは、国際協力が援助国側の独善や国益の道具に転じてしまう危険もある。だからこそ「助ける側／助けられる側」という構図を超え、相手国と「対等な関係」に立って協力の在り方を考え続ける学びが必要であると考えた。

そこで本単元は、道徳科と社会科を教科横断的に位置付けた。導入では『ファクトフルネス』で思い込みに気づかせ、データで確かめる姿勢を育てるとともに、道徳科で「相手の立場に立つ」重要性を考えさせた。次に社会科で国際協力の枠組みを押さえ、外務省の教材を活用して支援の難しさと判断の重さを実感させた上で、事実に基づく理解と「誰のために、何を大切にするのか」という価値判断を行き来しながら、ODAを軸によりよい協力の形を探るメイン学習へつなげた。さらに専門家からのフィードバックを踏まえ、提案を更新する学習過程を構想した。この過程では、生徒が単純な解決策に安易に飛びつかず、自分たちの提案が現地の人々のニーズや自立にどのように関わるのかを繰り返し問い直すことを重視した。また、効果だけでなく副作用や継続可能性にも目を向け、根拠を確かめながら合意形成していく姿を期待した。

●単元の目標

- ・国際社会や発展途上国の現状と課題、国際協力の種類や特徴について、資料（データ・事例）を基に説明できる。（知識・技能：社会科）
- ・資料や事例、価値観を根拠として、ラオスの課題に対する日本のODA提案を構想し、目的・方法・期

待される効果を筋道立てて説明・発信できる。(思考・判断・表現：社会科)

- ・ラオスに暮らす人々の立場に立ち、「助ける側／助けられる側」ではなく対等な関係として国際協力を捉え、誰のために何を大切にするのかを問い直しながら、国際社会の課題として考え続けようとする態度を養う。(態度：道徳科)

●単元構成 (全11時間) ※道徳3時間、社会8時間 (動画作成3時間)

時	テーマ・ねらい	活動内容	メインの学習※
1	チンパンジーテストをやってみよう (道徳1)	チンパンジーテストを実施し、世界の現状についての自分のイメージと実際のデータとの差に気づき、先入観や思い込みで他国や人々を見てしまう自分を振り返ることで、世界の人々を公正に理解しようとする態度や、知ろうとし続ける謙虚さの重要性に気づく。	
2	その子の世界、私の世界 (道徳2)	写真資料を用いて国際的視野を広げ、ワークショップ「Privilege Walk」を行って格差を可視化・体感することで、平和や人類の幸福に寄与する道徳的実践意欲や態度を育む。	
3	なぜ日本は自国に課題を抱えながらも、他国を支援し続けるのか (社会1)	南北問題・南南問題・ODAについて学習する。資本主義やグローバル化によって生じる問題、国際協力の意義、日本及び先進国の立場を考える。	
4	国際協力ってどういうこと? (道徳3)	中学生の作文を基にした自作教材を用い、途上国支援の在り方を問い直す。望ましい支援の在り方の考察を通して、国際的視野に立って他国を深く理解することの大切さに気づき、日本人としての自覚をもって国際理解・国際貢献に努める道徳性を養う。	
5	なぜラオスは70年以上も先進国から援助を受け続けているのだろうか (社会2)	ODAについて掘り下げる。日本のODAの特徴を資料から読み取ったり、過去の失敗事例と成功事例を比較したりする学習を通して、我が国にとって望ましい国際協力の在り方を考える。	
6	日本は発展途上国にどのような支援を行うべきなのか (社会3)	ODAシミュレーションゲーム「ODAマンのあなたもODA」を用いて学習する。前時までの復習をした後、グループでゲームに取り組むことで、ODAに関する理解を深めるとともに、その難しさを体感する。	
7	ラオスの未来のために、日本がすべきODAとは何か (社会4)	パフォーマンス課題「ラオスの未来のために、日本がすべきODAとは何か」に取り組み、日本政府が実施すべきラオスへのODAの提案書をグループで作成する。	○
8 ～ 10	プレゼン動画を撮影してYouTubeにアップしよう! (社会5)	作成したODAプランのプレゼン動画を作成する(本時を含め3時間)。YouTubeにアップロードし、JICAラオス事務所に講評を依頼する。	
11	よりよいODAを考えよう (社会6) ※2月実施予定	JICAラオス事務所からの講評を基に自分たちのプランを再考する。また、「よりよいODAの枠組み」について「自分たちが形成した意見を実現するためにはどうすればよいのか」、「自分たちの意見が反映されるとどのような社会になるのか」など多角的な視点から考察する。	

※展開案記載の授業

3. メインの学習（実践者が最も共有したい授業の展開案）

●目標

- ・これまでの学習（データ・事例・ODAの特徴・価値観）を根拠として、ラオスの課題に対する日本のODA提案を班で構想し、目的・方法・期待される効果を筋道立てて説明できる。
- ・ラオスに暮らす人々の立場に立ち、対等な関係に基づく国際協力の在り方を、誰のために何を大切にするのかという視点で考え続け、国際社会の課題として判断しようとする態度を養う。

●学習指導過程

過程 (時間)	教員の働きかけ・学習活動および発問・指導形態	指導上の留意点	使用教材
(8分)	これまでの道徳科・社会科の授業の内容や学びの振り返りを行い、本時と今後の授業の見通しを持たせる。	・効果的な問いかけにより、学習意欲を喚起し、授業のテンポをつくる。	・ PowerPoint (スライド提示)
(12分)	現地調査書を参考に、個人ワーク「ラオスの未来のために、日本がすべきODAとは何か？」に取り組み、グループで共有する。	・自分の考えを安心して表現できる雰囲気をつくる。	・ 現地調査書 【資料1】 ・ ワークシート 【資料2】
(23分)	YouTube動画作成計画を立て、グループでODA案の方向性を決め、スライドや台本などのプレゼン資料を作成する。	・作業手順と担当を可視化し、時間配分を管理する。 ・途中でチェックポイントを入れ、内容と進度を確認する。	・ PowerPoint (共同編集)
(7分)	グループでODA案の方向性を発表し、本時の振り返りを行うとともに、次回の見通しを持たせる。	・発表は方向性だけに焦点化する。 ・問いかけにより思考を促し、次回の授業の見通しを持たせる。	・ PowerPoint (発表)

4. 実践授業を終えて

●単元を通じた児童生徒の感想や学び・変容

単元を振り返ったアンケートでは、「教科横断的な授業によって学びは深まったか」の問いに、19人中18人が肯定的に回答した。また、「道徳科と社会科を関連させたことで、相互に影響を及ぼしたか」の問いには、17人が肯定的に回答した。教科横断的な学習の有効性は一般に指摘されているが、本実践においても、アンケート結果および自由記述の内容から、その効果が具体的に表れていることがうかがえる。以下では、その根拠として、学習者の記述を基に整理する。

生徒からは次のような記述が見られた。「道徳科で学んだ『自己満足の援助ではなく、相手のための援助をする』という点を重視した」「道徳で相手の立場を考えたからこそ思い浮かぶことがあり、もっとこうすべきだと考えることができた」「チンパンジーテストを通して、様々な視点から物事を考えることがODAを考える上で参考になった」といった声である。さらに、「相手のことをしっかり理解した上で

ODAを提案することが大切だと思った。自己満足の援助にならないためには、相手に何が必要か、どうすれば相手が自立できるかをしっかり考えないといけないと知れた」「社会科ではお金を使いすぎだと思ったが、道徳やODAを実際にやってみることで、多額の費用をかけなくてはいけない場合もあると思えた」など、見方・考え方の変容を示す記述も確認できた。

加えて、授業全体の感想としても変容がうかがえる。ある生徒は「私ははじめ、援助がこんなにも難しいとは知りませんでした。自分勝手な援助をしてしまうと、逆に迷惑だったり、依存してしまったりすることを知りました。ODAを考える中でそういうふうにならないように考えたけど、結局私はラオスに行ったことも文化や生活を体験したこともないので、現地の人からしたら十分ではないのかなとも思いました。だから、相手のことをよく知った上での支援が大事だと再確認しました」と述べている。これは、支援を「善意＝正しい」と単純化せず、対象への理解の不足や当事者視点の必要性にまで思考を進めた記述である。また別の生徒は「授業を通して、ODAは支援の仕方が大切なのだと分かりました。相手の国のことを考え、自立できるような支援をしていくことが大切だと分かりました。授業前は、ODAなどで外国を支援することはお金の無駄なのではと思っていましたが、授業後はODAをすることで日本にも利点があることが分かりました」と述べており、費用に対する否定的な見方から、相互利益という観点を含む捉え直しが見られた。

以上より、生徒は社会科で得た制度や現状に関する理解と、道徳科で扱った価値（援助を善意で正当化するのではなく、相手の立場や生活を理解し、自己満足の援助にならないよう、相手の自立につながる支援を考えるという価値）を往還させながら、ODAの妥当性や支援の条件を多面的に検討するようになったと考えられる。教科横断的な学びが、知識の獲得にとどまらず、判断の根拠や視点の広がりとして表れた点に、本実践の成果を感じられる。

資料 1

ラオス現地調査書

名称: ラオス人民民主共和国
位置: 東南アジアのインドシナ半島の内陸国
人口: 約760万人
民族: ラオ族(全人口の約6割を含む約50民族)
宗教: 仏教(上座部仏教)
面積: 24万km² ※日本: 38万km²
首都: ヴィエンチャン(人口: 約100万人)
周囲: 5カ国と隣接
 北: 中国 東: ベトナム 西: タイ・ミャンマー 南: カンボジア
自然: 気候は熱帯モンスーン気候で、国土の約7割が森林。
 年間を通して高温多湿。明確な雨季と乾季がある。



【産業】
 ・経済は水力発電・農業・観光の比重が大きく、製造業は限定的(内陸国で外国企業誘致が難しい)。
 ・周辺国に比べて人件費が安い。
 ・豊富で多様な天然資源が埋蔵している。(金・銅・鉄・鉛・錫・石油・ボーキサイトなど)
 ・仕事は都市部に偏在し、近隣国への出稼ぎも多い。




【内陸国】
 ・ミャンマー、タイ、ラオス、ベトナムをつなぐ東西経済回廊や、ラオス・中国鉄道が整備されている。
 ・海に面しておらず港湾がないため、陸路での輸出入はタイやベトナムを経由する。※国際空港は4つある
 ・近隣諸国との連結性(道路・鉄道)の整備が生命線。




【多民族国家】
 ・50を超える民族が共存。言語や文字も多岐。
 ・学校の標準語(ラオ語)と家庭の言語が違うことで学習に影響。授業内容が分からず、文字も読めない。
 ・文化、衣装、祭礼の多様性は観光資源にもなり得る。
 ・少数民族は山間部に多く、自給的農業や移動・焼畑の伝統が残る地域も。
 ・山間部に暮らす人も若者を中心にスマホを持っていることが多いが、電波が届きにくい地域もある。


【教育格差】
 ・教員確保、研修、教材、校舎の設備に地域差。
 ・※模範学校が多い ※教員の学力 ※理系人材不足
 ・家庭の言語と授業言語の不一致が理解を難しくする。
 ・都市部は就学・進学率が高い。農村・山間部は通学距離や道路事情で遅刻・欠席・不登校が多い。
 ・家事や農作業手伝いで学校に行けない生徒もいる。




【観光資源】
 ・世界遺産都市ルアンパバーンの歴史景観、古寺院、滝、メコン川の景観など魅力が豊富。
 ・観光収益を教育・保健・インフラに循環させるしくみづくりが重要
 ・エコツーリズムは所得創出と文化継承を両立できる。
 ・オーバーツーリズムを防ぐためのしくみづくりが重要




【国民性「ポーベンヤン」】
 ・文化的にタイとの結び付きが強い
 ・「ポーベンヤン」は「気にしないで」「大丈夫だよ」を意味する寛容でおおらかな価値観。
 ・共同体で助け合う文化が強く、対立を避ける傾向。
 ・一方で時間や計画におおらかになりがちで、事業運営では工夫が必要。



【ODA・国際協力への依存】
 ・道路、橋、送電線、水、学校、病院など基礎インフラ整備の援助が重要。
 ・“モノ”だけでなく、運営・維持管理、人材育成、制度づくりの支援も必須。
 ・プロジェクト終了後の費用負担・技術継承の仕組みを地域を巻き込んで作れないと持続できない。



【不発弾問題】
 ・戦争期の不発弾が農地、集落、道路予定地に残存し、開発や耕作を妨げる。
 ・不発弾による被害者が今も増えている。
 ・※死者114人、負傷者326人(2013~2023)
 ・除去活動、危険教育、被害者の支援が不可欠。
 ・工事・観光開発前の調査コストが高くなる。



【社会主義国】
 ・ラオス人民革命党の一党独裁。政策は上意下達で意思決定が進む面も。
 ・市場経済(資本主義)を取り入れている。
 ・法制度、情報公開はまだ発展途上。「法に反しない限り…」という文言は大日本帝国憲法と類似
 ・市民社会やメディアの自由度は限定的。

第6章「国際社会に生きる私たち」 2節「国際社会が抱える課題と私たち」 番 名前: _____

個人ワーク(ラオスの未来のために、日本がすべき ODA とは何か?)

学習課題 ラオスの未来のために、日本がすべき ODA を専門家に提案しよう!

① 現地調査書を分析して、ラオスのどのような課題に「特に」注目するべき?

産業・交通・学校・人材育成・不発弾・医療・電力・環境・防災・制度・その他

② なぜ、その課題を優先するべきだと判断した?

③ ラオスのために日本にはどのような ODA ができる?

④ 参考になった他のグループの視点・考え

⑤ 感想(11/17(月)帰り学活で提出)

フシゼン後

① (発展途上国) の未来のために、日本がすべき ODA を考える際、大切な**キーワード**を**3つ**以上書きなさい。

② (発展途上国) の未来のために、日本がすべき ODA とは何か、**一文**で答えなさい。

③ それはなぜでしょうか。

④ よりよい(国際社会) や日本の(ODA) のために、私たちに何ができる?

⑤ (支援) は誰のため?(11/21(金)帰り学活で提出) 【~~発展途上国~~社会アンケート】

● 授業実践者の感想・振り返り

単元を構想する中で出会った、二宮尊徳の「道徳なき経済は罪悪であり、経済なき道徳は寝言である」という言葉が印象に残っている。国際協力は善意や理想だけで語り切れるものではなく、制度や財源、利害調整といった現実とも切り離せない。その一方で、経済合理性のみを優先すれば、相手の尊厳や自立を損ねかねない。こうしたジレンマそのものを学びの中心にするために、ODAを社会科だけでなく、道徳科からも捉え直したいと考え、教科横断的な単元を企てた。

受験を控える3年生の社会科では、ODAは短い説明で済まされがちである。実践者自身も、これまで十分な時間を確保できず、制度理解に偏ったり、逆に理念的な理解にとどまったりする危うさを感じていた。だからこそ、教科横断的に扱うことで、事実理解と価値判断を往復させながら学びを深める授業を試みた。本実践を通して、教科横断的な授業が生徒の思考を促進し得ることも、実感を伴って捉えることができた。

もっとも、生徒が作成した動画や提案内容は、限られた時間の中で調べ、考えた成果であるため、誤りや粗さが含まれている可能性もある。内容が大まかであったり、根拠の示し方が十分でなかったりする点は、今後の課題である。しかし、ラオスについて知識がなかった生徒たちが、自ら調べ、仮説を立て、相手にとっての必要性や自立の視点から支援を考えた時間そのものは大きな価値をもつ。現時点での国際協力に関する価値判断が完全である必要はなく、未完成さを自覚しつつも、相手の立場に立って「よりよい支援とは何か」を考えた経験が、次の学びの土台になると考える。

活動の様子を見ていると、他国の課題に対して一生懸命に考え、仲間と意見を交わし、表現しようとする生徒の姿があった。自分事になりにくい国際協力の学習においても、適切な問いと往還の仕掛けを用意すれば、生徒は他者のために思考し、判断し、行動しようとする。その姿を頼もしく感じるとともに、国際協力の学びを学校教育の中で扱う意義を改めて確かめる機会となった。

本単元は道徳科・社会科に加えて動画制作の時間も要したため、単元全体の再現は学校の状況によって困難となる場合がある。ただし、中核となる学習設計の一部は取り入れやすく、再現性が高い。再現性が高い点は次の二点である。

- ① 週1回設定されている道徳科の授業を国際理解教育と関連付け、資料や学習内容に基づく理解と価値判断を往還させる枠組みを設けること。
- ② YouTube等の動画共有サービスの限定公開機能を活用し、生徒の動画を相互評価・外部評価できるようにすること。

①については、各時間の学習を共通の観点で点検・更新する枠組みを設定しやすく、学習の焦点がぶれにくい。ODA提案を扱った本実践では、当事者の視点を踏まえた上で、「相手にとっての必要性」「自立支援」という観点を中心としたが、共通の観点は国際理解教育の題材に応じて設定すべきであり、扱う内容に即して「公正」「人権」「多様性」「持続可能性」等の観点を選び直すことが望ましい。②については、特別な設備や外部条件に左右されにくく、手順も比較的明確である点で導入しやすい。さらに、相互評価・外部評価を通して根拠に基づく見取りと振り返りを促し、学びの質の向上や評価の手間の軽減にもつながる。

なお、現地調査書の作成や動画の評価の際にはラオスで得た経験や人脈を活用したが、海外経験や現地とのつながりがない教員であっても、地域人材（JICA関係者・国際協力関係者・留学生等）を活用すれば、現地の状況や当事者の視点を取り入れた教材を作成できる。助言・資料提供・質疑応答を通して具体性と臨場感を確保でき、価値判断の根拠も厚くなる。さらに、提案や動画の評価においても、地域人材から助言を得ることで、教科書を超えた視点を取り入れられる。これにより、外国を訪れなくても、現地の視点を取り入れた教材と評価を用いて、国際理解教育の学習の質を高めることができるはずである。

5. 使用教材

- ・東京書籍『新しい道徳3』[その子の世界、私の世界]
- ・外務省「ODAマンのあなたもODA」
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/press/event/page22_001008.html
(参照日2025年11月11日)

6. 参考資料

- ・外務省（2025）『開発協力白書（2024年版）日本の国際協力』日経印刷
- ・友松夕香（2025）『グローバル格差を生きる人びとー「国際協力」のディストピア』岩波書店
- ・ハンス・ロスリング／オーラ・ロスリング／アンナ・ロスリング・ロンランド（2019）『ファクトフルネスー10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』日経BP
- ・エドワード・ルトワック（2017）『戦争にチャンスを与えよ』文藝春秋
- ・渡辺利夫・三浦有史（2013）『ODAー日本に何ができるかー』中央公論新社
- ・松井やより（1993）『NGO・ODAは誰のためかー日本とドイツと第三世界』明石書店
- ・ブリギッテ・エルラー（1987）『死を招く援助ーバンラデシュ開発援助紀行』垂紀書房
- ・日経BOOKプラス「FACTFULNESS先生向けガイド」日経BOOKプラス
<https://bookplus.nikkei.com/atcl/catalog/download/22/03/23/00038/factfulness-booket.pdf>（参照日2025年11月11日）
- ・YouTube “Social Inequalities Explained in a \$ 100 Race”
<https://www.youtube.com/watch?v=4K5fbQ1-zps>（参照日2025年11月11日）
- ・YouTube “Students Learn a Powerful Lesson About Privilege”
<https://www.youtube.com/watch?v=2KlmvmuxzYE>（参照日2025年11月11日）

平和な社会の実現のために必要なこと ～戦後80年を機に改めて考える～

1. 授業実践者および単元の紹介

- **学校名** 山口県山口市立二島中学校
- **実践者** 西村 友貴
- **実践教科** 社会科（道徳でも実践可能）
- **単元名** 平和な社会の実現のために必要なこと～戦後80年を機に改めて考える～
- **単元を貫くキーワード**
#平和教育 #国際理解 #戦争や紛争 #豊かさや貧困 #開発教育
- **対象学年・人数** 全校生徒 23名（授業は何年生でも実践可能であるが、歴史的分野で第二次世界大戦および太平洋戦争を学習した3年生が望ましい）

2. 単元計画

● 単元設定の理由・実践者の思い

第二次世界大戦については多くの資料に残されており、文献や映像を通してその一端を知ることができる。しかし、戦争を経験した人々が減少し、直接話を聞く機会は少なくなっている。時の流れとともに戦争の記憶は風化し、生徒たちにとって戦争は「遠い過去の出来事」となりつつあり、どこか他人事のように感じられている。このような状況で、教育基本法が掲げる「平和で民主的な国家および社会の形成者として必要な資質を備えた国民」をどのように育てていくか、平和教育をどう工夫していくか、授業の在り方が問われていると感じる。

今年度、実践者は小中連携担当として、小学6年生の担任と共に平和教育を推進した。小学6年生は広島への修学旅行で戦争の悲劇を学び、学習発表会で地域住民と自分たちの感じたことを共有した。中学生は夏休みに、小学校に残る防空壕跡を発掘し、戦争に関する文献調査を行った。この活動を通じて、生徒の中には戦争への興味や関心を深め、自発的にインターネットを使って戦争について調べる様子も見られた。

教師海外研修で不発弾処理現場を視察したことは衝撃的だった。生活の場に隣接したこの現場を見て、不発弾問題が過去の出来事ではなく、現在の生活に直結していると感じた。これらの不発弾はベトナム戦争で投下されたもので、多くが地中に残っていること、毎年これが原因で命を落とす人がいることがラオスの発展に影響していると学んだ。

ラオスから帰国後、山口県で不発弾が発見されたニュースを見た瞬間、ラオスでの記憶がよみがえった。日本とラオスは戦争で大量の爆弾を落とされた国であり、現在も不発弾に悩まされている。この事実を生徒と共に考えたいと思った。

単元構成のポイントは次の3点。1つ目は、自分事として平和を捉えさせることである。2つ目は、戦争と平和を多角的に捉えさせること。①ラオスの戦争、②南太平洋の爆弾被害、③豊かさの概念を取り上げた。3つ目は、立場と時間軸を用いた深い議論を通して平和な社会の実現のために必要なことを生徒一人ひとりが考えてくれるようになること。これらをねらいとした。

また、この授業は、地域公開授業「ふたまる塾」として行い、地域の方にも参観していただいた。

●単元の目標

(知識・技能)

- ・戦争が人や社会にどのような影響を与えるのかを、具体的な例から理解する。
- ・世界で実際に起きた戦争や平和の事例を基に、その意味や影響を考えられる。

(思考・判断・表現)

- ・平和や豊かさを自分の視点に置き換えて捉え、それらが実現できる社会には何が必要かを考えることができる。
- ・平和を守るために必要な具体的な取り組みや行動について、自分なりの考えをまとめ、提案できる。

(主体的に学習に取り組む態度)

- ・世界や日本の中で平和を築くための役割に気づき、それに対して主体的に行動しようとする意欲をもつことができる。
- ・他者と協力しながら、平和な社会の実現に向けた取組などについて、当事者意識をもって考え、社会をよりよくしていきたいという思いを高めることができる。

●単元構成 (全3時間)

時	テーマ・ねらい	活動内容	メインの学習※
1	テーマ： 「戦争はなぜ起こるのか？」 ねらい： 豊かな社会を守るために何が必要か考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーク「豊かな社会にとって必要なこと」を通して、豊かな社会の定義付けを行う。 ・戦争がそれらを奪うことを認識する。 ・戦争が起こらないようにするために必要なことについて考える。 	○
2	テーマ： 「戦争は何をもたらしたのか？」 ねらい： 不発弾問題を通して、戦争が残す爪痕を知り、平和な社会の実現に向けて必要な視点を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の住む地域での不発弾処理のニュースや、校区内にある防空壕の話題から戦争を身近なものとして捉える。 ・戦争がおこる要因について、ワークを通して考える。 ・ラオスやガダルカナル島での不発弾処理の問題を通して、戦争の影響はすぐにはなくなることについて認識する。 ・平和な社会を実現するために私たちに求められることは何かを考える。 	○
3	テーマ： 「平和な社会を目指して」 ねらい： 日本国として、日本国民として、平和な社会の構築のために必要な視点を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に考えた平和な社会を実現するために求められていることをもとにマトリックス図を作成し、意見を形成していく。 ・第1時の問い「戦争によって豊かさが奪われない社会を実現するためには、どのようなことを意識する必要があるだろうか？」について再度問い直し、平和に関しての当事者意識を高めていく。 	○

※展開案記載の授業

3. メインの学習 (実践者が最も共有したい授業の展開案)

① 1時間目 / 3時間

●目標

ワークを通して、豊かな社会の概念と戦争のもたらす影響について理解できる。

●学習指導過程

過程 (時間)	教員の働きかけ・学習活動および発問・指導形態	指導上の留意点	使用教材
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・Q「今は平和で豊かな社会だと思いますか？」 →思考ツールとICTで可視化し全体で共有する。 (個人→全体) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態の把握のためなので簡単に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド(第1時) 【教材1】 ・思考ツール 【教材4】
展開① (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーク「豊かな社会にとって必要なこと」に記載された項目から、自分にとって特に必要なものを5選ぶ。(個人) ・個人の考えをグループで共有し、グループの考えとして5選び、選んだ理由と共にGoogleスライドに入力して全体で共有する。(グループ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークは2種類あるので、生徒の実態に応じて選ぶ。(中学生は難しいほうでできる。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート① ・ワーク 【教材2】
展開② (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・Q「戦争が起きたときに、これらの内で奪われるものは何か？」について、グループごとに話し合う。(おそらくすべてを選ぶであろう) (グループ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いが進まない班には支援に入る。 	
展開③ (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・Q「戦争によって豊かさが奪われない社会を実現するためには、戦争が起こる前にどのようなことをしておく必要があるだろうか？」 ・個人で考えた後、グループで話し合っ出て意見をスライドに入力する。(グループ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ここでは結論を出す必要はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート① 【教材2】
振返 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業で考えたことや感じたことを書く。(個人) 		<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート① 【教材2】

② 2時間目 / 3時間

●目 標

戦争被害を知ることを通して、平和な社会の実現に向けて必要な視点を考える。

●学習指導過程

過程 (時間)	教員の働きかけ・学習活動および発問・指導形態	指導上の留意点	使用教材
導入 (3分)	<ul style="list-style-type: none"> ・山口県周南市で見つかった不発弾に関するニュース記事を提示する。 ・小学校の防空壕の写真や情報を提示する。 →戦争に対する意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の戦争に関する記事や話題が望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド(第2時) 【教材1】
展開① (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート「戦争はなぜ起こるのでしょうか」より、戦争の原因として最も関係の深いものをグループで3つ選び、理由と共にGoogleスライドに入力して全体で共有する。(グループ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・理由を共有することで、多面的な見方で捉えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート② 【教材2】
展開② (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争がもたらしたものとして、実践者がラオスで学んだ不発弾処理の概要と、現地での体験を紹介する。(全体) 		<ul style="list-style-type: none"> ・スライド(第2時) 【教材2】

展開③ (20分)	<ul style="list-style-type: none"> 太平洋戦争の戦場となった南太平洋の島（ガダルカナル島）での不発弾問題に関する映像を視聴する。<u>(全体)</u> 日本は戦争で爆弾を落とされた国でもあるが落とした国でもあるという事実がある。戦争の惨禍を繰り返させないために、また、今なお戦争が残した傷跡で苦しむ人々のために、求められていることは何か考える。<u>(個人)</u> 次の時間にマトリックス図を完成させることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の映像や資料などで代用も可。 日本による戦争の被害に苦しんでいる国があるという認識は生徒の中に薄いので、意識させることで、より深く考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Nスペ「不発弾処理」 (25:25～32:00) 【教材2】
振返 (2分)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して考えたことや疑問に感じたことを書く。 <u>(個人)</u> 		<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート② 【教材2】

③ 3時間目 / 3時間

● 目標

日本国として、日本国民として、平和な社会の構築のために何が求められているかを考え、平和な社会の実現のための第一歩を踏み出す。

● 学習指導過程

過程 (時間)	教員の働きかけ・学習活動および発問・指導形態	指導上の留意点	使用教材
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習内容を確認する。 Q「日本は戦後80年、ラオスは戦後50年と言われているが、両国は戦争が終わったのか？」<u>(全体)</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争が遺す爪痕の大きさを意識させたい。 	
展開① (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の展開③での「日本は戦争で爆弾を落とされた国でもあるが落とした国でもあるという事実がある。戦争の惨禍を繰り返させないために、また、今なお戦争が残した傷跡で苦しむ人々のために、求められていることは何か考える。」問いに対してグループでGoogleスライドのマトリックス図に入力していく。<u>(個人→グループ)</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・「個」、「共同体」、「国家」という3つの立場と「今」、「今まで」、「近い未来」という多面的・多角的に考えさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート③ 【教材2】
展開② (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに作成したマトリックス図を共有し、全体で意見をまとめていく。<u>(全体)</u> 		
振返 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・第1時の問い「戦争によって豊かさが奪われない社会を実現するためには、戦争が起こる前にどのようなことをしておく必要があるだろうか？」を改めて考え、平和な社会の実現のために必要なことを概念化していく。<u>(個人)</u> ・単元を通して平和について考えたことを書く。<u>(個人)</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えの変化を価値付けていく。表現が難しい生徒には支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート③ 【教材2】

4. 実践授業を終えて

● 単元を通じた児童生徒の感想や学び・変容

授業の導入として「今の世界は平和か？」と問いかけたところ、生徒たちは資料1にあるような返答を示した。しかし、その理由を問うと、表面的な知識や事象を挙げる生徒が多く、平和について深く考えた様子は見られなかった。

単元を通して、生徒の表情や態度に変化を感じた場面が三度あった。1回目は、1時間目の「豊かさ」

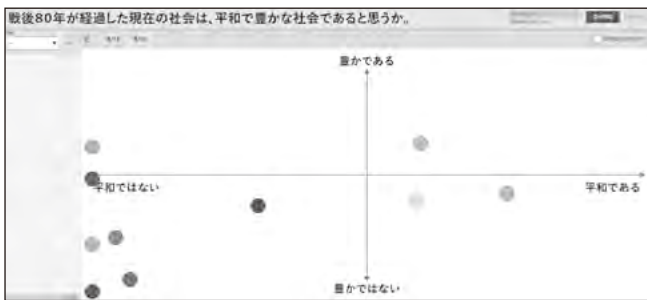
に関するワーク後、生徒が「豊かさは戦争で奪われる」と気付いた瞬間である。「豊かさ」と「平和」の概念が結びつき、平和が豊かな社会の前提条件であることを認識した生徒がいた。2回目は、ラオスの不発弾問題と、ガダルカナル島に投下された日本の不発弾問題が今でも続いている現実を知ったときだった。これまで日本の戦争被害は学んでいたが、南洋の島々の被害については学んでおらず、生徒の驚く様子が見られた。また、ラオスが「世界最大の被爆国」である事実は、それまでラオスについて知識がなかった生徒にも強い衝撃を与えた。3回目は、3時間目のグループワークで「平和の実現」を議論した際だった。「戦争の影響をもっと知らなければならない」「戦争の記憶を後輩に伝える必要がある」といった活発な意見が飛び交い、生徒たちの中に当事者意識が芽生えたことを実感した。

3時間の授業を通じ、生徒の振り返りとして以下のような意見があった。「平和を目指すには相互理解が不可欠」「いじめをなくすことが平和の第一歩」「一人ひとりが平和を願うことが重要」などである。これらの気づきを今後の授業に活用し、平和について日常的に考える機会を提供していきたい。

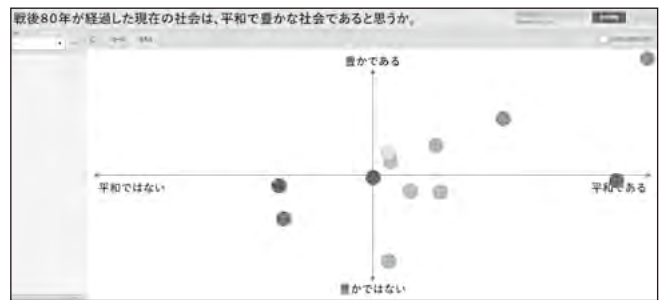
また、地域の方々も平和教育への関心が高く、授業を参観された方の中には防空壕の発掘調査に携わった方もいる。今後も地域と連携し、生徒の学びを深める活動を推進したい。

資料1 単元初めの生徒の意見

〈1・2年生 n=10〉



〈3年生 n=12〉



資料2 授業の様子（地域の方にも参観していただいた）



資料3 生徒の振り返り

① 1年生

(振り返り)単元の学習を通して、平和な社会の実現のために考えたことを書こう。

お互い、自分の意見を押し通すのではなく、相手のことも理解していたら戦争は起こらないと思います。また、まだ日本が落とした不発弾で苦しんでいる人もいますので、支援などをしていきたいと思います。

② 2年生

(振り返り)単元の学習を通して、平和な社会の実現のために考えたことを書こう。

今回の学習で世界にはまだまだたくさん不発弾があり、日本も被害者だけでなく加害者でもあるということを知り、改めて考えさせられました。いじめや差別をなくすることは平和な社会の第1歩だと思います。優しい心を持って接することを継続していきたいです。

③ 3年生

(振り返り)単元の学習を通して、平和な社会の実現のために考えたことを書こう。

全世界で全く争いのない状況もなさそうなのはなかなか難しいけれど、それでも自分や友達だけでも戦争をしないように考えようとするのが平和な社会を実現するための一歩かなと思います。そして、これから、復興たちにも、次の世代に向けて、平和を実現するためのことを伝えていきたいです。

●授業実践者の感想・振り返り

平和教育を通して、いかに生徒の当事者意識を高めていくか。本実践では、この課題が中心テーマであった。生徒が持ち合わせていない視点から戦争の問題を捉えることで、既存の知識の理解が進み、より深い学びにつながるような授業構成を意識した。

成功点は以下の2点である。1つ目は、生徒に「豊かさとは平和は表裏一体である」という認識を持たせた点である。生徒は「豊かさは当たり前ではない」と気づき、日常生活の価値を再認識した。2つ目は、日本以外の事例や実践者自身のラオスでの経験を学んだ点である。不発弾問題や実践者の体験談、ガダルカナル島の映像を通じ、生徒はラオス・ガダルカナル・日本が不発弾という共通点でつながることを実感し、戦争の影響について深く考える契機となった。

一方、改善の必要性を感じた点も2点ある。1つ目は、すべての生徒に当事者意識を持たせる難しさである。主体的に課題に向き合う生徒もいたが、先入観によって学びを深められない生徒も見られた。そのため、効果的な発問や支援方法の工夫が課題として残った。2つ目は、発問や意見を深い学びに結びつけられなかった場面である。例えば、「平和実現の方法」を問うた際、生徒は募金や寄付といった答えを挙げたが、それが具体的にどう平和につながるかを考えきれなかった。より良い発問や活動設計が必要だと感じた。

平和教育における当事者意識を高める方法について、実践者自身もなお探究中である。しかし、戦争経験者の話を聞く機会が減る今後を見据えると、生徒同士の意見交換やグループワークの質を向上させる重要性は増すと考えている。今回の実践では、少人数校である本校の特性を生かし、異なる学年の生徒を含む全校規模で授業を行った。多様な意見の共有を通じた学び合いは成果といえるだろう。また、グループ

ワーク後の意見共有やさらなる話し合いの時間を確保することで、学びの質を高める可能性を感じた。限られた時間内で問いや教材を精選し、これらの工夫を重ねることで、さらに充実した実践が行えるだろう。今回得られた学びを、今後の教育活動に生かしていきたい。

5. 使用教材

教材 1

●スライド (第1時)

ふたまる塾特別編(社会科)第1日

山口市立二島中学校 学校キャラクター ふたまる

“平和”について考える
～豊かさを考える活動を通して～

Question

- 2025年は世界にとって節目の年でした。さて何の年でしょう？

A. 第二次世界大戦・太平洋戦争終戦から80年 (戦後80年)

“戦後”って何？

Study Pocketより生成

豊かな時代？
平和な時代？

この単元でのテーマ

- “戦後80年”を機に改めて、「豊かな社会」や「平和な社会」を実現していくために、私たちは、私たちの国は、世界は何をすべきなのかを考えてみよう。

1 豊かさについて考える

- 「豊かな社会にとって大切なこと」のワークシートに書かれている項目から、自分にとって特に必要なものを5個選ぶ。

1 おしゃれなもの、おいしいもの、便利なものがすぐに手に入る	2 誰もが尊敬をもって、仕事の量や内容に見合った対価を得ながら働くことができる	3 自分の住む地域で、大規模な土木建設や、有名な商業施設や娯楽施設を呼び込むことで、地域経済が活性化される
4 自分の住む地域で、地産地消が進み、地元の商店街に人がたくさん集まっている	5 理髪にやさしいライフスタイルで、資源を使いすぎない	6 大気、土壌、海洋汚染や森林伐採、生物の絶滅がこれ以上進まない
7 誰かを傷つけない限り、意見表明が自由にでき、誰からも制限されない	8 少数意見であっても尊重され、簡単に切り捨てられない	9 自分たちの地域のことは住民が話し合って決める
10 銃などの武器が簡単に手に入らない	11 性別、人種、考え、行動や生活様式など、何しろの“違い”を理由に攻撃されたり排除されたりする心配がない	12 長時間の通勤・通学や混雑電車に悩まされない
13 広くてゆとりのある居住空間を得る	14 自分の自由な時間がある	15 大人も子ども、いつでも自分が希望する教育を受けることができる
16 家族の経済状況や社会的地位、人種、性別、国籍、思想信条などにかかわらず、自分の能力にあった教育を受けられることができる	17 エリートを育成する教育を進め、厳しい選抜試験に合格した者だけがチャンスを得て高収入を得ることができる	18 「女性だから～」「男性だから～」「100だから～」という考え方で自分の生き方を縛られない
19 地域に気軽に集まれるような居場所がある	20 生活や地域、社会の課題を一緒に考えて取り組む仲間がいる	21 いざというときに頼ることができる人がいる
22 税金は高いが、医療や福祉、教育に税金が多く使われ、無料サービスが受けられる	23 国籍がなくても、住民ならだれでも社会的保証が受けられる	24 防衛予算を増額して、軍事力や同盟国との関係を強化する
25 十分な金融資産があり、利子や株式配当だけで生活することができる		開発教育協会 (2016) 『豊かさと開発 Development for the Future』特定非営利活動法人 開発教育協会より

1 おしゃれなもの、おいしいもの、便利なものがすぐに手に入る	2 近所に大型ショッピングモールがある	3 就きたい仕事に就くことができる
4 まじめに働けば十分な収入を得ることができる	5 自分たちの世代にも、将来のために十分な自然や資源を残されている	6 空気や水、土地が汚染物質で汚されている心配がない
7 学校のことは生徒が自分たちで話し合って決められる	8 子どもにかかわる法律やまちづくりなどの決定に、子どもの意見が反映される	9 お金があっても、けがや病気など必要なときに医者にみてもらえる
10 魅力やいじめにおびえなくて暮らすことができる	11 車の往來におびえたり、大人から注意されることを気にしたりせず、外で自由にのびのびと遊ぶことができる	12 安心して寝泊まりできる場所がある
13 給食や制服、勉強の道具、上履きや体操着などが無料で配られる	14 だれでも家庭の事情に左右されず、自分の夢や希望を実現するために、学校や家で必要な教育を受けられることができる	15 違った学校や教育の種類を理由に、将来の進路が制限されない
16 返さなくてもよい奨学金制度が充実している	17 性別、生まれた国、宗教、考え、行動、障害、病気など、何しろの“違い”を理由に差別されたり、いじめられたりされない	18 自分が人と違う行動や考えをしても、周囲に受け入れられる
19 家族以外に、いざというときに頼れる大人がいる	20 安心して一緒にいられる友だちがいる	21 お金があなくても安心して生活でき、勉強もできるよう、政府によって保障されている
22 エリートを育成する教育を進め、厳しい試験に合格した者だけがチャンスを得て、将来高収入を得ることができる		開発教育協会 (2016) 『豊かさと開発 Development for the Future』特定非営利活動法人 開発教育協会より

グループで意見を持ち寄って、5つ選ぶ

- グループでまとまった意見は、クラスルームにスライドをあげているので、打ち込みましょう
- 理由も聞くので説明できるようにしておきましょう

もし、戦争が起きたときに、
これらの項目の内でも奪われる
ものはどれ？

戦争によって豊かさが奪われない社会
を実現するためには、どのようなこと
を意識する必要があるだろうか？

●スライド (第2時)

ふたまる塾特別編(社会科)第2日



“平和”について考える
～戦争がもたらした惨禍を通して～

山口・周田沖の海底で爆発物のようなもの (120センチ×40センチ) 見つかる～米軍の不発弾か 海自が確認へ

山口県周田沖の海底で、長さ約120センチ、幅約40センチの不明な物体が見つかった。海自は、この物体が米軍の不発弾であると判断している。物体は、周田沖の海底に沈没している。海自は、この物体が米軍の不発弾であると判断している。物体は、周田沖の海底に沈没している。

KRY NEWS「山口・周田沖の海底で爆発物のようなもの (120センチ×40センチ) が見つかる～米軍の不発弾か 海自が確認へ」
<https://news.kry.co.jp/kry/category/society/kr16300c990848a2ab565d244af3c87/> (参照日2025/12/27)

防空壕



防空壕

防空壕とは、戦時体制下で、敵機の空襲から市民を守るために設置された地下の施設である。主に、地下鉄の駅や公共施設、学校などに設置された。防空壕は、戦時体制下で、敵機の空襲から市民を守るために設置された地下の施設である。主に、地下鉄の駅や公共施設、学校などに設置された。

二島小学校「二島小学校校長室より」
https://2island.blogpost.com/2019/05/blog-post_15.html (参照日2025/12/22)

戦争はなぜ起こるのか？

1 過去の憎しみから報復を繰り返すから	2 テロリストがいるから	3 平和な国の人々が戦争に関心だから
4 大国が自分の考えを押しつけるから	5 戦争で利益を得る人たちがいるから	6 抑圧されている人たちがいるから
7 危険な国があるから	8 宗教や民族などの違いがあるから	9 戦争に反対する人たちの力が弱いから
10 貧富の差があるから	11 武器・軍備があるから	12 大国が資源などの利益を求めるから
13 メディアが人々を戦争へとあおむるから		

戦争は何を残したのか
(ラオス人民民主共和国)



ラオスの概要

- 首都: ビエンチャン
- 人口: 750万人
- 面積: 23万km²
- 公用語: ラオ(ス)語
- 民族: ラオ族(60%)をはじめ、計50の民族



ラオス×戦争

- 1960年代～1970年代にかけてのベトナム戦争により、ラオスには約230万トンの爆弾が投下された。
- うち8000万発は爆発せず不発弾として残る。
- 現在も毎年不発弾が原因で亡くなる人がいる。

ホーチミンルート

北ベトナムから南ベトナムへの武器・物資補給路

数百万人が使用 数千人が死亡

ルートの歴史

- ▶ 1959年に越境開始
- ▶ 道は山麓部・ジャングルに隠れてきた小道
- ▶ のちに軍需により拡張
- ▶ ベトナムに入る多くの道は道作り
- ▶ 1968-73年、これに平行して、全長1400キロの石造パイプラインを建設

AFP 150509 Source: HCMF museum

ラオス×戦争

- 1998年よりUXO-LAOによる不発弾処理が開始され、2025年夏時点で91440発の不発弾を処理したらしい
- この活動のおかげで約51万人の生活に良い影響を与えたい

ラオス国内で地雷が多く埋まっている場所
UXO-LAO/アンパバーン事務所にて撮影

本題に戻って

NHK 防災スペシャル 不発弾を落とす 不発弾処理
[https://www.nhk.or.jp/special/sp/special-top-20170918/15/] Accessed: 2025/12/21



戦争で爆弾をたくさん落とした日本
戦争で爆弾をたくさん落とされた日本
が、戦争の惨禍を繰り返させないため
に、また、今なお戦争が残した傷跡で苦しむ人々のために、求められていることは何だろうか？

●スライド (第3時)

ふたまる塾特別編(社会科)第3日



“平和”について考える
～戦争の過ちを繰り返さないために～

前時までのあらすじ

- 豊かさとは平和は比例するのか？
- 戦争は豊かさを奪っていく
- 世界では戦争が遺した不発弾で苦しんでいる人がいる。ラオスでは約8000万発の不発弾が人々の生活を脅かしている。
- 日本でも不発弾のニュースが流れてくることがある。
- 一方で日本が遺した不発弾で苦しんでいる人もいる
⇒不発弾が残る日本、日本が残した不発弾に苦しむ人々、この状況の中で我々に求められることは何だろうか？

戦争で爆弾をたくさん落とした日本
戦争で爆弾をたくさん落とされた日本
が、戦争の惨禍を繰り返させないため
に、また、今なお戦争が残した傷跡で苦しむ人々のために、求められていることは何だろうか？

	いますぐできること	5～10年後にできること	継続してすべきこと
「私」に何ができるか			
「私たちの社会」に何ができるか			
「私たちの国」として何ができるか			

教材2 各時間のワークシート

ワークシート①

ふたまる塾(社会)学習プリント「平和について考えよう①」
()年()組()番 名前()

■単元のテーマ
「戦後80年」の節目の年に当たり、平和の実現のために求められていることについて、豊かさをはじめる概念や、戦争がもたらした惨禍(さんか)などの多面から考える活動を通して、平和で民主的な国家及び社会の担い手として必要な見方や考え方を身に付ける。

■授業の日程

	内容
1	豊かな社会に必要なものは何か、戦争がもたらすものは何かを考える活動を通して、単元のテーマに対するイメージを持つ。
2	戦争がもたらした惨禍について、3つの国の事例から平和な社会の実現のために求められていることについて捉える。
3	国家や国民などの多面的な立場から平和の実現について考え、これからの自分自身や日本、世界として求められていることを認識し、実現に向けて意識を高める。

■今回のテーマ
「豊かな社会」を実現するために大切なことを考え、それが戦争で奪われないために必要な視点について考えることができる。

(1)別紙「豊かな社会にとって大切なこと」に書かれている項目から、あなたが大切だと思うものを5つ選ぶ。

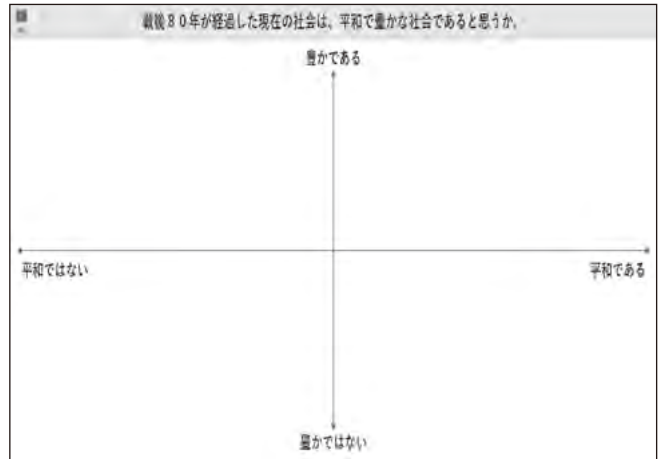
1つめ	項目	選んだ理由
2つめ		
3つめ		
4つめ		
5つめ		

(2)戦争が起きたときに、これらの内で奪われるものは何か？

(3)戦争によって豊かさが奪われない社会を実現するためには、どのようなことを意識する必要があるだろうか？

(振り返り)本時の授業で考えたことや感じたことなど

思考ツール



ワーク「豊かな社会にとって大切なこと」

カード 「豊かな社会にとって大切なこと」

1 おしゃれなもの、おいしいもの、便利なものがすぐ手に入る	2 誰もが尊厳を持って、仕事の難しや内容に見合った対価を得ながら働くことができる	3 自分の住む地域で、大規模な土木建設や、有名な商業施設や娯楽施設を呼び込むことで、地域経済が活性化されている
4 自分の住む地域で、地産地消が進み、地元のお店に人がたくさん集まっている	5 環境にやさしいライフスタイルで、資源を使いすぎない	6 大気、土壌、海洋汚染や森林破壊、生物の絶滅がこれ以上すすまない
7 誰かを傷つけない限り、意見表明が自由にでき、誰からも制限されない	8 少数意見であっても尊重され、簡単に切り捨てられない	9 自分たちの地域のことは住民が話し合って決める
10 銃などの武器が簡単に手に入らない	11 性別、人種、考え方、行動や生活様式など、何かしらの「違い」を理由に攻撃されたり排除されたりする心配がない	12 長時間の通勤・通学や通勤・通学に悩まされない
13 広くてゆとりある居住空間を得る	14 自分の自由な時間がある	15 大人も子どもも、いつでも自分が希望する教育をいつでもどこでも受けることができる
16 家族の経済状況や社会的地位、人種、性別、国籍、思想信条などにかかわらず、自分の能力にあった教育を受けられる	17 エリートを育成する教育を進め、厳しい選抜試験に合格した者だけがチャンスを得て高収入を得ることができる	18 「女性だから」「男性だから」「〇〇だから」という考え方に、自分の生き方を縛られない
19 地域に気軽に集まれるような居場所がある	20 生活や地域、社会の問題を一緒に考えて取り組む仲間がいる	21 いざというときに頼ることができる人がいる
22 税金は高いが、医療や福祉、教育に税金が多く使われ、無料でサービスが受けられる	23 国籍がなくても、住民なら誰でも社会保障を受けられる	24 防衛予算を増額して、軍事力や同盟国との関係を強化する
25 十分な金融資産があり、利子や株式配当だけで生活することができる		

(子ども向け)

カード 「豊かな社会にとって大切なこと」《子ども向け》

1 おしゃれなもの、おいしいもの、便利なものがすぐ手に入る	2 近所に大型ショッピングモールや娯楽施設がある	3 就きたい仕事に就くことができる
4 まじめに働けば十分な収入を得ることができる	5 自分たちの世代にも、羽楽のために十分な自然や資源が残されている	6 空気や水、土地が汚染物質で汚されていない心配がない
7 学校のことは先生が自分たちで話し合って決められる	8 子どもにかかると法律やまじくりなどの決定に、子どもの意見が反映される	9 お金がなくても、けがや病気など必要なときに医者にみてもらうことができる
10 暴力やいじめに怯えないでくらすことができる	11 車の往來におびえたり、おとなが注意されることを気にしたりせず、外で自由にのびのびと遊べるようになる	12 安心して遊べる場所がある
13 飲食や制服、勉強の道具、上履きや体操着などが無料で配られる	14 けれども家庭の事情に左右されず、自分の夢や希望を実現するために、学校や家で必要な教育を受けられる	15 通った学校や教育の種類を理由に、将来の進路が制限されない
16 遅くなくてもよい進学制度が充実している	17 性別、生まれた国、容姿、考え方、行動、障害、病気など、何かしらの「違い」を理由に差別されたり、いじめられたりする心配がない	18 自分が人と違う行動や考え方をしても、周囲に受け入れられる
19 家族以外に、いざというときに頼れる大人がいる	20 安心して一編にいられるまじがある	21 お金がなくても安心して生活でき、勉強もできるよう、政府によって保障されている
22 エリートを育成する教育を進め、厳しい試験に合格した者だけがチャンスを得て、将来高収入を得ることができる		

●ワークシート②

ふたまる塾(社会)学習プリント「平和について考えよう②」
()年()組()番 名前()

■今回のテーマ
戦争が起こる要因を考えたと上で、実際の戦争をもたらすことを知り、平和な社会の実現のために必要なことについて考える。

(1)戦争はなぜ起こるのでしょうか。その原因として、最も関係が深いと考えられるものを3つ選ぼう。

1 過去の憎しみから報復を繰り返すから	2 テロリストがいるから	3 平和な国の人々が戦争に無関心だから
4 大国が自分の考えを押しつけるから	5 戦争で利益を得る人たちがいるから	6 抑圧されている人たちがいるから
7 危険な国があるから	8 宗教や民族などの違いがあるから	9 戦争に反対する人たちの力が弱いから
10 貧富の差があるから	11 武器・軍備があるから	12 大国が資源などの利益を求めから
13 メディアが人々を戦争へとあおるから		

(NHK「地球データマップ」制作班編(2008)『NHK 地球データマップ 世界の“未来”を考える』NHK 出版)
Oグループで選んだもの

	項目	理由
1つめ		
2つめ		
3つめ		

(2)ラオスでの不発弾処理やガダルカナル島の動画を見て、戦争をもたらす惨禍や平和実現のために思ったことや疑問に感じたことなどをメモしよう。(足りなければ裏を使ってよい。)

(3)戦争の被害者でもあり、加害者でもある日本が、戦争の惨禍を繰り返させないために、また、今なお戦争が残した傷跡で苦しむ人々のために、求められていることは何だろうか？別紙に考えよう。

(振り返り)本時の授業で考えたことや感じたことなど

●ワークシート③

ふたまる塾(社会)学習プリント「平和について考えよう③」
()年()組()番 名前()

■今回のテーマ
日本国として、日本国民として、平和な社会の構築のために何が求められているかを考え、平和な社会の実現のための第一歩を踏み出す。

(1)戦争の被害者でもあり、加害者でもある日本が、戦争の惨禍を繰り返させないために、また、今なお戦争が残した傷跡で苦しむ人々のために、求められていることは何だろうか？

	いまずぐできること	5~10年後にできること	継続してすべきこと
「私」に何が できるか			
「私たちの 社会」に何 ができるか			
「私たちの 国」として 何が できる か			

(2)戦争によって豊かさが奪われない社会を実現するためには、どのようなことを意識する必要があるだろうか？

(振り返り)単元の学習を通して、平和な社会の実現のために考えたことを書こう。

6. 参考資料

- ・ 開発教育協会 (2016) 『豊かさと開発 Development for the Future』 開発教育協会
- ・ 開発教育協会 (2009) 『市民学習実践ハンドブック 教室と世界をつなぐ参加型学習30』 開発教育協会
- ・ NHK 「地球データマップ」制作班編 (2008) 『NHK地球データマップ 世界の“未来”を考える』 NHK 出版
- ・ 山田紀彦 (2018) 『ラオスの基礎知識』 めこん
- ・ YAHOO! ニュース 「周南コンビナートの不発弾問題 来週にも潜水調査…ほかに不発弾ないかを調べる」
<https://news.yahoo.co.jp/articles/267adecb13a7ca0bbb608bebf7671fb33c9c6f4c>
(参照日2025年12月21日)
- ・ KRY NEWS 「山口・周南沖の海底で爆発物のようなもの (120センチ×40センチ) 見つかる～米軍の不発弾か 海自が確認へ」
<https://news.ntv.co.jp/n/kry/category/society/kr163a00c299084a8aab565d22f4af3c87>
(参照日2025年12月21日)
- ・ 香川国際ボランティアセンター 「ラオスの不発弾」
<https://npo-kvc.org/laos/fuhatsudan/> (参照日2025年12月21日)
- ・ NHK (2025年6月22日放映) 「NHKスペシャル 不発弾処理 足下(もと)に潜む“脅威”」 『NHKスペシャル』 [テレビ] (NHK) (授業で視聴)
- ・ NHK (初回放送日1995年7月15日) 「NHKスペシャル 映像の世紀第5集 世界は地獄を見た」 [テレビ] (NHK)
- ・ NHK (初回放送日1995年12月16日) 「NHKスペシャル 映像の世紀第9集 ベトナムの衝撃～アメリカ社会が揺らぎ始めた～」 [テレビ] (NHK)

ラオスと比較して学ぶ、郷土の地学

1. 授業実践者および単元の紹介

- **学校名** 山口県立防府西高等学校
- **実践者** 神田橋 知成
- **実践教科** 理科（学校設定科目：地学基礎探究）
- **単元名** **A. 山口県の地学** / **B. 地球環境の変化**（第一学習社）
- **単元を貫くキーワード**
#自然環境 #気候変動 #多様性 #国際比較
- **対象学年・人数** 第3学年 39名

2. 単元計画

A. 山口県の地学

● 単元設定の理由・実践者の想い

本科目の対象生徒は進学や就職を控えた3年次生である。卒業後の進路は多様であり、特に地域社会の担い手として活躍を目指す者も多い。このような背景を踏まえ、郷土への理解を深めるとともに、郷土と世界の比較を通して自らの価値観や常識を問い直し、多様性を尊重する姿勢を育むことを目的として、本単元を設定した。単元内では、主に山口県内の2カ所のジオパーク（Mine秋吉台ジオパーク、萩ジオパーク）に焦点を当て、これまでに学んだ地学的知識を活用して形成史を紐解くとともに、現地の専門家の講義や実験を通して理解を深める学習活動を設定している。そして、本単元の最後に、それまでの学習内容と世界（ラオス）の比較を通して、自らの知識に改めて「Why?」を問い直し、学びの深化を図る。

● 単元の目標

- ・ 山口県の豊かな自然環境を理解し、それらがもたらす恩恵や災害など自然環境と人間生活とのかかわりについて認識する。【知識及び技能】
- ・ 山口県の豊かな自然環境について、データ解析や実験などを通して探究し、特徴の規則性や関係性を見出して表現する。【思考力、判断力、表現力等】
- ・ 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。【主体的に学習に向かう態度】

（参考）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 理科編 理数編』

● 単元構成（全9時間）

時	テーマ・ねらい	活動内容	メインの学習※
1 ～ 4	Mine秋吉台ジオパーク	・ Mine秋吉台ジオパークの形成史の整理 ・ Mine秋吉台ジオパーク専門家による出前講座	

5 ┆ 8	萩ジオパーク	・ 萩ジオパークの形成史の整理 ・ 萩ジオパーク専門家による出前講座	
9	世界と比較してみる 山口県の地学	・ 山口県とラオスに見られるカルスト地形の比較とその形成要因の考察	○

※展開案記載の授業

B. 地球環境の変化

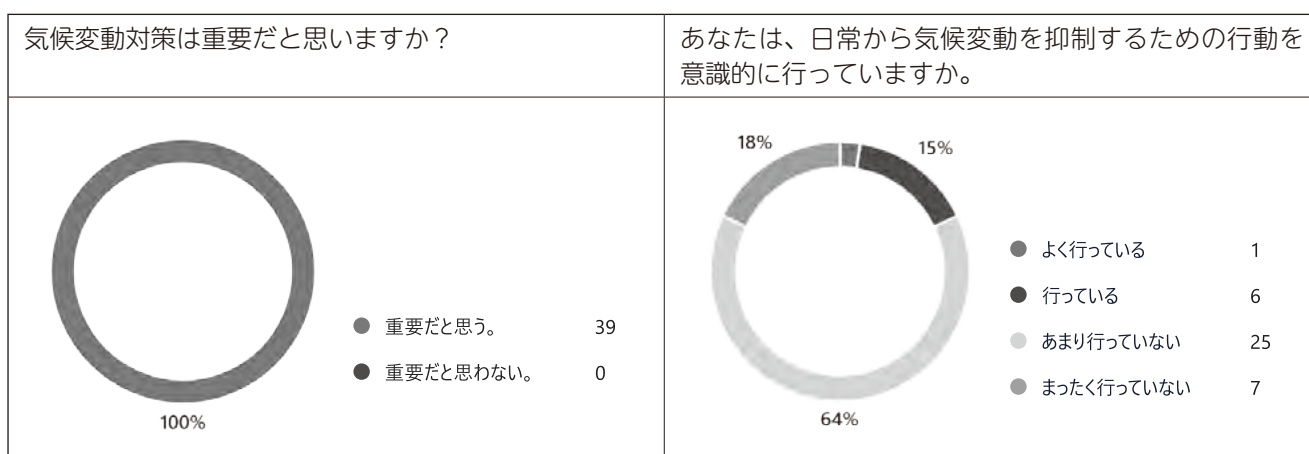
●単元設定の理由・実践者の想い

受講生徒（39名）に対して事前に気候変動問題に関する意識調査を行った結果、生徒は気候変動の影響や重要性をある程度理解して、危機感も持っている一方で、日常的な行動に結び付いていないことが分かった（図1）。また、気候変動の具体的な影響について尋ねても、「気温の上昇」や「海面上昇」などの表面的な理解にとどまっていた。

このような気候変動に対する意識と行動のギャップは、本校だけにとどまらず、内閣府が実施した「気候変動に関する世論調査（令和5年7年調査）」などにもその傾向が表れており、日本全体における課題でもあるように思われる。この原因を自らの授業を顧みて検討した際に、これまでの気候変動教育のゴールが、単に気候変動を理科的な現象として「分かる」ところまでにとどまっておらず、行動につながるような「気づき」を得るまでに至っていないということが考えられた。そこで本単元では、国際的議論を踏まえた気候変動への理解を深めることと、具体的な行動計画の策定を通して、気候変動の問題に「気づく」ことを目的とする。

これは、地球規模の課題（グローバルイシュー）を自分ごととして捉え直し、行動につなげる開発教育の理念とも合致しており、地学における従来の科学的理解と組み合わせることで、気候変動についてより深い理解を促す授業となることを期待する。

（図1）気候変動問題に関する事前調査の結果



●単元の目標

- ・ 地球規模の自然環境に関する資料に基づいて、地球規模の変化を見出してその仕組みを理解するとともに、それらの現象と人間生活とのかかわりについて認識する。【知識及び技能】
- ・ 近年の地球環境の変動について、観察、実験などを通して探究し、その規則性や関係性を見出して表現する。【思考力、判断力、表現力等】
- ・ 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全のために行動しようとする態度を養う。【主体的に学習に向かう態度】

●単元構成（全5時間）

時	テーマ・ねらい	活動内容	メインの学習※
1	気候変動の影響の国際比較	・日本とラオスの生活比較カード ・気候変動に対する脆弱性、温室効果ガスの排出量の国際比較	○
2 3	気候変動の原因、影響、国際的な議論についての整理	・地球温暖化の原因と影響を整理する。 ・地球温暖化の国際的な議論と動向を整理する。	
4 5	気候変動対策に向けたアクションプランの策定	・タイムラインを作成し、必要な行動を考える。 ・自分自身のキャリアにおける気候変動対策を考える。	

※展開案記載の授業

3. メインの学習（実践者が最も共有したい授業の展開案）

A. 山口県の地学 9時間目「世界と比較してみる山口の地学」

●目 標

ラオスと山口県の自然環境の違いを理科的な視点で捉え、論理的に表現できるようになる。

●学習指導過程

過程（時間）	教員の働きかけ・学習活動および発問・指導形態	指導上の留意点	使用教材
導入（10分）	1. 山口県のジオパークに関する既習事項について復習する。 2. ラオスのカルストタワーの写真を確認し、関連がある山口県の地形を予想する。 3. 本時の目標を確認する。 「世界の自然環境の多様性が、なぜもたらされるか、論理的に説明できるようになる。」	・対象国について話しすぎると、次の課題が深まりにくい。最低限の情報を紹介するにとどめる。	
展開（30分）	4. 探究活動の進め方を確認する。 進め方：1グループ3名程度。分担して課題A～Cに取り組み、それらを統合して結論を探る。 課題A：日本とラオスの太陽高度 課題B：日本とラオスの気候 課題C：化学的風化・カルスト地形	・グループメンバーの中で、数学、理科、社会でそれぞれ得意な科目で選べるとすると良い。	・課題シート 【資料A1】 ・グループ用ワークシート 【資料A2】
	5. (エキスパート活動) A～Cの課題に分担して取り組む。（20分） 6. (ジグソー活動) 班の中で、各課題の担当者が調べた内容を説明する。	・ヒントシートをすぐに渡さないようにする。 (※既習事項が思い出せない場合などは、頃合いを見計らって配布する。)	・ヒントシート 【資料A3】

まとめ (10分)	7. まとめ (まとめ課題) 自然環境の多様性が生じる一因を、日本とラオスの比較の結果を踏まえて説明せよ。	・生徒の習熟度によって、論理の立て方を支援することも考えられる。	・まとめシート【資料A 4】
--------------	----------------------------------------------------------	----------------------------------	----------------

B. 地球環境の変化 1 時間目「地球温暖化に潜む「格差」

●目標

気候変動に潜む「格差」について気づき、グローバルイシューの複雑さを考える。

●学習指導過程

過程 (時間)	教員の働きかけ・学習活動および発問・指導形態	指導上の留意点	使用教材
導入 (15分)	1. 地球温暖化の原因や影響について、身近な例を参考にしながら、既習事項について復習する。 2. 本単元の目標と、本時の目標を確認する。	・身近な地球温暖化の例を取り上げて引き付ける。	・個人用ワークシート【資料B 1】 ・授業スライド【資料B 2】
展開 (25分)	3. 比較カードを用いて、日本とラオスの国や人間生活の特徴を確認・比較する。 4. 3. の答え合わせをかねて、実践者の教師海外研修の経験をもとに、実際にラオスの暮らしぶりを確認する。 5. 日本とラオスのそれぞれの国において、気候変動が進行することによってどのような影響があるかを考える。 6. 5. の内容を踏まえつつ、このまま気候変動が悪化した場合に、影響を受けるのはどのような国かを考える。 7. 気候変動の脆弱性に関する指数と、二酸化炭素の国別排出量についてのグラフを確認する。主に気候変動の要因を作り出している国はどのような国かを考える。	・どちらの生活が良い、悪いという二元論に陥らないように留意する。	・比較カード【資料B 3】 ・グループ用ワークシート【資料B 4】 ・授業スライド【資料B 2】 ・グループ用ワークシート【資料B 4】 ・個人用ワークシート【資料B 1】
まとめ (10分)	8. 今回の授業で感じたことを、個人用ワークシートでまとめる。	・周りの人と感じたことをシェアする時間を設けると良い。	

4. 実践授業を終えて

●単元を通じた児童生徒の感想や学び・変容

『地球温暖化に潜む「格差」』の授業実践においては、授業後のまとめに次のような記述がみられた。

- ・地球温暖化について考えてみて、現在も他の地域（国外）で様々な問題があることが分かった。
- ・自分も他人事じゃないと気づかされました。影響を及ぼす国及ぼされる国どちらもやる必要があるんじゃないかと思いました。
- ・地球温暖化は皆の責任だと考えていたが、責任の重さは違ってくることに気づかされました。
- ・自分の思っている以上に地球温暖化の影響は恐ろしいのだなと思った。

以上のように、地球温暖化について考える中で、国外を含む各地で深刻な問題が生じていることを知り、自分自身も当事者であると認識するようになったという意見が見受けられた。また、温暖化への責任はすべての人にあるものの、その重さには国や立場によって違いがあるとの気づきを得た生徒もいた。もちろん全生徒に同じようにパラダイムシフトが起こったわけではないが、気候変動問題をより深く理解するための題材として一定の効果があることが確認できた。

◎まとめ：本時の授業で気づいたこと、感じたこと、考えたことを記入せよ。(5行以上)

ラオスの現状について聞いたこと、日本にはいろいろな課題があるということに驚きました。雨水を利用することで感染症が増えたり、地球温暖化が進むと農業にも影響が出て仕事が出来なくなる人が出てくることを知りました。日本でも地球温暖化が進んでいるので、二酸化炭素をなるべく排出しないように、車の移動を減らすなどの工夫をしようと思うことに。温暖化対策で何をすればいいのか調べて実践してみたいと思います。

◎まとめ：本時の授業で気づいたこと、感じたこと、考えたことを記入せよ。(5行以上)

先進国など工業が発展して人口が多い国は地球温暖化の原因をたくさん作っているのに関係ない。その影響をこちらに受けるのは二酸化炭素をあまり排出しない農業が盛んな発展途上国で。その結果、胸や痛むなどの原因を作っている側がそれだけの責任を負わなければならないというのに私はあまり主体的な暮らしをしていないから、反省しなければいけないと思った。これから一人暮らしをするときは、節電や節水を心がけた。

●授業実践者の感想・振り返り

実践全体を通して

・成果

- ・科目（地学基礎探究）の授業内容に開発教育の視点を盛り込むことで、より学習内容への関心が高まったように感じる。地学的事象を国際的な視点も含めて様々な角度から思考することで、普段以上に「なぜ？」が飛び交う空間となった。

・改善点

- ・もっと生徒が振り返る時間を設けるべきだった。時間内に収めようとするがあまり、生徒が最後に自分自身と向き合う時間をないがしろにしてしまった。しかし、最も削るべきではない時間だったこと

に実施後に気付いた。

- ・開発教育は「継続的」に実施する必要があることを再認識した。今回の実践では、日程の都合上、次の授業までの期間が開いてしまう部分が生じてしまった。これにより、次のワークでは、国際的な視点が薄れた格差をもとにした解決策を考えるワークで、今回の実践内容が踏まえ切れていないように思える。理想論ではあるものの、科目内ではある程度まとまりをもって実施するとともに、この視点をできる限り学校単位で実施していくことが、必要になってくることを実感した。

実践内容について

・改善点

- ・日本と他国の自然環境の違いは、様々な要因によって形成されることをフォローする必要がある。今回取り扱ったカルスト地形についても、実際には気候条件だけでなく、石灰岩自体の特徴（種類や組成）などによってもカルスト地形の様相は異なってくる。今回の実践では、最も基本的な要素のみに触れた授業だったが、さらに発展的な課題として、他の要因との関連性について探究させても面白いかもしれない。
- ・扱いに注意していたつもりだったが、結果として「開発途上国＝大変な国」という認識に終始してしまった生徒が数名いた。偏った視点に陥らないように、絶えず取り扱う内容をブラッシュアップする必要がある。

5. 使用教材

資料A 1

課題シート

課題シート A

3年()組()番 氏名() / ()班


課題 A (太陽)：ラオスと日本の太陽高度と、地表に達する太陽放射エネルギーの量の違いについて、以下の【**思考プロセス**】にもとづいて説明せよ。

【思考プロセス】

①ラオス（首都ビエンチャン）と日本（防府市）の緯度（北緯）を調べよ。

②以下の写真 1、2 は、ラオスと日本で同一人物が同時期（8月中旬）の 13 時に撮影した、影の写真である。それぞれの影の長さをもとに、撮影地の太陽高度を計算せよ。ただし、撮影者の身長は 180 cm、靴のサイズは 30 cm とする。計算の途中過程は他人にも分かるようにプリント裏面に記入し、計算結果はワークシートに入力すること。

(写真 1) ラオス（首都ビエンチャン）にて撮影 (写真 2) 山口県（防府市）にて撮影



③一般的に、低緯度地域の方が気温は高い傾向にある。その理由を、太陽放射エネルギーを踏まえて、ワークシートの空欄に合うように説明せよ。(ヒント：教科書 p86)

課題シート B

3年()組()番 氏名() / ()班

課題 B (気候) ラオスと日本の気候の特徴について、以下の【**思考プロセス**】にもとづいてまとめよ。

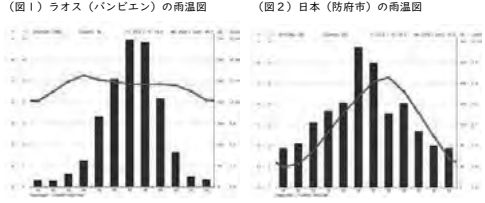
【思考プロセス】

①ラオス（バンビエン）と日本（防府市）の年平均気温と年間降水量を比較せよ。

②ラオス（バンビエン）と日本（防府市）ケッペンの気候区分を調べ、それぞれどのような特徴がある気候かを整理せよ。

③それぞれの気候区分で見られるその他の自然や人間生活の特徴をいくつか調べ、整理せよ。

(図 1) ラオス（バンビエン）の雨温図 (図 2) 日本（防府市）の雨温図



両図とも Climate Data より引用（最終閲覧：2025.10.21）
<https://ja.climate-data.org/>

課題シートC

3年()組()番 氏名() / () 班

課題C (化学的風化、カルスト地形)：化学的風化とカルスト地形の形成メカニズムについて、以下の【**思考プロセス**】にもとづいて整理せよ。

【思考プロセス】

①化学的風化の特徴と、進行しやすい地域はどこか、まとめよ。物理的風化との違いに言及しても良い。(ヒント：教科書 p142、資料集 p140)

②カルスト地形はどのように形成されるか、**化学反応式を用いて**説明せよ。なお、説明の際には、「**化学的風化**」という語を必ず用いること。(ヒント：資料集 p140)

③タワーカルストは、どのような場所でのどのような仕組みで形成されるか、説明せよ。なお、説明の際には、「**化学的風化**」という語を必ず用いること。

(写真1) ラオス (バンビエン) のカルストタワー (写真2) 山口 (秋吉台) のカルスト台地



両写真とも、プリント作成者が撮影

資料A 2

グループワーク用ワークシート

地学基礎探究 探究ワークシート

ラオスと日本の自然環境

グループ名 **1班**

課題1：以下の課題A～Cについて班のメンバーで分担して調べ、整理せよ。

課題2：以下の課題A～Cについて、班のメンバーに対し、分かりやすく解説せよ。

課題3：以下の課題A～Cの解答を踏まえて、以下の問に答えよ。

問：山口県とラオスのカルスト地形の様相が異なる理由について、山口県とラオスの太陽高度と気候の違いを踏まえ、実際の数値などを用いて論理的に説明せよ。

Excelの操作方法①：セル内での改行 → 「Alt」 + 「Enter」

Excelの操作方法②：セル内の特定の位置への入力 → **ダブルクリック**

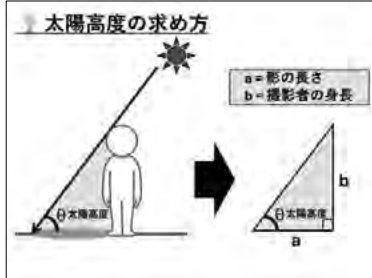
担当者		
課題A：ラオスと日本の太陽高度と、地表に到達する太陽放射エネルギーの量の違いについて説明せよ。 ラオス(首都ビエンチャン)の緯度は北緯()°、日本(防府市)の緯度は北緯()°であり、(ラオス・日本)の方が低緯度に位置していることが分かる。 一般に、太陽高度は低緯度地域の方が、(高く・低く)なる。 実際に計算してみると、8月中旬の13時ごろの場合、ラオスの太陽高度は()°、日本(防府市)の太陽高度は()°であり、低緯度に位置している(ラオス・日本)の方が、太陽高度が(高い・低い)ことが分かる。 一般的に、太陽高度が(高い・低い)低緯度地域ほど、地表に届く(太陽放射)エネルギーの量が多くなるので、ラオスの方が、日本に比べ気候は(温暖・寒冷)になる。	課題B：ラオスと日本の気候の特徴について、まとめよ。 ①ラオス(バンビエン)と日本(防府市)の年平均気温、年間降水量 ・ラオス(バンビエン)：気温()°C、降水量()mm ・日本(防府市)：気温()°C、降水量()mm ②ラオスと日本の気候の特徴(ケッペンの気候区分とその特徴) ③それぞれの気候区分で見られるその他の自然や人間生活の特徴	課題C：化学的風化と、カルスト地形の形成メカニズムについて整理せよ。 ①化学的風化の特徴と起こりやすい地域 ②カルスト地形のでき方 ③「タワーカルスト(塔状カルスト)」ができる仕組み

資料 A 3

ヒントシート

ヒントシート A

太陽高度の求め方



- 1 b (撮影者の身長) は問題文から分かる。 b = (ア) cm
- 2 a (影の長さ) は靴の長さ(30cm)を参考に、定規を用いて測定する。 a = (イ) cm
- 3 a,b から、三角関数 (sin, cos, tan) のうちの (ウ) の値が求まる。
- 4 (ウ) の値と、三角関数対応表からθ (太陽高度) を求める。

ヒントシート B

バンビエンの気温と雨量

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
平均最高気温 °C (°F)	10.1 (50.2)	12.0 (53.6)	14.4 (57.9)	17.0 (62.5)	19.4 (66.9)	21.7 (71.1)	23.7 (74.7)	25.2 (77.4)	25.9 (78.6)	24.8 (76.6)	22.1 (71.8)	19.5 (67.1)	19.1 (66.4)
日平均気温 °C (°F)	8.0 (46.4)	9.5 (49.1)	11.5 (52.7)	13.8 (56.8)	16.1 (61.0)	18.1 (64.6)	19.6 (67.3)	20.5 (68.9)	20.1 (68.2)	18.5 (65.3)	15.8 (60.4)	13.2 (55.8)	14.1 (57.4)
平均最低気温 °C (°F)	5.9 (40.6)	7.0 (44.6)	9.0 (48.2)	10.6 (51.1)	12.6 (54.7)	14.2 (57.6)	15.1 (59.2)	15.6 (60.1)	15.6 (60.1)	14.2 (57.6)	11.5 (52.7)	8.8 (47.8)	8.2 (46.8)
雨量 mm (inch)	8 (0.31)	18 (0.71)	49 (1.93)	73 (2.87)	100 (3.94)	143 (5.63)	192 (7.56)	240 (9.45)	200 (7.87)	135 (5.31)	84 (3.31)	41 (1.61)	530 (20.87)

出典: Climate-Data.org

Wikipedia より引用 (最終閲覧: 2025/10/21)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%84%E3%82%A1%E3%83%B3%E3%83%B4%E3%82%AC%E3%82%AB%E3%83%B3>

防府市の気温と降水量 (雪なども含む)

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
最高気温記録 °C (°F)	24.4 (75.9)	26.1 (79.0)	28.1 (82.6)	31.0 (87.8)	33.6 (92.5)	36.0 (94.8)	38.0 (98.4)	39.0 (100.2)	38.0 (98.4)	35.0 (95.0)	32.0 (89.6)	29.0 (84.2)	30.0 (86.0)
平均最高気温 °C (°F)	9.1 (48.4)	10.2 (50.4)	12.4 (54.3)	14.8 (58.6)	17.1 (62.8)	19.1 (66.4)	20.8 (69.4)	21.9 (71.4)	21.1 (70.0)	19.1 (66.4)	16.1 (61.0)	13.2 (55.8)	14.1 (57.4)
日平均気温 °C (°F)	6.5 (43.7)	7.6 (45.7)	9.5 (49.1)	11.6 (52.9)	13.8 (56.8)	15.8 (60.4)	17.3 (63.1)	18.1 (64.6)	17.6 (63.7)	15.8 (60.4)	13.2 (55.8)	10.6 (51.1)	11.5 (52.7)
平均最低気温 °C (°F)	0.7 (33.3)	1.8 (35.2)	3.8 (38.8)	5.8 (42.4)	7.8 (46.0)	9.6 (49.3)	11.1 (52.0)	11.8 (53.2)	11.8 (53.2)	10.6 (51.1)	8.2 (46.8)	5.9 (42.6)	6.2 (43.2)
最低気温記録 °C (°F)	-4.1 (24.6)	-3.0 (24.6)	-1.0 (30.2)	1.0 (33.8)	3.0 (37.4)	5.0 (41.0)	6.0 (42.8)	6.0 (42.8)	6.0 (42.8)	5.0 (41.0)	2.0 (35.6)	-0.5 (30.9)	-1.0 (30.2)
降水量 mm (inch)	53.8 (2.12)	58.0 (2.28)	118.0 (4.65)	143.8 (5.66)	141.2 (5.56)	110.7 (4.36)	107.0 (4.21)	109.0 (4.29)	101.0 (3.98)	75.0 (2.95)	41.0 (1.61)	21.0 (0.83)	483.0 (19.01)
平均降水日数 (≥ 1.0 mm)	8.9	9.1	16.1	17.1	16.9	14.9	14.6	14.6	14.0	12.6	8.6	5.6	107.6
平均月間日照時間	139.4	163.0	176.5	196.8	209.1	246.6	173.9	223.7	172.1	102.2	59.6	33.6	1,095.8

出典: Japan Meteorological Agency

Wikipedia より引用 (最終閲覧: 2025/10/21)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%98%B2%E5%B4%A9%E5%82%B2>

まとめプリント

地学基礎探究 探究プリント（山口県の地学③）
ラオスと比較してみる、山口の地学
 3年組 番 氏名（ ） / 班番号（ ） 班

本時の問い

山口県とラオスのカルスト地形の様相が異なる理由について、太陽高度と気候の違いを踏まえ、実際の数値などを用いて論理的に説明せよ。

（評価）

B段階：世界における自然環境の多様性の要因について、太陽と気候、風化作用の関連性に着目しながら、科学的に説明できる。

本時の理解度（ ）点（5点満点）

個人用プリント

地学基礎探究（第6章第1節 地球環境の科学）
地球温暖化問題に潜む「格差」
 3年組 番 氏名（ ） / 班番号（ ） 班

◎探究課題：地球温暖化の原因と結果（影響）を以下の表に整理せよ。

原因	結果（影響）
確認A ：地球温暖化の原因を、以下に整理せよ。 （ヒント：教科書 p83,179） 大気中の（ ）ガスが増加し、大気（ ）が強まることで生じる。 窒素酸素 アルゴン 二酸化炭素 メタン 一酸化二窒素 フロン類	確認B ：地球温暖化によって起きている地球環境への影響には、どのようなものがあるか？ （ヒント：教科書 p180-181）
考察A ：主に地球温暖化の原因をつくっていると考えられるのは、どのような国か？ ●どのような国？	考察B ：主に地球温暖化による影響を受けやすいと考えられるのは、どのような国か？ ●どのような国？ ●そう考える理由は？

◎まとめ：本時の授業で気づいたこと、感じたこと、考えたことを記入せよ。（5行以上）

第6章第1節 地球環境の科学

**0 地球温暖化問題に
潜む格差**

Intro : この数字は何？

44日

山口市の〇〇〇の日数

Intro : 今夏の高温の原因は？

地球温暖化

地球温暖化が無いと仮定した場合、
今夏の高温はほぼ発生し得ない。

-気象庁気象研究所(2025)
<https://www.jma.go.jp/jma/press/2509/05b/kentouka/20250905.html>

Main Issue -単元の問い

地球温暖化問題について
多角的に理解し、
行動できるようになろう。

本時の目標

世界に目を向け、
地球温暖化問題に潜む、
「格差」に気付く。

復習

確認A: 地球温暖化の原因

大気中の()ガスが増加し、
大気の()が強まるため。

①国土面積は、
約24万 km²である。
②社会主義国・
多民族国家

ラオス

日本

③アルプス・ヒマラヤ造山帯の東縁部に
位置している。

④主に流れているのは、長く、緩やかで
流れの遅い河川である。
佐波川(防府市) メコン川(東南アジア)

長さ: 約56 km 長さ: 約4500 km

⑤洪水や干ばつの被害が多い。地震・火山
噴火は少ない。

⑥水力発電が発電量全体の約75%を
占めている

(写真) ラオスのナムダム
<https://www.jpower.co.jp/gg/57spot/>

⑦電力、鉱物資源、農畜産物が主要輸出
品目である。

(写真) ラオスのナムダム
<https://www.jpower.co.jp/gg/57spot/>

⑧労働人口の約70%が農業に従事している。

⑨自然の水(雨水)をそのまま用いる農業
(天水農業)が行われているところも多い。

⑩主食はもち米である。

⑪水道普及率は約25%で、雨水をためて
生活している地域もある。

⑫主要道路はアスファルトで舗装されて
いない部分も多い。

⑬蚊が媒介するマラリアの国内感染が
見られる。

<https://www.forth.go.jp/news/2012/04091307.html>

多文化共生社会に生きる私たちの生き方

1. 授業実践者および単元の紹介

- **学校名** 愛媛県立北宇和高等学校三間分校
- **実践者** 飛鷹 奏多
- **実践教科** HR活動、総合的な探究の時間、国語
- **単元名** 多文化共生社会に生きる私たちの生き方
ホームルーム活動 (3)一人一人のキャリア形成と自己実現
- **単元を貫くキーワード**
#異文化理解 #多文化共生 #日本とラオスの違い #言語文化 #食文化
- **対象学年・人数** 全校生徒(2・3学年のみ) 17名

2. 単元計画

● 単元設定の理由・実践者の思い

・授業構想に至った経緯

近年、日本社会では外国にルーツをもつ人々が増加し、学校や職場など身近な場面で多文化共生が求められている。生徒たちも、卒業後には就職や進学を通して、多様な背景をもつ人々と新たな人間関係を築いていくことになる。しかし、言語の違いや無意識の偏見によって、円滑なコミュニケーションが妨げられる場面は少なくない。そこで、本授業ではラオスの教育事情を取り上げ、日本の教育との違いや課題を比較することで、言葉の壁や偏見の存在を自分事として捉えさせたいと考えた。将来の進学先や就職先で多文化社会の一員として責任ある行動がとれる力を育成することを目的に、本授業を構想した。

・教材観

本授業で扱うラオスの教育事情は、日本とは異なる教育環境や価値観を知る有効な教材である。特に、教育資源や言語環境の違いは、生徒が「当たり前」として捉えてきた日本の教育を相対化する視点を与える。また、言語の壁を疑似体験する活動を通して、外国にルーツをもつ人が感じる不安や戸惑いを体感的に理解することができる点に教材の価値がある。これらの教材は、将来の進学や就職において、多様な背景をもつ人々と関わる際の基礎的な理解を育み、多文化共生を実践するための態度形成につながると考える。

・指導観

多文化共生に関する学習では、知識の理解にとどまらず、自身の価値観や行動を振り返ることが重要であると考え。そのため本授業では、体験的な活動や対話を重視し、生徒が自ら考え、言語化し、共有する場を多く設定した。特に、就職や進学後の人間関係を想起させることで、多文化共生を将来の課題として捉えさせたいと考えている。また、偏見は誰もが無意識に持ちうるものであることを前提に、生徒同士が互いを尊重しながら考えを深められるよう支援する。将来、多文化社会の一員として責任ある行動を選択できる生徒の育成を目指して指導にあたる。

●単元の目標

- ・よりよい生活を築くための知識・技能
自他の個性を理解して尊重し、良さや個性を発揮したうえでコミュニケーションを図りながら意思決定している。
- ・集団や社会の形成者としての思考・判断・表現
社会の一員としての自覚や責任を持ち、今後の生活の見通しを立て、多文化共生のために必要なことがまとめられている。
- ・主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
我が国の文化と他国の文化や生活習慣などについて理解し、よりよいコミュニケーションの在り方を考えるなど、共に尊重し合い、多文化共生社会に生きる一因として自身の生き方を探究している。

●単元構成（全9時間）

時	テーマ・ねらい	活動内容	メインの学習※
1	テーマ ・異文化理解 ・日本とラオスの違い ねらい ラオスの子ども達の実情を理解する	ラオスの子ども達の実情と言語文化の違いを理解するために、生徒にクイズを作成させた。このクイズはこども文化センターでマツケンサンバと共に披露するためのクイズだった。生徒にクイズを作成させたことで、異国の文化と言語の違いに興味を持って取り組んだ。	
2	テーマ ・異文化理解 ・言語文化の違い ねらい ラオスの子ども達の実情を理解する	あらかじめ確認しておいた、ラオスにおける日本アニメの認知度やこども文化センターの日本語指導事情などをもとに、「日本人なら誰でも知っている」をテーマにクイズを作成した。作成したクイズは日本語とラオ語の二言語表記にすることで、生徒たちに多国籍交流を意識させた。	
3	テーマ ・異文化理解 ・日本とラオスの違い ねらい 途上国の置かれている現状を理解する	交通事情、民族事情、食文化の3本を柱にして、生徒たちに海外研修の報告を行った。生徒たちが日本とラオスの文化の違いに触れられ、自身の生活を見直すヒントとなるような構成を心掛けた。疑問点や所感などをすすんでまとめており、途上国の置かれている現状を理解できただけでなく、そこから私たちにできることまで考えることができた。	
4	テーマ ・異文化理解 ・日本とラオスの共通点 ねらい 共通点を見つけ、自分たちにできることを考える	ここでは、不発弾除去の現状をテーマに、日本とラオスの共通点について考えた。ラオスではベトナム戦争の負の遺産として、日本では沖縄戦争の負の遺産として不発弾が残っており、今も民間人が犠牲になることがある現状を動画を交えて説明した。その後、私たちにできることをディスカッションで話し合った。共通点がなさそうな二カ国から見えてきた共通部分ということもあり、生徒たちは驚きながらも熱心な議論ができていた。三間町には現在地雷除去のために世界各国で活躍されている方がいらっしゃるため、その方の講演会などにも繋げてさらに発展させていきたい。	

5	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生 ・文化比較 <p>ねらい</p> <p>文化を比較し、共通点や相違点を見つけ、共生に向けての在り方を考える</p>	<p>ここでは、前時と前々時を踏まえ、日本とラオスの文化比較を行った。共通点と相違点を挙げ、異文化理解や多文化共生のために私たちができることを考えた。「文化の違いはあって然るべきで、お互いがきちんとお互いの文化を理解し、譲れるところは譲らないといけない」などといった意見が出た。言葉で言うだけでなく、就職・進学した先で実践できるだけの能力を身に付けなくてはならないという結論に至った。</p>	
6	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際理解 ・食文化比較 ・JICAの取り組み <p>ねらい</p> <p>JICAの取り組みを知り、実際の経験をもとにして料理を作成する</p>	<p>JICA青年海外協力隊を育てる会主催の「地球の料理教室」を行った。国際理解教育としての料理を通じてその国の背景や置かれている現状を想像し、異なった価値観を認め合う心の育成と、異文化理解教育としての世界の伝統料理を通じて食生活に彩りをもたらすとともに、他国の魅力を知り異文化理解を深めることを目指して実施した。エルサルバドルに派遣されていた塩入氏にお越しいただきププサを作成した。生徒たちは南米の料理に触れたことがなかったため、苦戦していたようだがなんとか形にすることができた。JICA青年海外協力隊としての取り組みも聞くことができ、生徒たちは新しい刺激を受けたようであった。</p>	
7	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化理解 ・食文化比較 <p>ねらい</p> <p>ラオスの料理を作成し食べてみることで風土感やその特徴を捉える</p>	<p>エルサルバドル(南米料理)のププサだけでは比較対象とならないため、ラオス(東南アジア料理)のカオソーイを作成した。作業工程を配布していたこともあり工程的に難しい部分はなかったようだが、香辛料の独特な匂いが印象に残ったようである。カオソーイの特徴や、好んで食べられている地域などをまとめたことにより、生徒たちの深い学びにつながった。</p>	
8	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化理解 ・食文化比較 <p>ねらい</p> <p>日本と東南アジア・南米それぞれの料理を比較し、食文化の違いとその理由について探る</p>	<p>三つの料理を比較し、食文化の違いについて考えた。主食の違いや、地理的条件、そこからくる食文化の違いについて分析することができた。東南アジア近辺の主食はコメが多いということは理解できていたようだが、コメの麺が存在することや、生水が提供されないことに驚いていた。生徒たちは途上国の現状と食文化を結びつけて捉えており、「水道などの整備が行き届いていないために、水が提供されないと思う」という意見や、「中国が近いので、中華料理などの香辛料を多く用いた料理が生まれるのではないか」という意見が出た。三カ国間の料理をうまく比較でき、食文化の違いを言語化できた時間となった。</p>	
9	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化理解 ・多文化共生 ・人権意識の醸成 <p>ねらい</p> <p>多文化共生において必要なことと、私たちにできることを考える</p>	<p>無意識の思い込みに気付くことを目的として、グループワークを中心とした学習活動を実施した。生徒は自分事として課題を捉える中で理解を深める姿が見られた。「周囲をよく見て自分にできることを考えたい」「困っていると感じる人がいたら手を差し伸べたい」といった意見も挙がり、多様な背景を持つ人と関わる際の態度形成につながったと考えられる。今後、社会に出た後も本学習で得た視点を生かしていくことを期待している。</p>	○

※展開案記載の授業

3. メインの学習（実践者が最も共有したい授業の展開案）

●主 題

ラオスの教育事情から考える多文化共生とその方法

～言葉の壁と私たちの偏見に向き合う～

●目 標

- 1 ラオスと日本の教育事情とその課題を理解し、多文化共生に必要な知識を自身で蓄えていく能力を養う。(知識・技能)
- 2 就職・進学し新たな人間関係を形成していく中で、多文化共生に対して自身がどのような貢献ができるかを考え、行動に責任を持たせる。(思考・判断・表現)
- 3 多文化社会を生きる上での自身の責任の重さを自覚し、そのために必要な行動を自ら進んで考え、実行に移す姿勢を育む。(主体的態度)

●評価基準

- 1 ラオスと日本の教育事情とその課題を理解でき、多文化共生に必要な知識を自身で蓄えていく能力を養おうとしている。(知識・技能)
- 2 就職・進学し新たな人間関係を形成していく中で、多文化共生に対して自身がどのような貢献ができるかを考えることができ、行動に責任を持つことができている。(思考・判断・表現)
- 3 多文化社会を生きる上での自身の責任の重さを自覚でき、そのために必要な行動を自ら進んで考え、実行に移す姿勢を育むことができている。(主体的態度)

●備 考

2-1 1名 2-2 2名

3-1 9名 3-2 5名 生徒数計17名

●学習指導過程

過程 (時間)	教員の働きかけ・学習活動および発問・指導形態	指導上の留意点	使用教材
(5分)	1. 本時の目標を確認する (1) 学習内容の確認 (2) 到達目標の確認	・活動意義を明確に伝え、問題意識を持たせる。 ・ラオスと日本の教育課題を説明し、多文化共生に向けた活動であることを伝える。	・ワークシート 【資料1】 ・授業スライド 【資料3】
(15分)	2. 言語の壁を疑似体験する	・言語の壁に直面した際に生じる感情や課題解決に向けての自身の考えを表現させる。	

(5分)	(1) グループワークを行う。 (4人組グループを作らせ、各班それぞれに違う指示が書かれた指示書を示す。制限時間5分で書かれた指示に取り組む。)	・机間支援等で活動状況に応じた支援を行う。	・タブレット端末 ・指令書（使用教材②）
(10分)	(2) 感想を発表する。	・他者を尊重した発表ができるよう指導する。	
15分 (5分)	3. 私たちに潜む偏見について考える (1) 全体でワークを行う。 (目をつぶらせ全員の額にシールを貼る。その後、声を出さずに「仲間を見つけて」と指示し、仲間ができたらしら手を取って座らせる。その際に、一人だけ、シールを貼らない者を決めておき、疎外感を演出する。)	・私たちに潜む偏見を自覚し、それを踏まえて行動することの重要性に気付かせる。	・色分けシール
(10分)	(2) グループで考えをまとめる。 (全体で一つの円を作り、仲間意識を感じさせた後、小グループに戻し、多文化共生で一番重要だと思うことをフリップボードに記入させる。)	・それぞれが自分の意見を発言し、そのうえで意見をまとめるように指導する。	・フリップボード一式
10分	4. 考えの発表を行う	・他者を尊重した発表ができるよう指導する。	
5分	5. 本時のまとめをする	・本時の自己評価を行い、ワークシートを記入する。	・ワークシート

4. 実践授業を終えて

●単元を通した児童生徒の感想や学び・変容

記入3 活動②「私たちの仲間」で感じたことを記入しよう。

仲間が何かというのが目で見るようになっていたが、自分や周りの状況に
 気付かなかった。人数の指定がなかったから、仲間に入らなくていいよ
 った。

記入4 活動②「私たちの仲間」を受けて私たちにできることは何かを考えてみよう。

視野を広げて行動する。困っている人がいたら、私にできることを
 する。

記入6 今日の授業で気づいたことや新たに得た視点、授業の感想などを記入しよう。

多国の方々と会話するのは難しいけど、ある程度の常識は知っておきたいと思
いました。また、話せなくても手振りなどをして相手に伝えることや身の回りのことをちゃん
と確認することの重要性に気付くことができました。

記入3 活動②「私たちの仲間」で感じたことを記入しよう。

無意識に色や形でグループを作っていた。

自分の色が分からなくて最初動けなかった。

記入4 活動②「私たちの仲間」を受けて私たちにできることは何かを考えてみよう。

言葉が分からなくてジェスチャーで伝えようと思う。

記入5 活動①、②で考えた私たちにできること(記入2、3)を踏まえ、一番重要視すべきことをグループで話し合ってみよう。

記入3 活動②「私たちの仲間」で感じたことを記入しよう。

自分だけツールが付いていなかったから仲間をつくれなかった。けど最終
的にたぐりして仲間をつくれた。ツールが付いている者として仲間を
つくり自分だけあきらめておしまいした。

記入4 活動②「私たちの仲間」を受けて私たちにできることは何かを考えてみよう。

実際は目に見えないものからこそより注意深く広く周りを見らると思った。

記入5 活動①、②で考えた私たちにできること(記入2、3)を踏まえ、一番重要視すべきことをグループで話し合ってみよう。

話せなから、けどこれも人権問題なと思いました。言語がわからないと差別につながる。

記入6 今日の授業で気づいたことや新たに得た視点、授業の感想などを記入しよう。

人権に関する話したと思いました。言語のかけがえは会話自体が成立しなくて、周りとは違う人で差別にもつながると思いました。私も周りはツールを付けているのに私だけ付いていない疎外感やさびしさがありました。学んだことは、国や文化はちがえと押しつけはダメ、それぞれを大切にすることです。

●他教員の視点からの意見(一部抜粋、表記を改めた箇所がある)

1 特に良かった点

- ・少人数グループにすることや、すべての班に異なる指示書を与えたことで全員が活動に参加できていた。
- ・仲間づくりの活動の際、ジェスチャーなどを使って…と置いていたら「全員が仲間」だったこと、自身の固定観念や偏見を目の当たりにしたと感じた。
- ・生徒に体験をさせるグループワークは生徒も楽しそうだったし、実感として印象に残りやすい活動だったと思う。
- ・導入のクイズで生徒に問題意識を持たせてからワークに入ったのがよかった。
- ・ワーク2の活動では、私たちは目に見えるもので分類しようとする無意識の偏見が存在することに気づくことができたのがとてもよかったです。
- ・多文化共生について考える時、まずは自分の中にある偏見や思い込みに気づき、仲間だという意識を、持つことが重要だと感じた。

2 改善が必要な点

- ・少し早口で進めるテンポが速いと感じた。内容があるだけに詰まった感じがする。
- ・記入5にグループで話し合っくと書かれていたので、生徒のプリントに埋まっていないものがあった。余った時間で話し合う時間が取れたらよかった。
- ・実践者が言う言葉の中に大切な言葉やキーワードがたくさんあったように思うので、そこをスクリーンに投影することで生徒により深く考えさせることができると思う。

3 授業研究会の参加教員のコメント

- ・生徒の「○○君のシールがないよ」という言葉は困っている人がいるおかしさに気づき行動できる、重要な一言だったと思う。
- ・最後のまとめはこれからの世界で生きる生徒たちにとって重要なことだと思う。他国の人との関わりはもちろん、国内の人との関わりでも大切な考えであると感じた。
- ・全体でのグループワークは、私自身、シールに捉われ、「自分と同じ仲間を！」という考えがまず浮かんでしまった。思い込みはよくないと実感した。

- ・最高の人権教育、道徳教育だった。
- ・ワークを通じて「実際に体験する」ことでの学びはとても深いものになったと思う。
- ・多文化共生を目指すために、視野を広くもつこと。その視野を広く持つためには、「自分がいっぱいいっぱいにならないこと」という言葉に大変共感した。

●授業実践者の感想・振り返り

本時は、ラオスの教育事情を題材に、多文化共生についての理解を深めるとともに、進学・就職を控えた生徒が、今後多様な背景をもつ人々とどのように関わっていくべきかを主体的に考えることを目的として実施した。多文化共生を知識として学ぶだけでなく、生徒自身の体験を通して内省を促すことを重視し、言語の壁の疑似体験および偏見を可視化する活動を中心に授業を構成した。

導入では、本時の目標と学習内容を明確に示し、ラオスと日本の教育事情という生徒にとって比較的身近な題材を扱うことで、課題意識を喚起した。その結果、生徒は多文化共生を抽象的な概念としてではなく、自身の将来に直結する課題として捉え、意欲的に学習へ参加する姿が見られた。

展開①では、言語の壁を疑似体験させるため、日本語・英語・ラオス語で書かれた指示書をそれぞれ2セットずつ用意し、グループごとに順位を競う活動を行った。生徒は指示内容が理解できない状況に直面し、戸惑いや焦り、不安を感じる様子を見せていた。この活動を通して、言語が分からないことが学習や人間関係の形成に大きな影響を与えることを実感として理解することができたと考える。活動後の振り返りでは、言語が通じない状況においても、ジェスチャーや表情、簡単な手話などの非言語的コミュニケーションを用いることで意思疎通が可能であることに気付いた生徒もおり、こうした工夫が相互理解や平等な関係の構築につながるのではないかという考察が見られた。また、教師が価値観を一方向的に提示するのではなく、生徒が「感じたこと」「体験したこと」をもとに考えを深められるよう支援したことで、学びが押し付けにならず、生徒自身の気付きとして定着した点は成果である。

一方で、活動に時間を要したため、全員の意見を十分に全体で共有することができなかった点は反省点である。今後は、発表方法の工夫や記述による共有などを取り入れ、限られた時間の中でも多様な意見を可視化できるよう改善していきたい。

展開②では、私たちの中に潜む偏見について考えさせるため、生徒をシールによって色分けし、同じ色の仲間を探して集団を作る活動を行った。その際、シールは生徒のおでこに貼り、本人には色が分からないようにすると同時に、一人だけあえてシールを貼らない生徒を設定し、周囲の生徒がどのような行動を取るのかを観察した。この活動では、無意識のうちに「同じ印をもつ者同士」で集まろうとする行動や、仲間に入れない生徒への関わり方の違いが顕著に表れた。振り返りでは、自分自身の行動を省みて、無意識の思い込みや排他的な行動に気付く生徒が多く見られた。

これらの活動を通して、生徒は物事を一面的に判断するのではなく、広い視野をもって考えることや、いちど立ち止まって行動を振り返ることの重要性に気付くことができたと考える。特に、進学・就職後の人間関係を想定し、「自分はどのような行動を取るべきか」「何を大切に人と関わるべきか」を具体的に言語化する生徒が見られた点は、本時の目標に照らしても大きな成果である。

まとめでは自己評価を行わせ、本時の学びを振り返らせたが、振り返りの時間が十分であったとは言えず、学習内容をさらに深める余地が残った。今後は活動量を精選し、振り返りの時間を確保することで、生徒の学びをより確かなものにしていきたい。

本時の授業を通して、生徒は多文化共生を「理解するもの」から「自分の行動や責任として捉えるもの」へと発展させることができた。今後も、生徒が自身の進路や生活と結び付けながら、多文化社会を主体的に生きる力を育成できるよう、授業改善に継続して取り組んでいきたい。

5. 使用教材

資料 1

ワークシート

1月20日(火) 4限目 ホームルーム活動

()年 ()組 ()番 氏名()

※ このワークシートは報告会の資料に用いる可能性があります。その場合は原文ママで用いるので、誤字脱字等に気を付けて記入してください。

ラオスの教育事情から考える多文化共生とその方法 ～言葉の壁と私たちの中にある偏見と向き合う～

記入3 活動②「私たちの仲間」で感じたことを記入しよう。

- ねらい
- 1 ラオスと日本の教育事情とその課題を理解し、多文化共生に必要な知識を身に付ける。
 - 2 就職・進学し新たな人間関係が形成される中で、多文化共生の社会で自身がどのような貢献ができるかを考える。
 - 3 多文化社会を生きる上での自身の責任の重さを自覚する。

目標 ◎

Question この表の数字は何を表しているのだろう？

	日本	ラオス	エルサルバドル	ケニア
男性	99.9%	86.3%	91.9%	87%
女性	99.9%	82.1%	88.3%	86%

記入4 活動②「私たちの仲間」を受けて私たちにできることは何かを考えてみよう。

--

Answer ()

記入5 活動①、②で考えた私たちにできること(記入2、3)を踏まえ、一番重要視すべきことをグループで話し合ってみよう。

--

国家間の違いについてみてみよう

日本	ラオス	中国
大和民族 96%以上	ラオ族 55%	漢族 92%
琉球民族	カム族 11%	チワン族
アイヌ民族	モン族 8%	満州族
全部で3民族	全部で50民族	全部で55民族
→	→	→多民族国家

記入6 今日の授業で気づいたことや新たに得た視点、授業の感想などを記入しよう。

記入1 活動①「この違いは何を生む？」で感じたことを記入しよう。

記入2 活動①を受けて私たちにできることはないか考えてみよう。

--

シール貼付欄	メモ	
<table border="1"><tr><td> </td></tr></table>		

0001 番号	<p>指令書</p> <hr/> <p>右に書かれている指示を完遂させなさい</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・制限時間 5 分 ・自分たちのグループ以外と会話をしてはいけない。 ・封筒に入っているもの以外の使用は認めない。 ・道具の貸し借りは認めない。 <p>完成したらこの指令所とともに教卓まで提出しなさい。</p>	<p>指令書</p>	番号 0001
0002 番号	<p>指令書</p> <hr/> <p>右に書かれている指示を完遂させなさい</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・制限時間 5 分 ・自分たちのグループ以外と会話をしてはいけない。 ・封筒に入っているもの以外の使用は認めない。 ・道具の貸し借りは認めない。 <p>完成したらこの指令所とともに教卓まで提出しなさい。</p>	<p>指令書</p>	番号 0002
0003 番号	<p>指令書</p> <hr/> <p>右に書かれている指示を完遂させなさい</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・制限時間 5 分 ・自分たちのグループ以外と会話をしてはいけない。 ・封筒に入っているもの以外の使用は認めない。 ・道具の貸し借りは認めない。 <p>完成したらこの指令所とともに教卓まで提出しなさい。</p>	<p>指令書</p>	番号 0003
0004 番号	<p>指令書</p> <hr/> <p>右に書かれている指示を完遂させなさい</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・制限時間 5 分 ・自分たちのグループ以外と会話をしてはいけない。 ・封筒に入っているもの以外の使用は認めない。 ・道具の貸し借りは認めない。 <p>完成したらこの指令所とともに教卓まで提出しなさい。</p>	<p>指令書</p>	番号 0004
0005 番号	<p>指令書</p> <hr/> <p>右に書かれている指示を完遂させなさい</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・制限時間 5 分 ・自分たちのグループ以外と会話をしてはいけない。 ・封筒に入っているもの以外の使用は認めない。 ・道具の貸し借りは認めない。 <p>完成したらこの指令所とともに教卓まで提出しなさい。</p>	<p>指令書</p>	番号 0005
0006 番号	<p>指令書</p> <hr/> <p>右に書かれている指示を完遂させなさい</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・制限時間 5 分 ・自分たちのグループ以外と会話をしてはいけない。 ・封筒に入っているもの以外の使用は認めない。 ・道具の貸し借りは認めない。 <p>完成したらこの指令所とともに教卓まで提出しなさい。</p>	<p>指令書</p>	番号 0006

紙を人数分に等分して切り取ったあと、その紙にグループのメンバーの名前を書け。
※電子デバイスの使用は認めない。

紙を四角形に切り取り、鶴を折れ。
※電子デバイスの使用を認める。

CUT A ROUND PIECE OF PAPER AND DRAW ANPANMAN'S FACE.
※NO ELECTRONIC DEVICES ALLOWED DURING WORK.

CUT A STAR SHAPE OUT OF PAPER AND WRITE THE NAME OF THE PERSON WHOSE BIRTHDAY IS EARLIEST, COUNTING FROM TODAY, INSIDE THE STAR.
※ALLOW USE OF ELECTRONIC DEVICES.


ຕັດຮູບສາມຫຼ່ຽມອອກຈາກເຈ້ຍ ແລະ ຂຽນວັນທີ່ມັນໄວ້ພາຍໃນມັນ.
※ ບໍ່ອະນຸຍາດໃຫ້ໃຊ້ອຸປະກອນເອເລັກໂຕຣນິກໃນເວລາເຮັດວຽກ

ພັບເຈ້ຍໃນຊອງຈົດໝາຍເພື່ອເຮັດເປັນເຮືອບິນເຈ້ຍ.
※ ອະນຸຍາດໃຫ້ໃຊ້ອຸປະກອນເອເລັກໂຕຣນິກໃນຂະນະທີ່ເຮັດວຽກ

○ 多文化共生について理解し、自分でできることを考えよう
異文化理解・多文化共生のためにできること

課題は山積み

- ・教員不足
- ・複式学級の増加
- ・ラオ語授業の押し付け
- ・読書時間の少なさ
- ・都会と田舎での格差



1/1 案件名：初等教育における少数民族児童の指導・学習環境改善事業

山間部の少数民族児童により良い学習環境を！


少数民族児童が多く住む山間部の学校は、複式学級の増加など、独自の課題に直面しています。本事業では、そのような児童が学習しやすい環境を実現するため、**「対称的指導体制」**、**「読」**、**「読」**を実施する計画を行います。VETは村民も参加するVET（職業訓練）を実施し、地域のニーズに合った活動を推進し、学校と地域をつなぐ役割を担います。さらに、本事業で取り組む読書の推進も目指します。さらに、本事業で取り組む読書の推進も目指します。

本事業が達成すれば、ラオ語を指導しない児童もモンゴルの文化に馴染んでいます。現地の先生も、本事業を通じて、少数民族児童の学習環境を改善する役割を担います。VETは村民も参加するVET（職業訓練）を実施し、地域のニーズに合った活動を推進し、学校と地域をつなぐ役割を担います。さらに、本事業で取り組む読書の推進も目指します。さらに、本事業で取り組む読書の推進も目指します。

○ 多文化共生について理解し、自分でできることを考えよう
私たちにできること


- ・情報を集め、現状を正しく理解する
- ・ニーズに合わせた協力を行う
- ・過支援にならないように注意
- ・募金だけが支援の形ではない
- ・誰も取り残さないような配慮
- ・他者への敬意や尊重

→異文化への理解



○ 多文化共生について理解し、自分でできることを考えよう
活動② 私たちの仲間

ルール
会話はせず、無言で活動を行う
仲間を見つけたら、手を取り合ってその場に座る



○ 多文化共生について理解し、自分でできることを考えよう
感じたことを発表しよう

【参考1】 国別・地域別・産業別外国人労働者数

国・地域	労働者数		労働者数		労働者数	
	2015年	2016年	2015年	2016年	2015年	2016年
世界	1,274,328	1,727,221	1,274,328	1,727,221	1,274,328	1,727,221
アジア	443,998	453,544	443,998	453,544	443,998	453,544
中国（香港、マカオを含む）	419,431	397,081	419,431	397,081	419,431	397,081
インド	124,750	191,083	124,750	191,083	124,750	191,083
インドネシア	99,620	98,200	99,620	98,200	99,620	98,200
フィリピン	53,306	52,839	53,306	52,839	53,306	52,839
タイ	131,112	134,977	131,112	134,977	131,112	134,977
ミャンマー	31,810	34,561	31,810	34,561	31,810	34,561
韓国	68,897	67,638	68,897	67,638	68,897	67,638
ドイツ	29,197	29,395	29,197	29,395	29,197	29,395
スリランカ	19,118	20,245	19,118	20,245	19,118	20,245
その他	29,054	31,361	29,054	31,361	29,054	31,361
EU域内	80,416	78,671	80,416	78,671	80,416	78,671
EU域外	12,370	11,517	12,370	11,517	12,370	11,517
その他	133,901	137,927	133,901	137,927	133,901	137,927

【参考4】 外国人労働者数（国別）

国・地域	労働者数		労働者数		労働者数	
	2015年	2016年	2015年	2016年	2015年	2016年
アジア	443,998	453,544	443,998	453,544	443,998	453,544
中国（香港、マカオを含む）	419,431	397,081	419,431	397,081	419,431	397,081
インド	124,750	191,083	124,750	191,083	124,750	191,083
インドネシア	99,620	98,200	99,620	98,200	99,620	98,200
フィリピン	53,306	52,839	53,306	52,839	53,306	52,839
タイ	131,112	134,977	131,112	134,977	131,112	134,977
ミャンマー	31,810	34,561	31,810	34,561	31,810	34,561
韓国	68,897	67,638	68,897	67,638	68,897	67,638
ドイツ	29,197	29,395	29,197	29,395	29,197	29,395
スリランカ	19,118	20,245	19,118	20,245	19,118	20,245
その他	29,054	31,361	29,054	31,361	29,054	31,361
EU域内	80,416	78,671	80,416	78,671	80,416	78,671
EU域外	12,370	11,517	12,370	11,517	12,370	11,517
その他	133,901	137,927	133,901	137,927	133,901	137,927

○ 多文化共生について理解し、自分でできることを考えよう
異文化理解・多文化共生のためにできること
重要なことはなんだろうか？

○ 多文化共生について理解し、自分でできることを考えよう
異文化理解・多文化共生のためにできること

○ 多文化共生について理解し、自分にできることを考えよう

他人ごとではなく、自分事として捉えることが重要
思い込みに注意する

周囲の様子をよく確認しておく
いっぱいいっぱいになりすぎない
広い視野を持つ

いちど立ち止まって考える
自分の意見を押し通しすぎない

→他者や多文化との共生



○ 多文化共生について理解し、自分にできることを考えよう
法律では

第三章 12条

この憲法が国民に保証する自由及び権利は、国民の
不断の努力によってこれを保持しなければならない。

第三章 14条

すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、
性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は
社会的関係において差別されない



○ 多文化共生について理解し、自分にできることを考えよう

自分は自由であると信じている人間はかえって、
不断に自分の思考や行動を点検したり吟味したり
することを怠りがちになるために、実は自分自身
の中に巣食う偏見から最も自由でないことがまれ
ではないのです。逆に、自分が「とらわれている
」ことを痛切に意識し、自分の「偏向」性をい
つも見つけている者は、なんとかして、より自由
に物事を認識し判断したいという努力をすること
によって、相対的に自由になりうるチャンスに恵
まれていることになります。

丸山真男「である」ことと「する」こと「近代社会における制度の考え方」より

○ 多文化共生について理解し、自分にできることを考えよう
まとめ ~社会に出ていくための心得~

① 私たちは「多文化社会」で生きている

日本でも、国籍・言語・宗教・価値観は多様化している
職場・学校・地域で「文化の違い」に出会うのは当たり前
違いは問題ではなく、前提条件である

→そのために異文化を理解することが大切



○ 多文化共生について理解し、自分にできることを考えよう
まとめ ~社会に出ていくための心得~

② 異文化理解とは「正解を知ること」ではない

「自分の文化=こうだ」と決めつけない
自分の常識も、世界では非常識かもしれない
知ろうとする姿勢と分からないことをそのままにしない
勇気を持つ

→自分の目で見て考える
情報をうのみにせず、自分で取捨選択する



○ 多文化共生について理解し、自分にできることを考えよう
まとめ ~社会に出ていくための心得~

③ 多文化共生に必要な3つの力

- 気づく力
自分の価値観・無意識の思い込みに気づく
- 伝える力
分かりやすく、丁寧に、自分の考えを伝える
- 聴く力
否定せず、最後まで相手の話を聴く
→自分に余裕を持たせておくことが大切



○ 多文化共生について理解し、自分にできることを考えよう
まとめ ~社会に出ていくための心得~

④ 就職・進学後に起こりうる場面

- ・文化や考え方の違いで戸惑う
- ・言葉がうまく通じない
- ・「なんで分かってくれないの?」と感じる

☝ 「違いがあるのが普通」の考え方



○ 多文化共生について理解し、自分にできることを考えよう
まとめ ~社会に出ていくための心得~

⑤ トラブルを防ぐためにできること

自分の考えを押しつけない
「悪意」ではなく「違い」かもしれないと考える
一人で抱え込まず、周囲に相談する

→多数派に流されず自分の意見をきちんと持つ



○ 多文化共生について理解し、自分にできることを考えよう
まとめ ~社会に出ていくための心得~

⑥ 多文化共生は「特別な人」の話ではない

海外の人だけの問題ではない
年齢・性別・障がい・家庭環境も「多様性」
すべての人が「少数派」になる可能性がある

→周囲をよく見て困り感に気づく
→公平・平等の意識を忘れずに



○ 多文化共生について理解し、自分にできることを考えよう
まとめ ~社会に出ていくための心得~

⑦ これから社会に出るあなたへ

違いを恐れず、向き合える人になってほしい
正解を出すより、対話を続けられることが大切
時にはみんなを引っ張っていきただけの力も重要

સરળબંદી こんにちは (サバイディー)
ຂອບໃຈ ありがとう (コップチャイ)



- 多文化共生について理解し、自分にできることを考えよう
まとめ ～社会に出ていくための心得～

⑧ 今日の授業のメッセージ

「違いをなくす」のではなく「**違いと共に生きる**」

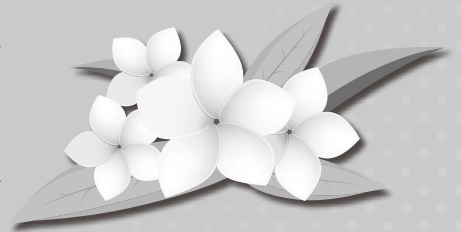
答えが合っているかどうかより、「**考え続けようとする姿勢**」そのものが大切。

一歩踏み出して手を差し伸べる勇気を持つ

6. 参考資料

- ・ JICA学びのプログラム集2024年度JICA中国・四国教師海外研修授業実践報告書（参照日2026年1月8日）
- ・ sva.or.jp/activity/laos/（参照日2026年1月9日）
- ・ 「外国人雇用状況」の届出状況まとめ（令和6年10月末時点） | 厚生労働省（参照日2026年1月9日）
- ・ 三省堂 新 論理国語

先生たちに伝えたい！



青山 航大 (米子市立住吉小学校)

～教師の「使命」とは～

教師の「使命」とは何だろう。それは、世界と自分とのつながりや日常に潜む課題を、グローバルな視点で考える「きっかけ」を子どもたちに与え続けることだと考える。

今回の授業で「水」を題材に取り上げたように、日常の中に学びにつながる教材が数多く存在する。それらにどれだけ目を向け、問いとして子どもたちに提示できるかは、教師自身の意識や経験に大きく左右されるだろう。実践者自身も、まだ知らないことや分からないことが多い。だからこそ、学び続ける姿勢を大切に、日常に目を向けながら広い視野で物事を考えられるような「きっかけ」を与え続けられる教師でありたい。

やっぱり、教師って…おもしろい！！

川崎 悠 (広島市立観音小学校)

食は、その土地の文化を丸ごと体に入れることができる最高の教材。現地の匂いや音、手で食べる感触。子供たちに現地の空気感を届け、ラオスを身近な「自分事」として感じてほしかったため、私はその全てをビデオに収め、食レポとして記録した。食レポは子どもたちにも好評だった。

日々の食事に加え、ラオス駅の片隅で、若者に「一緒に食べよう」と招かれ、気付けば持ち寄ったご飯を囲み、言葉を超えて「食を楽しむ」ことができた温かな時間。一方で、ロンラオ村では鳥の羽を自らの手で抜き、命の温もりが消えていく重みを受け止め、「命をいただく」経験。

食文化という名の教科書には、私たちが決して忘れてはならない、人間本来の豊かさが詰まっていた。

四宮 健 (高松市立円座小学校)

「百聞は一見に如かず」これまで何度も耳にしたり、児童に伝えたりしてきた言葉ではあるが、本研修への参加を通して自分自身が一番強く実感することができた。

現代の社会では、世界の国々が抱える課題、開発途上国が抱える課題など、インターネットや生成AIで調べると簡単に膨大な情報を得ることができるだろう。しかし、実際に現地で生活している人たちの「思い」や「苦勞」、「希望」を語ることは難しいと思う。本研修で実際に現地を訪問すると、自分の既存の知識と同じだったこと、見事に裏切られたことなどさまざまであった。

自分の五感をフルに活かして感じたことをぜひ、児童生徒に伝え、今後の社会について一緒に考えていってほしいと思う。

金井 彩夏（三木町立田中小学校）

ラオスの子どもたちとの交流は、言葉を超えたコミュニケーションの可能性を私に教えてくれた。共にダンスを踊り、ジェスチャーを交えて「ネイルがかわいいね」と微笑みかけてくれる子どもたち。その姿に触れる中で、相手を思いやる気持ちは、言語がなくても確かに伝わるのだということを感じることができた。

しかし、交流が深まるにつれて、相手のこれまでの歩みや、自分自身の教育に対する教育観、互いの文化の背景にある細かなニュアンス。そうした「一步踏み込んだ対話」を求めれば求めるほど、ジェスチャーだけでは越えられない壁に直面した。より深く理解し合いたいと願うとき、言語の習得がいかに切実な手段であるかを、私は実感した。

帰国後、授業実践を構築する中で、子どもたちに届けたいメッセージは明確になった。「勇気を持って行動すれば、文化や言葉が違っててもつながれる楽しさが待っている」そして、「だからこそ、日々の学習は、いつか世界の誰かと深くつながるための確かな力になる」ということだ。

佐藤 郁弥（里庄町立里庄中学校）

今回の教師海外研修を通して、新しいことに挑戦することの大切さに気づくことができた。勤務校を離れ、他国の文化に根ざした教育に触れ、見たり感じたりしたことを普段の授業実践と比較することで、その相違点から多くの学びを得た。また、校種や教科の違う教員たちとの交流は、今まで自分になかった考え方を学ぶ貴重な経験になった。

また、ラオスでの10日間の研修期間の中で、自分の英語力の不足を痛感した。英語は世界の共通語であり、特にインターネット環境が十分でない場所では、直接の対話が学びの深まりを左右することを実感した。より流暢に英語で意思疎通ができていれば、現地の方々との交流を通して、さらに多くの気づきや学びを得られたのではないかと感じている。英語教員として改めて学び直し、指導力の向上に努めたいと強く感じ、今後活かしていきたい。

原田 真木子（和気町立和気中学校）

生徒が初めて学習する言葉や出来事に“おもしろい！”と感じる瞬間はどんな時だろう。毎日悩みながら授業をし、試行錯誤する中で見つけた1つのモットーは「百聞は一見に如かず」である。実際に行って、体験したことを話すと、いつもの何倍もリアルに、そして感情も一緒にと伝えることができるだろう。

例えば、日本と同じく主食が米だから食文化は似ているのでは？という予想は一瞬にして覆された。至る所に香草（パクチー）が入っていたのだ…！それは実際に行って、体験してみないと分からない。

生徒にいろんな考え方や視点を与え続けるために、教員も生徒と一緒に成長し続ける姿勢を！そして先生自身もワクワクするような体験を！

塚本 拓也（神山町神山中学校）

教師海外研修に参加したことで、非常に濃密な教材研究ができた。「JICA事業視察」や「JICA海外協力隊活動視察」など、個人では行きにくい場所を見学でき、そこで活動する方の話を直接聞けたことが大きい。疑問に感じたこともその場ですぐに質問できるため、自分がイメージしている授業と目の前のラオスをつなげやすかった。研修にはJICAラオス事務所の職員やラオ語の通訳者が同行してサポートしてくれるため、異文化での学びに集中できる。また、ラオスの食文化や生活についても日本語で教えてくれ、知識の引き出しも増えた。研修の合間には振り返りの時間もあり、他校種・他教科の教員と意見交換することで学びはさらに深まった。

西村 友貴（山口市立二島中学校）

「経験に勝る知識なし」という言葉を実感したラオス滞在。約1週間の滞在で、ラオス人の心の豊かさに触れ、「貧しい=不幸」という固定観念を見直し、経済的な豊かさだけが幸福ではないと感じた。また、戦争が終わっても不発弾が人々を苦しめる現実から、「終戦=平和」の単純な考えでは足りないと感じた。

新たな視点を獲得し、学びを深めるためには一歩踏み出さなければならない。勇気が必要かもしれない。しかし、踏み出した先に見える世界は、確実に一歩以上の価値があることを、身をもって体感した。

この経験を子どもたちと共有していきたい。子どもたちと共に考え続けられる教員でありたい。その思いがより強くなった教師海外研修であった。

先生方も、一歩踏み出して新しい世界を見てみませんか？

神田橋 知成（山口県立防府西高等学校）

教師海外研修を通して、「ラオス=最貧国」という表面的な認識は大きく揺さぶられ、現地の人々の心の豊かさや強いコミュニティ意識、助け合いの精神に触れることができた。また、研修では常に「Why」を問い続ける環境があり、その中で開発協力の難しさと自分の思考の浅さを自覚し、対話を通して考えを深めることができた。この経験によって、教員として自ら探究し続ける姿勢の重要性を再認識させられるとともに、生徒に探究を教える立場として自身の学びを問い直す契機にもなった。「百聞は一見に如かず」。学びの本質はこれに尽きる。

飛鷹 奏多（愛媛県立北宇和高等学校三間分校）

ちょっと立ち止まって別の視点から物事を捉えてみたり、新しい角度からの発見を得たりする。そんな学びの場を提供するのに「海外」をテーマに扱うのは、「主体的・対話的で深い学び」の推進に最適である。教科や校種関係なく、「日本とは違う」からアプローチし、様々な方向へ派生させていくことができるのもこのプログラムの強みである。自分自身のキャリアアップにもつながり、教材研究や授業のモチベーションを高めていくことができる点から見ても、まわりまわって「生徒の成長」につながっていると感じている。少しでも興味がある先生は、ぜひ参加してみることをお勧めしたい。

授業実践報告書

2025年度 JICA中国・四国 教師海外研修 —ラオス—

2026年3月発行

独立行政法人国際協力機構 中国・四国センター

執筆・作成：2025年度JICA中国・四国 教師海外研修参加教員

指導・監修：山中信幸（開発教育ファシリテーター・

JICA中国・四国 教師海外研修アドバイザー）



**独立行政法人 国際協力機構
中国センター (JICA中国)**

〒739-0046 広島県東広島市鏡山 3-3-1
TEL 082-421-6305 FAX 082-420-8082
<https://www.jica.go.jp/chugoku/>

**独立行政法人 国際協力機構
四国センター (JICA四国)**

〒760-0028 香川県高松市鍛冶屋町 3 番地 香川三友ビル 1 階
TEL 087-821-8824 FAX 087-822-8870
<https://www.jica.go.jp/shikoku/>